

第1次 始良市総合計画 提言集・資料集

県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり

- 総合計画策定における住民意識調査
- 総合計画策定に係る行政座談会
(市長と語る会)
- 始良市総合計画審議会 意見交換会
- まちづくり50人委員会 (全3回)
- アイメール



はじめに



第1次始良市総合計画の「提言集・資料集」をここに刊行します。

本市では、平成24年度から平成30年度までの7年間を計画期間とする、市の最上位計画である「第1次始良市総合計画」の策定に当たり、市民の皆様と一体となった計画づくりとするために、平成22年度からアンケート調査や行政座談会など、各種の取り組みを実施いたしました。

この提言集・資料集は、「総合計画策定における住民意識調査」の集計結果をはじめ、「総合計画策定に係る行政座談会（市長と語る会）」、「始良市総合計画審議会 意見交換会」、「まちづくり50人委員会」および「アイメール」で市民の皆様から寄せられた将来のまちづくりに関するさまざまなご意見やご提言をまとめたものです。

また、これらのご意見やご提言は、総合計画の策定だけでなく、今後のまちづくりの貴重な資料として活用してまいります。

最後に、総合計画策定に係る各種の取り組みに、ご理解、ご協力くださいました市民の皆様および関係各位に対しまして深く感謝申し上げます。

平成24年3月

始良市長 笹山 義弘

目次

総合計画策定における住民意識調査

1 アンケートの概要	2
2 分野別の質問	6
3 住みやすさについての質問	10
4 あなたが考える始良市の将来についての質問	15
5 あなたの暮らしの現状についての質問	30
6 始良市の「市の花」および「市の木」について	37
7 住宅用火災警報器の設置について	37
8 自由意見について	38

総合計画策定に係る行政座談会（市長と語る会）

◇ 行政座談会（市長と語る会）実績	44
◇ 大山地区	45
◇ 漆地区	46
◇ 西浦・新留地区	47
◇ 米丸・白男・北・小川内地区	48
◇ 川東・八幡・中央A・中央B・久末・迫・下久徳地区	49
◇ 竜門地区	50
◇ 北山地区	51
◇ 永原地区	52
◇ 山田地区	53
◇ 錦江地区	54
◇ 三船地区	55
◇ 帖佐地区	56
◇ 柁城・加治木地区	57
◇ 西始良地区	58
◇ 重富地区	59
◇ 建昌・始良地区	60

始良市総合計画審議会 意見交換会

◇ 始良市総合計画審議会意見交換会について	62
◇ 第1グループ	64
◇ 第2グループ	65
◇ 第3グループ	67
◇ 第4グループ	69

第1回 まちづくり50人委員会

◇ 総合計画策定に係るまちづくり50人委員会について	72
◇ 第1回 まちづくり50人委員会について	73
◇ 01 高齢者	74
◇ 02 子育て	76
◇ 03 居住環境	78
◇ 04 防災・防犯	80
◇ 05 産業	82
◇ 06 環境	84
◇ 07 地域づくり	86
◇ 全体討論	89

第2回 まちづくり50人委員会

◇ 第2回 まちづくり50人委員会について	92
第1部 分科会	
◇ 第1グループ	93
◇ 第2グループ	95
◇ 第3グループ	96
第2部 全体会	
◇ 全体討論	99

第3回 まちづくり50人委員会

◇ 第3回 まちづくり50人委員会について	102
第1部 分科会	
◇ 第1分科会	103
◇ 第2分科会	106
◇ 第3分科会	107
◇ 第4分科会	111
第2部 全体会	
◇ 全体討論	118

アイメール

◇ アイメールについて	122
◇ 意見概要	123

総合計画策定における住民意識調査

1 アンケートの概要

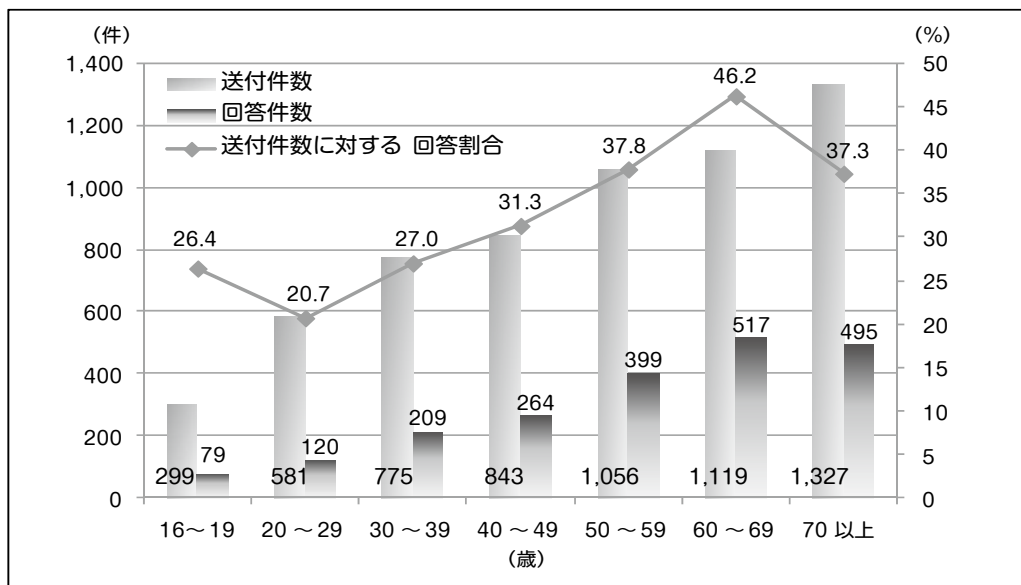
◆アンケートの実施状況

項目	
調査地域・対象	市内に居住する16歳以上
標本数	6,000名
抽出方法	無作為抽出
調査時期	平成22年8月20日～平成22年9月10日
回答者数（有効回答率）	2,098件（35.0%）

◆送付件数、回答者件数

【全体】

年齢 (歳)	送付数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	送付数に対する 回答割合(%)	(参考) 平成22年国勢調査		
					年齢(歳)	人数(人)	割合(%)
16～19	299	5.0	79	26.4	15～19	3,896	6.1
20～29	581	9.7	120	20.7	20～29	6,847	10.7
30～39	775	12.9	209	27.0	30～39	8,680	13.5
40～49	843	14.1	264	31.3	40～49	8,370	13.0
50～59	1,056	17.6	399	37.8	50～59	10,873	16.9
60～69	1,119	18.7	517	46.2	60～69	10,821	16.9
70以上	1,327	22.1	495	37.3	70以上	14,703	22.9
無回答	—	—	15	—	—	—	—
総計	6,000	100.0	2,098	35.0	総計	64,190	—



◆地区別（地区無回答は除く）

【加治木】

年 齢 (歳)	送付数 (件)	割 合 (%)	回答数 (件)	送付数に対する 回答割合(%)	(参考) 平成22年国勢調査		
					年齢(歳)	人数(人)	割合(%)
16～19	97	5.2	27	27.8	15～19	1,210	6.2
20～29	190	10.2	39	20.5	20～29	2,029	10.5
30～39	235	12.6	66	28.1	30～39	2,469	12.7
40～49	248	13.3	81	20.6	40～49	2,398	12.4
50～59	340	18.3	124	36.5	50～59	3,295	17.0
60～69	355	19.0	167	47.1	60～69	3,304	17.0
70以上	401	21.4	143	35.7	70以上	4,705	24.2
総 計	1,866	—	647	34.7	総 計	19,140	—

【始 良】

年 齢 (歳)	送付数 (件)	割 合 (%)	回答数 (件)	送付数に対する 回答割合(%)	(参考) 平成22年国勢調査		
					年齢(歳)	人数(人)	割合(%)
16～19	190	5.0	48	25.3	15～19	2,416	6.2
20～29	351	9.2	74	21.1	20～29	4,282	11.1
30～39	509	13.3	135	26.5	30～39	5,552	14.4
40～49	555	14.5	166	29.9	40～49	5,343	13.8
50～59	659	17.2	255	38.7	50～59	6,541	16.9
60～69	717	18.7	321	44.8	60～69	6,524	16.9
70以上	850	22.2	319	37.5	70以上	8,007	20.7
総 計	3,831	—	1,318	34.4	総 計	38,665	—

【蒲 生】

年 齢 (歳)	送付数 (件)	割 合 (%)	回答数 (件)	送付数に対する 回答割合(%)	(参考) 平成22年国勢調査		
					年齢(歳)	人数(人)	割合(%)
16～19	12	4.0	4	33.3	15～19	270	4.4
20～29	40	13.2	6	15.0	20～29	536	8.8
30～39	31	10.2	7	22.6	30～39	659	10.8
40～49	40	13.2	13	32.5	40～49	629	10.3
50～59	57	18.8	16	28.1	50～59	1,037	17.0
60～69	47	15.5	25	53.2	60～69	993	16.2
70以上	76	25.1	28	36.9	70以上	1,991	32.6
総 計	303	—	99	32.7	総 計	6,115	—

◆回答者属性

【性別】

項目	人数(人)	割合(%)	平成22年国勢調査(*1)		
			人数(人)	割合(%)	
性別	男性	885	42.2	29,311	45.7
	女性	1,169	55.7	34,879	54.3
	無回答	44	2.1	64,190	—

(*1) 15歳以上

【世帯構成(同居者について)】

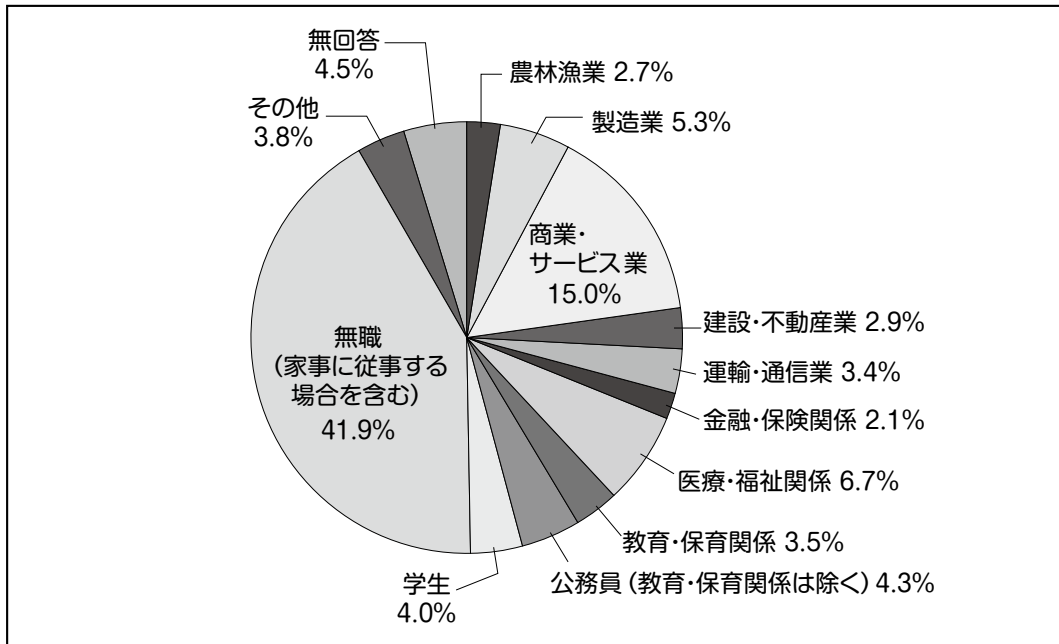
項目	割合(%)
1 未就学児がいる世帯	6.7
2 小学生がいる世帯	8.5
3 中学生がいる世帯	7.7
4 高校生がいる世帯	9.2
5 大学生がいる世帯	5.9
6 16歳以上～65歳未満がいる世帯(4、5の対象者を除く)	62.3
7 65歳以上がいる世帯	36.1
8 単身世帯	8.1

【居住歴について】

項目	人数(人)	割合(%)
1 始良市に生まれてからずっと住んでいる	294	14.0
2 始良市出身だが、始良市以外での居住経験がある	568	27.1
3 県内の他市町村から転入してきた	968	46.1
4 県外から転入してきた	240	11.4
5 無回答	28	1.3

【就業状況について(産業・業種別)】

項目	人数(人)	回答者全体に占める割合(%)	(参考)平成17年国勢調査	
			人数(人)	割合(%)
1 農林漁業	56	2.7	1,689	5.1
2 製造業	112	5.3	3,640	11.1
3 商業・サービス業	314	15.0	12,870	39.2
4 建設・不動産業	61	2.9	3,262	9.9
5 運輸・通信業	72	3.4	2,467	7.5
6 金融・保険関係	43	2.1	666	2.0
7 医療・福祉関係	140	6.7	4,355	13.2
8 教育・保育関係	74	3.5	2,079	6.3
9 公務員(8の教育・保育関係は除く)	91	4.3	1,843	5.6
10 学生	83	4.0	—	—
11 無職(家事に従事する場合を含む)	878	41.9	—	—
12 その他	79	3.8	—	—
13 無回答	95	4.5	—	—



アンケート概要について

1 送付状況について

無作為抽出による送付対象者で最も多かった年代は70歳以上で22.1%、次いで60代が18.7%となっている。

2 回答者について

- ① 男女比は男性42.2%、女性55.7%となっている。
- ② 送付数に対し回答者の多かった年代は60代で46.2%、次いで50代の37.8%となっている。
- ③ 世帯構成については、65歳以上の同居者がいる者の割合が35%を超えている。
- ④ 就業状況等については、年金受給者を含む無職が41.9%と最も多く、次いで商業・サービス業が15.0%となっている。

2 分野別の質問

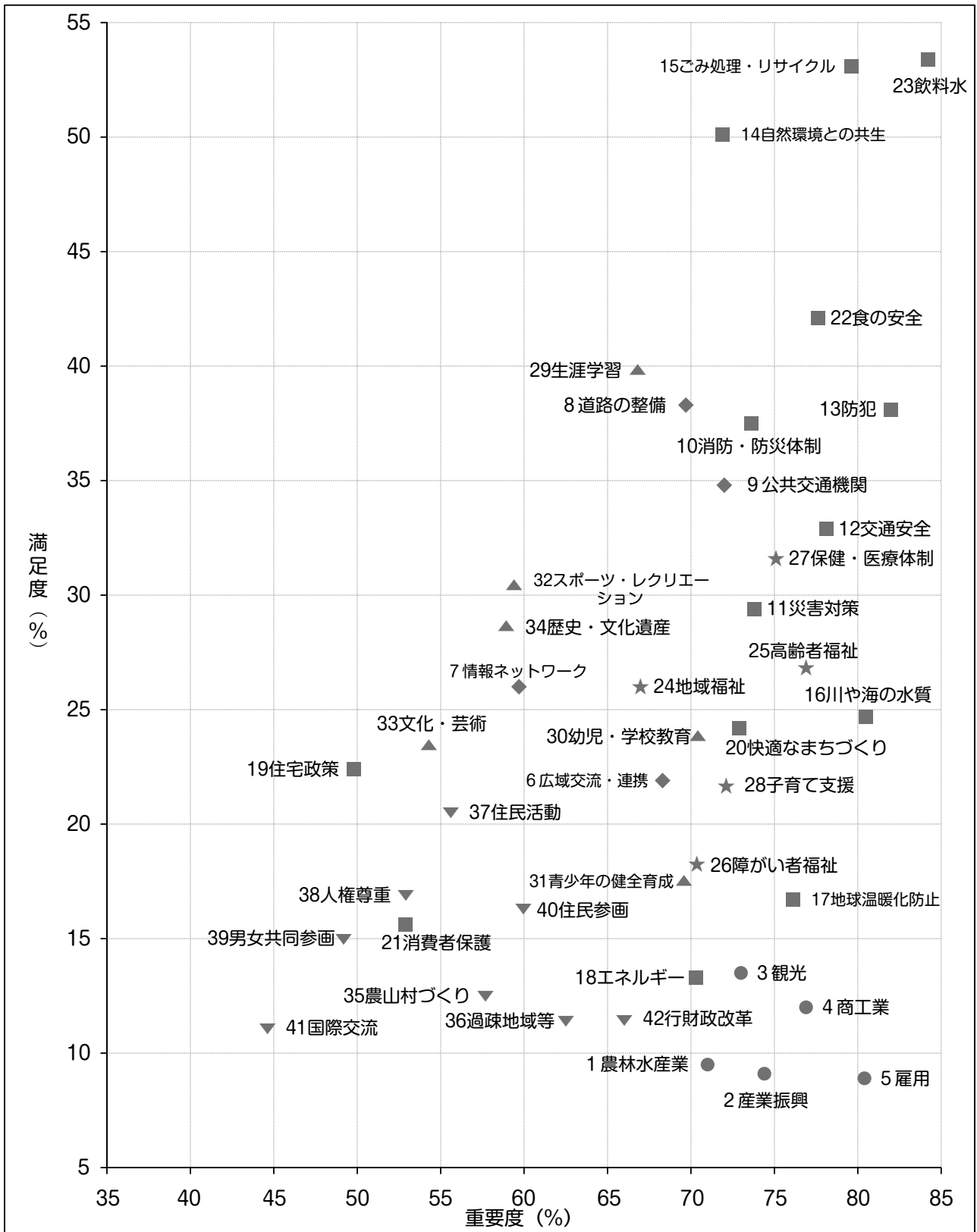
問2-1 始良市について「現状の満足度」と「今後の重要度」をおたずねします。

以下の項目について、現在どの程度満足していますか。また、どの程度重要だと思いますか。

	項目	内容
産業の振興	1 農林水産業の振興	担い手・後継者の育成、農業生産基盤の整備など。
	2 産業振興	新しい分野の産業や企業の育成、誘致、立地促進など。
	3 観光	地域の名称や特産品などの観光資源の活用や情報発信など。
	4 商工業	地域の中小企業や商店街の活性化、経営の近代化促進など。
	5 雇用	相談・情報提供の充実、雇用創出、福利厚生の上昇促進など。
整備ほか 交通通信体系の	6 広域交流・連携	環境や防災など近隣市町村等とのさまざまな交流・連携など。
	7 情報ネットワーク	情報ネットワークの整備・活用、インターネットの普及・活用、携帯電話の利用エリア拡大、情報教育の推進など。
	8 道路の整備	国道・県道・市道の整備など。
	9 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通機関の利用のしやすさなど。
生活環境の整備	10 消防・防災体制の充実	消防・救急体制の充実、自主防災組織の育成など。
	11 災害対策	洪水や土砂災害などに備える堤防や砂防ダムなどの施設整備や、自然災害による被害を最小限に抑えることなど。
	12 交通安全	交通ルールが守られ、誰もが安心して道路を通行できる環境など。
	13 防犯	犯罪などに対する不安を感じることなく安心して生活できることなど。
	14 自然環境との共生	身近に触れ合うことができる豊かな自然環境があることなど。
	15 ごみ処理対策・リサイクル	ごみの分別、減量化・再資源化の促進等、リサイクルなど。
	16 川や海の水質	汚水処理施設の充実、川や海などの水質保全など。
	17 地球温暖化防止取り組み	温暖化の原因となる二酸化炭素などの、企業や家庭からの排出抑制や、森林による吸収など。
	18 エネルギー	省エネルギー意識の上昇や、太陽光発電の普及、新エネルギーの利用促進など。
	19 住宅政策の推進	市営住宅の整備や団地の形成、宅地分譲の推進など。
	20 快適なまちづくり	段差のない公共的施設や、公園や歩道、緑地等の整備など。
	21 消費者保護行政の充実	消費生活相談の充実、消費者教育・啓発の推進など。
	22 食の安全	安心して食べられる食品の安定的な供給など。
23 飲料水の供給	安心して飲める水の安定的な供給など。	

	項 目	内 容
保健および福祉の向上 医療の確保	24 地域福祉の推進	福祉団体の育成、ボランティア活動の促進など。
	25 高齢者福祉の充実	健康・生きがいづくりの推進、介護保険事業の充実など。
	26 障がい者福祉の充実	障がい福祉サービスの充実、社会参加の推進など。
	27 保健・医療体制の充実	生活習慣病の予防の推進、地域医療体制の充実など。
	28 子育て支援の充実	保育所・幼稚園の充実、児童クラブやファミリーサポートセンター等、子育て支援機能の充実など。
教育・文化の振興等	29 生涯学習	誰もが興味や必要に応じて図書館や講座などで学べる環境づくり。
	30 幼児教育・学校教育の充実	施設の整備充実、教育内容・指導方法の充実など。
	31 青少年の健全育成	非行防止活動の推進、社会活動への参加促進など。
	32 スポーツ・レクリエーション活動の充実	施設の整備、各種スポーツ団体等の育成・支援など。
	33 文化芸術活動の充実	音楽、美術などさまざまな芸術や文化との触れ合いなど。
	34 歴史・文化遺産の保存、活用	文化財や伝統行事など文化遺産の保存や地域づくり等への積極的な活用など。
集落の整備、コミュニティ活動等	35 農山村づくり	農山村の生活基盤の整備および住民や訪れた人々にとっての魅力づくりなど。
	36 過疎地域等の振興	過疎地域等の活性化や地域おこしの取り組みを通じた魅力ある地域づくりなど。
	37 住民活動	NPOやボランティア等の活動、自治会等の地域活動などさまざまな社会活動への参加など。
	38 人権尊重	人権教育の推進・啓発、人権相談の充実など。
	39 男女共同参画社会の形成	意識啓発や審議会等への女性の積極的な登用など。
	40 住民参画の促進	広報、広聴活動の充実や住民の声を聴く体制や機会の充実など。
	41 国際交流	さまざまな国の人との相互理解や交流など。
	42 行財政改革の推進	事務事業の見直し、組織・機構の改革、人材育成など。

「現状の満足度」と「今後の重要度」



- 産業の振興 ◆ 交通通信体系の整備、情報化、地域間交流 ■ 生活環境の整備
- ★ 保健および福祉の向上、医療の確保 ▲ 教育文化の振興等
- ▼ 集落の整備、コミュニティ活動、住民参画、行財政改革等

分野別の質問について

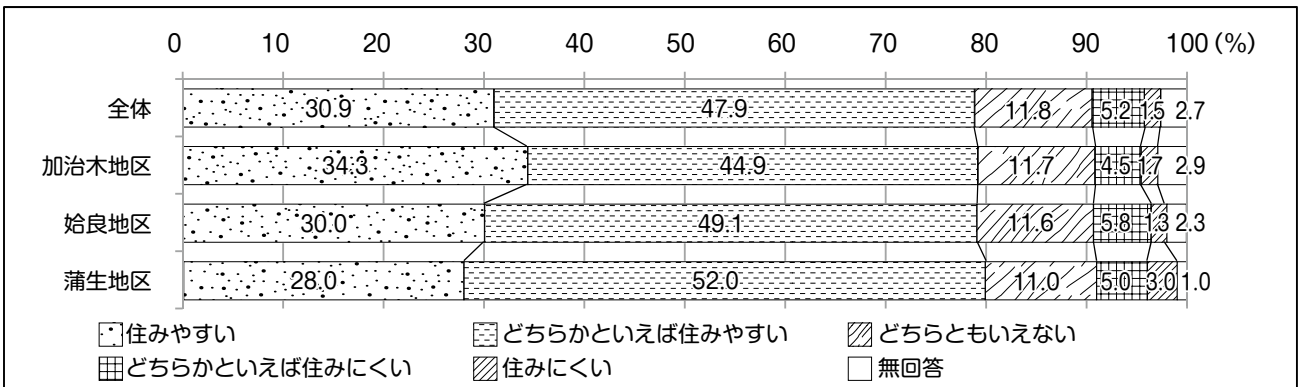
- 重要度と満足度がともに高い項目
「23 飲料水の供給」「15 ごみ処理対策・リサイクル」「14 自然環境との共生」
- 重要度が高く満足度が低い項目
「5 雇用」「4 商工業」「2 産業振興」
- 産業振興の分野については、全体的に重要度は高いと感じているが、満足度は低い数値を示している。
- 生活環境の整備について「16 川や海の水質」「17 地球温暖化防止取り組み」「18 エネルギー」が重要度は高いが満足度が低く、環境問題への関心の高さがうかがえる。
- 保健および福祉の向上、医療の確保については、重要度に比べ満足度が低い項目が多く、特に「26 障がい者福祉の充実」については最も満足度が低い。
- 教育・文化の振興等について「29 生涯学習」の満足度は高い値を示しているが、「30 幼児教育、学校教育の充実」と「31 青少年の健全育成」等、子どもに対する教育関係については満足度が低い数値となっている。

3 住みやすさについての質問

問3-1 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

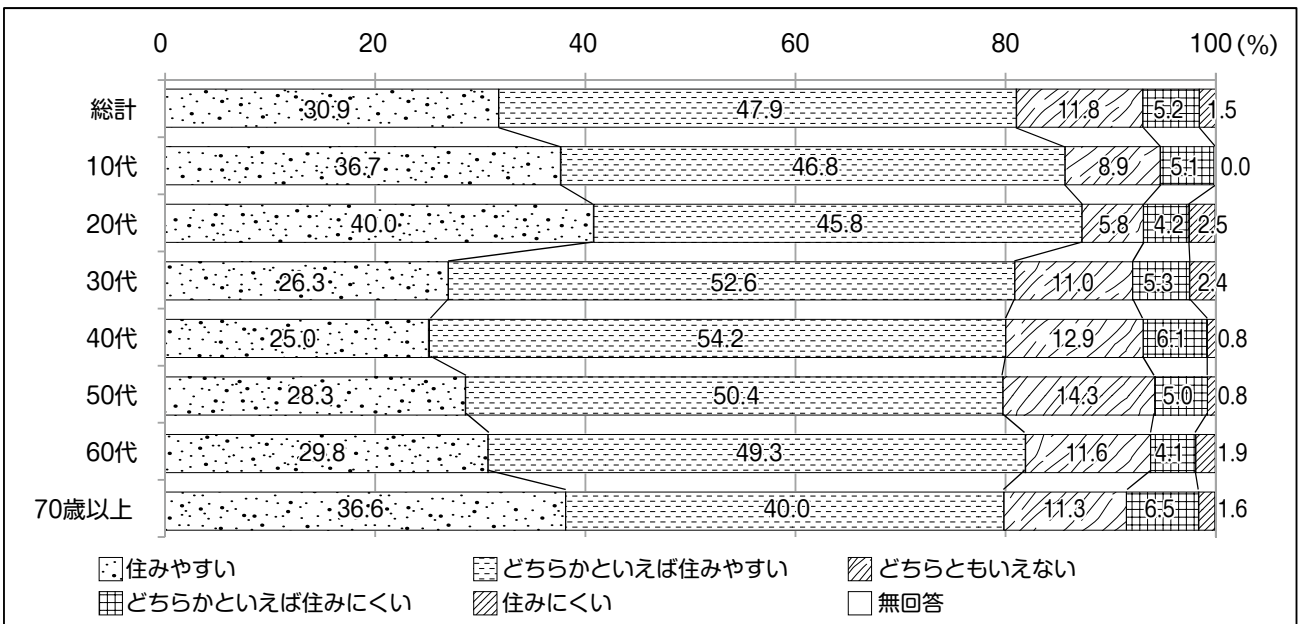
【地区別】

(地区無回答は除く)



【年代別】

(年代無回答は除く)



● 住みやすさ、住みにくさについて (全般)

- 1 現在居住している地域が「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答している割合は78.8%で、「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答している割合は6.7%となっている。
- 2 年代別では、20代の約85%が「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答している。30代は「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」との回答が7.7%とほかの年代に比べて割合が高い。

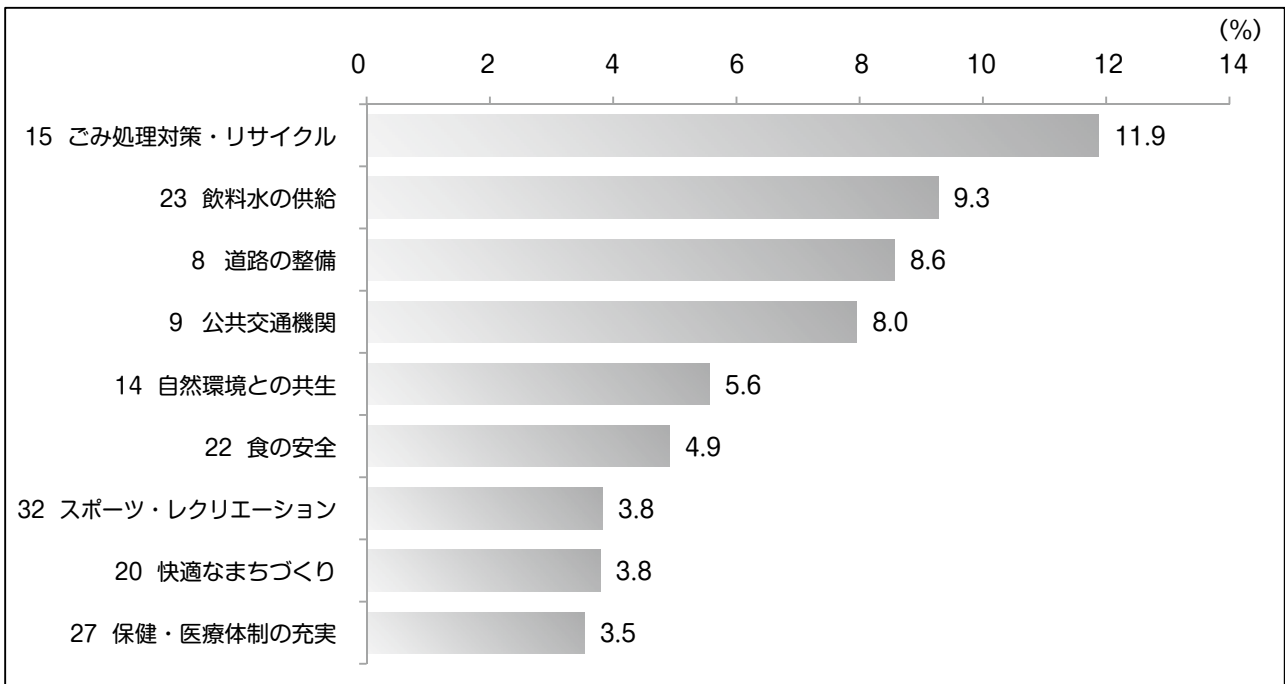
問3-2 現在お住まいの地域において、満足している部分を以下の中から3つまで選んでください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|
| 1 農林水産業の振興 | 16 川や海の水質 | 31 青少年の健全育成 |
| 2 産業振興 | 17 地球温暖化防止取り組み | 32 スポーツ・レクリエーション活動の充実 |
| 3 観光 | 18 エネルギー | 33 文化・芸術活動の充実 |
| 4 商工業 | 19 住宅政策の推進 | 34 歴史・文化遺産の保存・活用 |
| 5 雇用 | 20 快適なまちづくり | 35 農山村づくり |
| 6 広域交流・連携 | 21 消費者保護行政の充実 | 36 過疎地域等の振興 |
| 7 情報ネットワーク | 22 食の安全 | 37 住民活動 |
| 8 道路の整備 | 23 飲料水の供給 | 38 人権尊重 |
| 9 公共交通機関 | 24 地域福祉の推進 | 39 男女共同参画 (*2) 社会の形成 |
| 10 消防・防災体制の充実 | 25 高齢者福祉の充実 | 40 住民参画の促進 |
| 11 災害対策 | 26 障がい者福祉の充実 | 41 国際交流 |
| 12 交通安全 | 27 保健・医療体制の充実 | 42 行財政改革の推進 |
| 13 防犯 | 28 子育て支援の充実 | 43 その他 |
| 14 自然環境との共生 | 29 生涯学習 (*1) | |
| 15 ごみ処理対策・リサイクル | 30 幼児教育・学校教育の充実 | |

(*1) 生涯学習とは：人が生涯にわたり学び、学習の活動を続けていくこと。

(*2) 参画とは：行政施策の決定などに積極的に参加し、意見や提案などを述べること。

【全体】



【校区別の上位項目】

(単位：%)

校区	項目	割合	項目	割合	項目	割合
加治木	9 公共交通機関	11.8	8 道路の整備	10.4	23 飲料水の供給	9.8
柁城	23 飲料水の供給	13.0	9 公共交通機関	11.4	15 ごみ処理・リサイクル	10.7
錦江	23 飲料水の供給	12.0	15 ごみ処理・リサイクル	10.9	9 公共交通機関	10.1
永原	14 自然環境との共生	14.6	22 食の安全	12.2	15 ごみ処理・リサイクル	9.8
竜門	15 ごみ処理・リサイクル	12.8	8 道路の整備	14	14 自然環境との共生	10.3
始良	15 ごみ処理・リサイクル	10.5	8 道路の整備	10.4	9 公共交通機関	8.6
建昌	15 ごみ処理・リサイクル	12.3	9 公共交通機関	11.8	8 道路の整備	8.1
帖佐	15 ごみ処理・リサイクル	14.6	8 道路の整備	8.3	23 飲料水の供給	6.8
重富	15 ごみ処理・リサイクル	14.0	8 道路の整備	7.8	14 自然環境との共生 23 飲料水の供給	7.2
西始良	15 ごみ処理・リサイクル	12.4	14 自然環境との共生 23 飲料水の供給	20	20 快適なまちづくり	8.5
北山	14 自然環境との共生	18.8	23 飲料水の供給	15.6	27 保健・医療体制	12.5
三船	15 ごみ処理・リサイクル	19.0	14 自然環境との共生	12.7	23 飲料水の供給	7.0
山田	23 飲料水の供給	13.6	15 ごみ処理・リサイクル	11.4	14 自然環境との共生 16 川や海の水質	9.1
蒲生	23 飲料水の供給	15.8	22 食の安全	9.9	15 ごみ処理・リサイクル	7.2
漆*	自然環境との共生		飲料水の供給		食の安全	
西浦*	自然環境との共生		飲料水の供給		食の安全	
新留*	自然環境との共生		道路の整備、公共交通機関、ごみ処理・リサイクル、川や海の水質、食の安全、飲料水の供給、福祉サービス、スポーツ・レクリエーション			
大山*	自然環境との共生		ごみ処理・リサイクル		食の安全	

*漆、西浦、新留、大山については、「過疎地域および中山間地域における住民意識調査」より上位の項目のみ抜粋。

【年代別の上位項目】

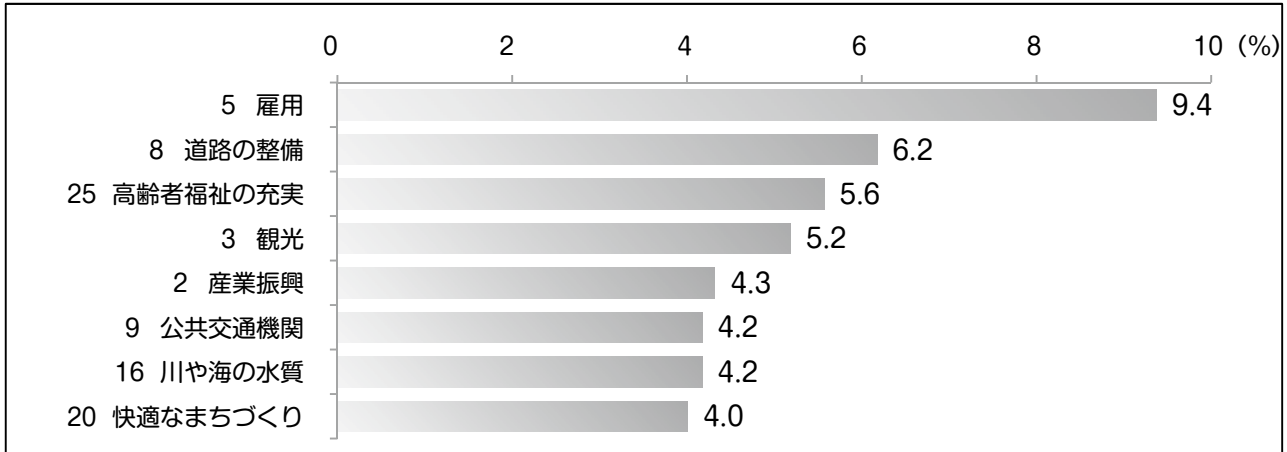
(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	9 公共交通機関	8.9	22 食の安全	8.3	32 スポーツ・レクリエーション	7.8
20代	8 道路の整備	10.8	22 食の安全 23 飲料水の供給	9.7	20 快適なまちづくり	8.7
30代	8 道路の整備	10.5	15 ごみ処理・リサイクル	9.0	9 公共交通機関	8.3
40代	15 ごみ処理・リサイクル	9.4	8 道路の整備	9.1	9 公共交通機関	8.1
50代	15 ごみ処理・リサイクル	12.0	8 道路の整備	9.0	9 公共交通機関	8.3
60代	15 ごみ処理・リサイクル	13.3	23 飲料水の供給	10.6	9 公共交通機関	8.6
70歳以上	15 ごみ処理・リサイクル	14.8	23 飲料水の供給	11.2	8 道路の整備	7.2

問3-3 現在お住まいの地域において、不足している部分を以下の表の中から3つまで選んでください。

* 選択肢は問3-2を参照。

【全体】



【校区別の上位項目】

(単位：%)

校区	項目	割合	項目	割合	項目	割合
加治木	5 雇用	9.0	25 高齢者福祉の充実	7.0	3 観光	6.3
柁城	5 雇用	9.0	4 商工業	7.1	25 高齢者福祉の充実	6.6
錦江	5 雇用	11.3	25 高齢者福祉の充実	7.0	8 道路の整備	6.0
永原	8 道路の整備	14.3	3 観光	9.5	19 住宅政策の推進	7.1
			36 過疎地域等の振興		35 農山村づくり	
竜門	4 商工業	9.5	9 雇用 6 広域交流・連携		7.1	
			20 快適なまちづくり 25 高齢者福祉の充実			
			27 保健・医療体制の充実 36 過疎地域等の振興			
始良	5 雇用	7.4	3 観光	7.0	8 道路の整備	5.6
建昌	5 雇用	9.9	8 道路の整備	6.2	25 高齢者福祉の充実	5.9
帖佐	5 雇用	12.6	8 道路の整備	7.7	9 公共交通機関	7.1
重富	5 雇用	10.1	8 道路の整備	7.7	16 川や海の水質	6.4
西始良	9 公共交通機関	10.8	5 雇用	8.3	15 ごみ処理・リサイクル	7.4
北山	8 道路の整備	20.0	36 過疎地域等の振興	11.4	1 農林水産業の振興	5.7
					2 産業振興 3 観光	
					7 情報ネットワーク	
					10 消防・防災	
					20 快適なまちづくり	
三船	5 雇用	11.0	8 道路の整備	10.5	9 公共交通機関	8.1
山田	9 公共交通機関	17.6	36 過疎地域等の振興	11.8	19 住宅政策の推進	9.8
蒲生	5 雇用	8.8	9 公共交通機関	8.4	36 過疎地域等の振興	7.6
漆*	道路の整備、公共交通機関、防犯、保健・医療体制の充実					
西浦*	公共交通機関		飲料水の供給		過疎地域等の振興	
新留*	公共交通機関		雇用、快適なまちづくり、子育て環境、医療体制			
大山*	道路の整備		公共交通機関		福祉サービス、医療体制	

* 漆、西浦、新留、大山については、「過疎地域および中山間地域における住民意識調査」より上位の項目のみ抜粋。

【年代別の上位項目】

(単位：%)

年代	項 目	割合	項 目	割合	項 目	割合
10代	3 観光 5 雇用	8.8	9 公共交通機関 16 川や海の水質	6.8	13 防犯	4.9
20代	5 雇用	11.0	8 道路の整備	7.1	3 観光	5.8
30代	5 雇用	12.2	28 子育て支援の充実	8.9	3 観光	6.5
40代	5 雇用	11.6	3 観光	6.8	8 道路の整備	5.0
50代	5 雇用	12.3	8 道路の整備	5.3	2 産業振興 4 商工業	5.2
60代	5 雇用	8.4	8 道路の整備	7.1	25 高齢者福祉の充実	5.8
70歳以上	25 高齢者福祉の充実	9.9	8 道路の整備	7.5	5 雇用	5.5

● 「満足している項目」、「不足していると感じる項目」について

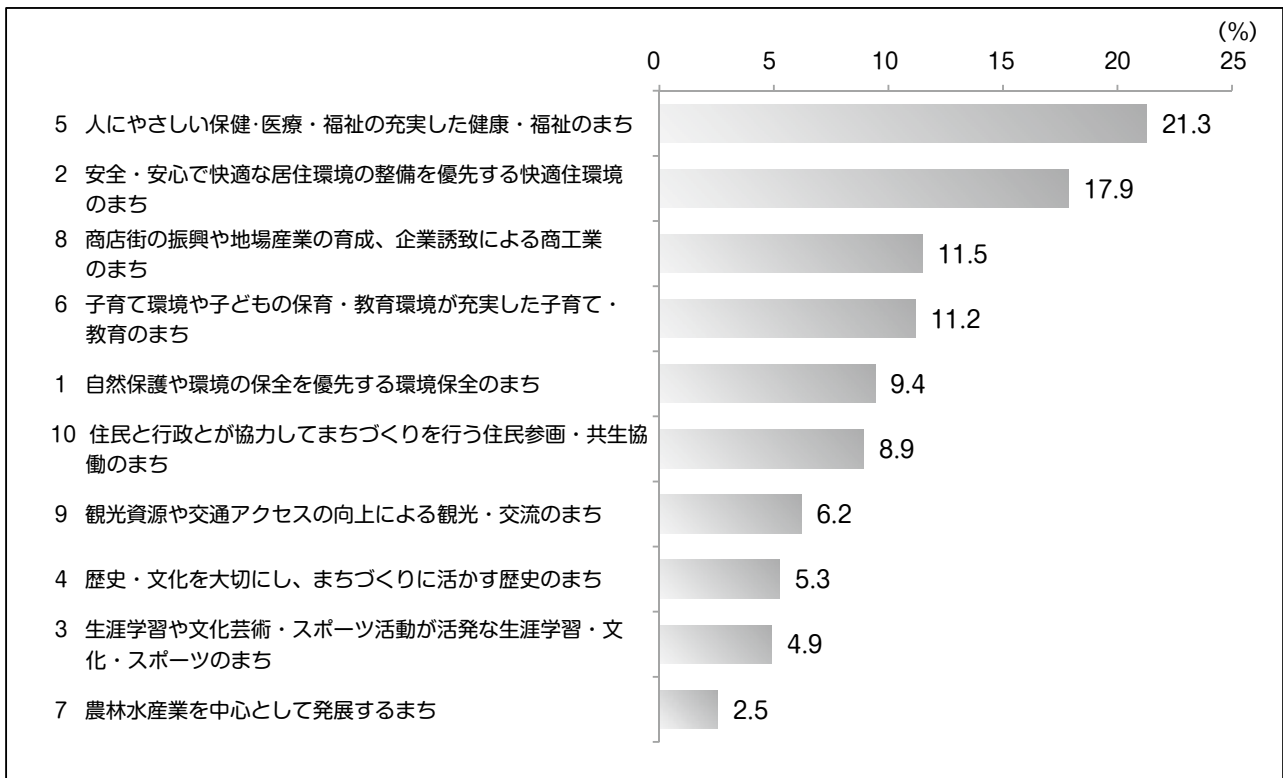
- 満足している項目については「15 ごみ処理対策・リサイクル」が11.9%と最も高く、次いで「23 飲料水の供給」が9.3%、「8 道路の整備」が8.6%、「9 公共交通機関」が8.0%と高い割合を示している。
- 不足していると感じる項目については「5 雇用」が9.4%、「8 道路の整備」が6.2%、「25 高齢者福祉の充実」が5.6%と高い割合を示している。
- 校区別で満足している項目については、加治木校区で「9 公共交通機関」の満足度が最も高くなっていることや、西始良校区で「20 快適なまちづくり」、北山校区で「27 保健・医療体制の充実」が高い割合を示していることが特徴的である。
- 校区別で不足していると感じる項目については、竜門校区で「4 商工業」の不足感が最も高くなっていることや、永原、山田、西浦校区で「36 過疎地域等の振興」、永原、山田校区で「19 住宅政策の推進」、重富校区で「16 川や海の水質」について高い割合を示していることが特徴的である。
- 年代別で満足度の高い項目については、10代は「9 公共交通機関」、20代から30代は「8 道路の整備」、40代から70歳以上は「15 ごみ処理対策・リサイクル」が最も高い割合を示している。
- 年代別で不足していると感じる項目については、10代では「3 観光」と「5 雇用」、20代から60代では「5 雇用」となっており、特に30代と50代で割合が高くなっている。また、70歳以上では「25 高齢者福祉の充実」が最も高い割合を示している。

4 あなたが考える始良市の将来についての質問

(その他および無回答を除く)

問4-1 始良市をどのような特色のあるまちにしたいと思いませんか。

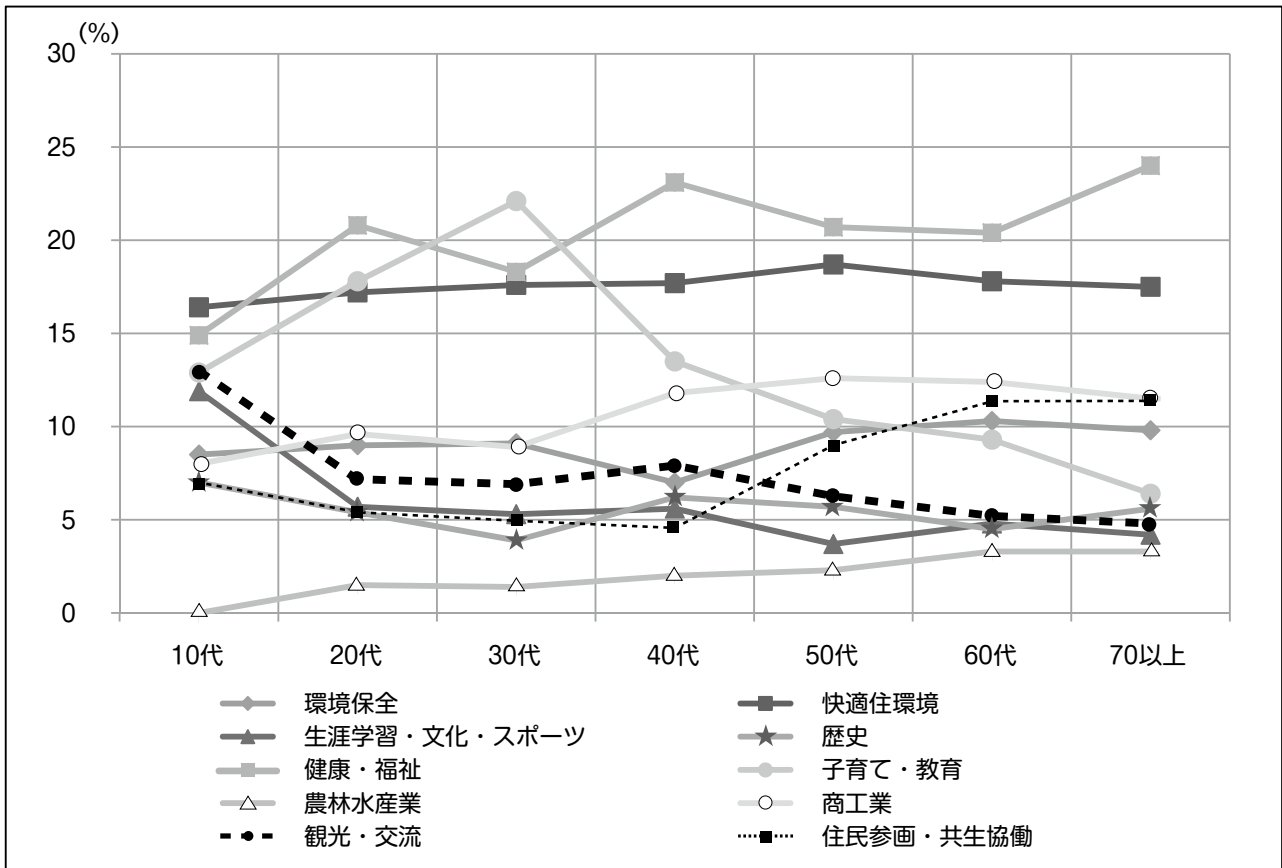
【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	2 住環境	16.4	5 健康・福祉	14.9	6 子育て・教育 9 観光・交流	12.9
20代	5 健康・福祉	20.8	6 子育て・教育	17.8	2 住環境	17.2
30代	6 子育て・教育	22.1	5 健康・福祉	18.3	2 住環境	17.6
40代	5 健康・福祉	23.1	2 住環境	17.7	6 子育て・教育	13.5
50代	5 健康・福祉	20.7	2 住環境	18.7	8 商工業	12.6
60代	5 健康・福祉	20.4	2 住環境	17.8	8 商工業	12.4
70歳以上	5 健康・福祉	24.0	2 住環境	17.5	8 商工業	11.5



【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	5 健康・福祉	20.8	5 健康・福祉	21.8	5 健康・福祉	18.2
2	2 住環境	16.4	2 住環境	18.8	2 住環境	14.9
3	8 商工業	12.8	6 子育て・教育 8 商工業	10.9	6 子育て・教育	12.3

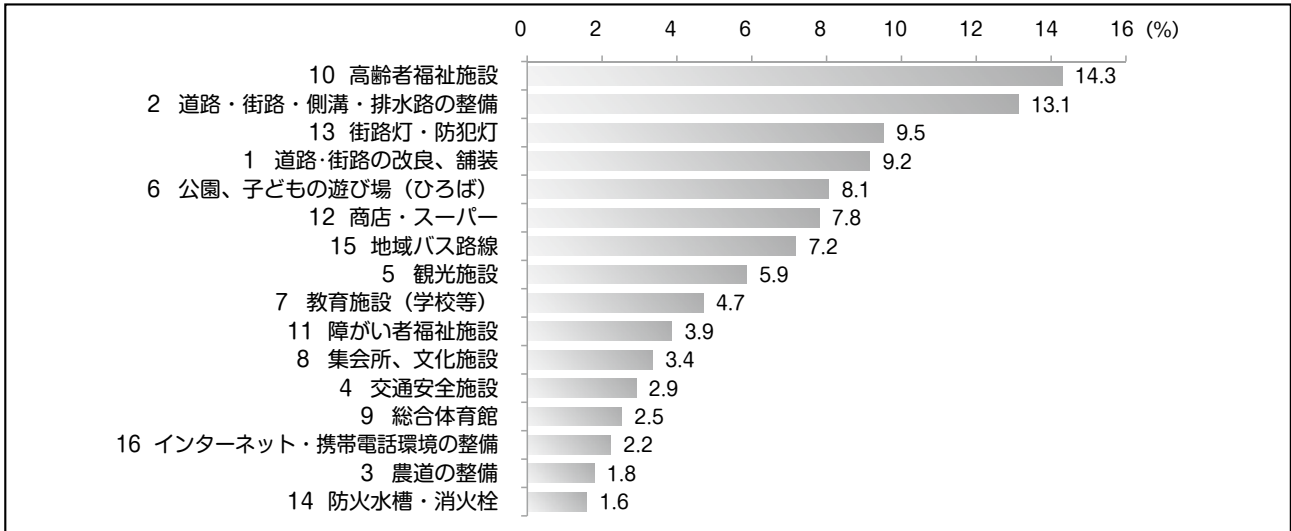
● 始良市の特色について

「5 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」を特色としてほしいとの回答が20代および40代から70歳以上で2割を超え、最も高い割合を示している。なお、10代は「2 安全・安心で快適な居住環境の整備する快適住環境のまち」、30代は「6 子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち」への回答割合が最も高い。

地区別にみても3地区いずれも、年代別と同様「5 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」を特色としてほしいとの回答割合が最も高い。

問4-2 身近な生活環境の中で、どのような施設を充実すべきだと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	6 公園、子どもの遊び場	11.7	1 道路等の改良、舗装	9.8	2 側溝・排水路整備	8.8
	12 商店・スーパー		10 高齢者福祉施設			
20代	12 商店・スーパー	12.6	13 街路灯・防犯灯	12.3	1 道路等の改良、舗装	10.4
30代	6 公園、子どもの遊び場	15.5	13 街路灯・防犯灯	10.1	12 商店・スーパー	9.9
40代	2 側溝・排水路整備	12.0	13 街路灯・防犯灯	11.9	1 道路等の改良、舗装	10.0
50代	2 側溝・排水路整備	13.3	10 高齢者福祉施設	13.1	13 街路灯・防犯灯	11.3
60代	10 高齢者福祉施設	17.9	2 側溝・排水路整備	15.6	13 街路灯・防犯灯	8.9
70歳以上	10 高齢者福祉施設	19.6	2 側溝・排水路整備	14.8	1 道路等の改良、舗装	9.0

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割 合	始 良	割 合	蒲 生	割 合
1	10 高齢者福祉施設	15.7	10 高齢者福祉施設 2 側溝・排水路整備	13.7	10 高齢者福祉施設	12.1
2	2 側溝・排水路整備	12.3	13 街路灯・防犯灯	10.0	15 地域バス路線	10.9
3	6 公園、子どもの遊び場	9.4	1 道路等の改良、舗装	9.8	2 側溝・排水路整備	10.5

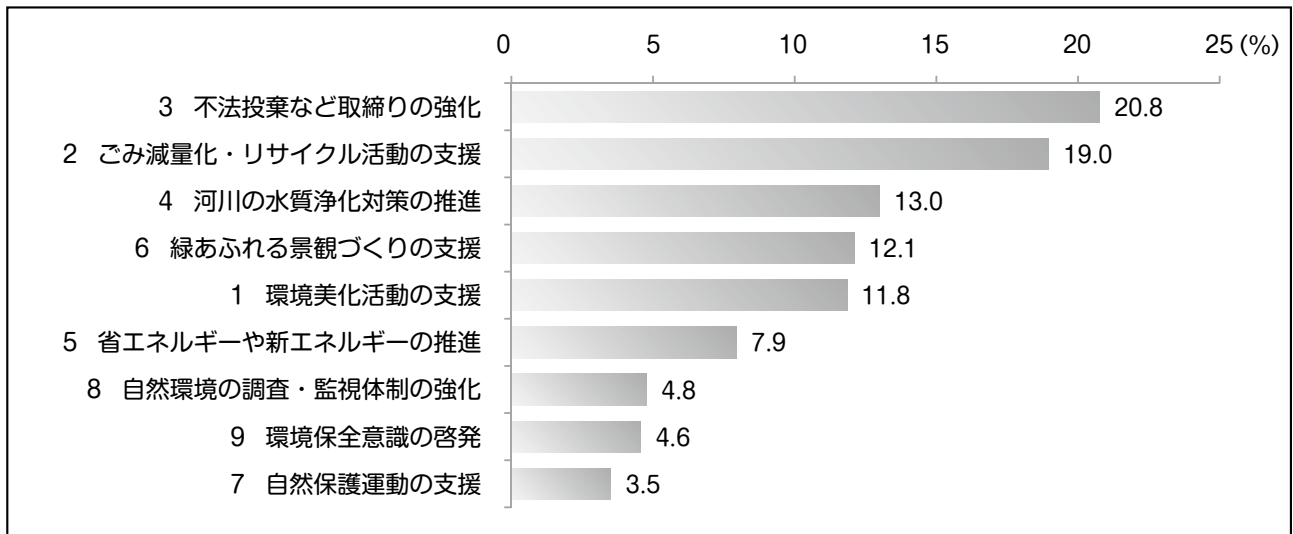
● 施設の整備・充実について

10代、20代では「12 商店・スーパー」の充実が最も高い割合を示している。また、10代は30代と同じく「6 公園、子どもの遊び場（ひろば）」の充実についても高い割合を示している。40代、50代では「2 道路・街路・側溝・排水路の整備」、60代以上は「10 高齢者福祉施設」の充実についてそれぞれ最も割合が高い。

地区別では、加治木地区で「10 高齢者福祉施設」が最も高い割合を示しているが、始良地区では同率で、「2 道路・街路・側溝・排水路の整備」も最も高い割合を示している。

問4-3 地域の自然環境や生活環境を守るため、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	3 不法投棄	21.2	2 ごみ減量化・リサイクル	18.5	6 緑あふれる景観づくり	16.4
20代	2 ごみ減量化・リサイクル 3 不法投棄	21.2	6 緑あふれる景観づくり	13.3	4 河川の水質浄化	12.8
30代	3 不法投棄	18.3	2 ごみ減量化・リサイクル	16.7	4 河川の水質浄化	15.1
40代	2 ごみ減量化・リサイクル	21.2	3 不法投棄	18.1	4 河川の水質浄化	16.2
50代	2 ごみ減量化・リサイクル	19.3	3 不法投棄	19.2	6 緑あふれる景観づくり	13.0
60代	3 不法投棄	22.0	2 ごみ減量化・リサイクル	18.2	1 環境美化活動 4 河川の水質浄化	13.4
70歳以上	3 不法投棄	22.5	2 ごみ減量化・リサイクル	19.0	1 環境美化活動	12.7

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	3 不法投棄	20.4	3 不法投棄	20.6	3 不法投棄	23.7
2	2 ごみ減量化・リサイクル	17.8	2 ごみ減量化・リサイクル	19.7	2 ごみ減量化・リサイクル	17.7
3	6 緑あふれる景観づくり	12.8	4 河川の水質浄化	13.4	1 環境美化活動	14.5

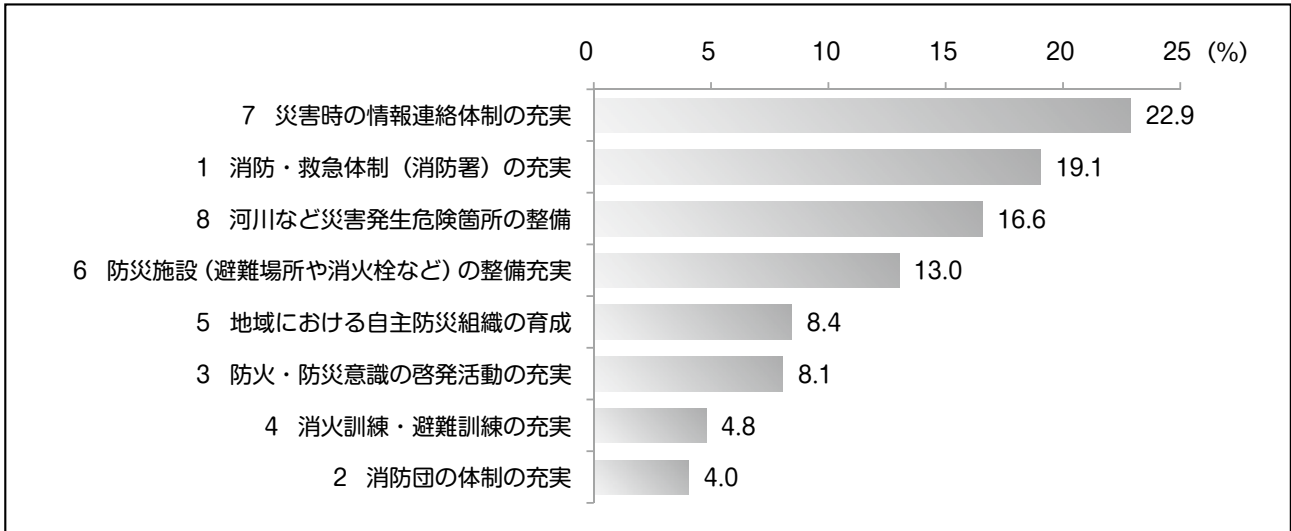
● 環境を守るための取り組みについて

「3 不法投棄など取締りの強化」が高い割合を示している年代が多いが、20、40、50代では「2 ごみ減量化・リサイクル活動の支援」が最も高い割合を示している。

地区別でも、年代別と同様に「3 不法投棄など取締りの強化」が高い割合を示す傾向だが、特に蒲生地区で高い割合を示している。また、始良地区では、僅差で「2 ごみ減量化・リサイクル活動の支援」も高い割合を示している。

問4-4 始良市の消防・防災対策について、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	7 情報連絡体制	21.4	8 危険箇所整備	15.0	1 消防・救急体制（消防署）	14.3
20代	7 情報連絡体制	25.2	1 消防・救急体制	16.5	6 防災施設	15.1
30代	7 情報連絡体制	21.7	1 消防・救急体制(消防署) 8 危険箇所整備	19.7	6 防災施設	15.4
40代	7 情報連絡体制	22.0	1 消防・救急体制（消防署）	20.7	8 危険箇所整備	18.2
50代	7 情報連絡体制	25.7	1 消防・救急体制（消防署）	17.2	8 危険箇所整備	16.7
60代	7 情報連絡体制	22.5	1 消防・救急体制(消防署) 8 危険箇所整備	18.3	6 防災施設	12.8
70歳以上	7 情報連絡体制	21.9	1 消防・救急体制（消防署）	21.8	8 危険箇所整備	13.7

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	7 情報連絡体制	23.6	7 情報連絡体制	22.7	7 情報連絡体制	22.7
2	1 消防・救急体制（消防署）	19.1	1 消防・救急体制（消防署）	18.9	1 消防・救急体制（消防署）	22.1
3	8 危険箇所整備	17.8	8 危険箇所整備	15.9	8 危険箇所整備	18.2

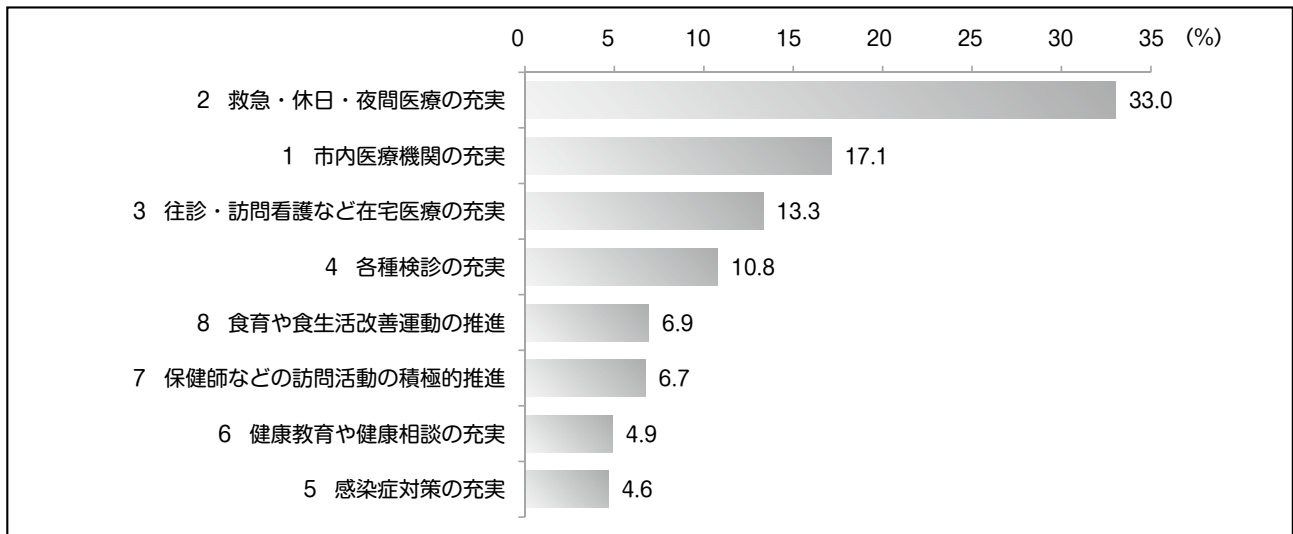
● 消防・防災対策について

全ての年代で、「7 災害時の情報連絡体制の充実」が高い割合を示しているが、40代と70歳以上では「1 消防・救急体制（消防署）の充実」も2割を超える高い割合を示している。

地区別でも同様の傾向だが、蒲生地区では「1 消防・救急体制（消防署）の充実」も2割を超える高い割合を示している。

問4-5 始良市の保健・医療対策について、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	2 救急・休日・夜間医療	36.3	1 市内医療機関	18.5	4 各種検診	11.0
20代	2 救急・休日・夜間医療	35.7	1 市内医療機関	17.6	4 各種検診	14.0
30代	2 救急・休日・夜間医療	41.8	1 市内医療機関	20.9	4 各種検診	12.8
40代	2 救急・休日・夜間医療	38.8	1 市内医療機関	16.5	4 各種検診	12.7
50代	2 救急・休日・夜間医療	33.4	1 市内医療機関	18.8	3 在宅医療	12.7
60代	2 救急・休日・夜間医療	30.4	1 市内医療機関	17.3	3 在宅医療	14.3
70歳以上	2 救急・休日・夜間医療	27.9	3 在宅医療	20.5	1 市内医療機関	14.1

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	2 救急・休日・夜間医療	32.2	2 救急・休日・夜間医療	33.5	2 救急・休日・夜間医療	32.2
2	1 市内医療機関	15.8	1 市内医療機関	17.4	1 市内医療機関	21.3
3	3 在宅医療	13.5	3 在宅医療	13.5	3 在宅医療	11.5

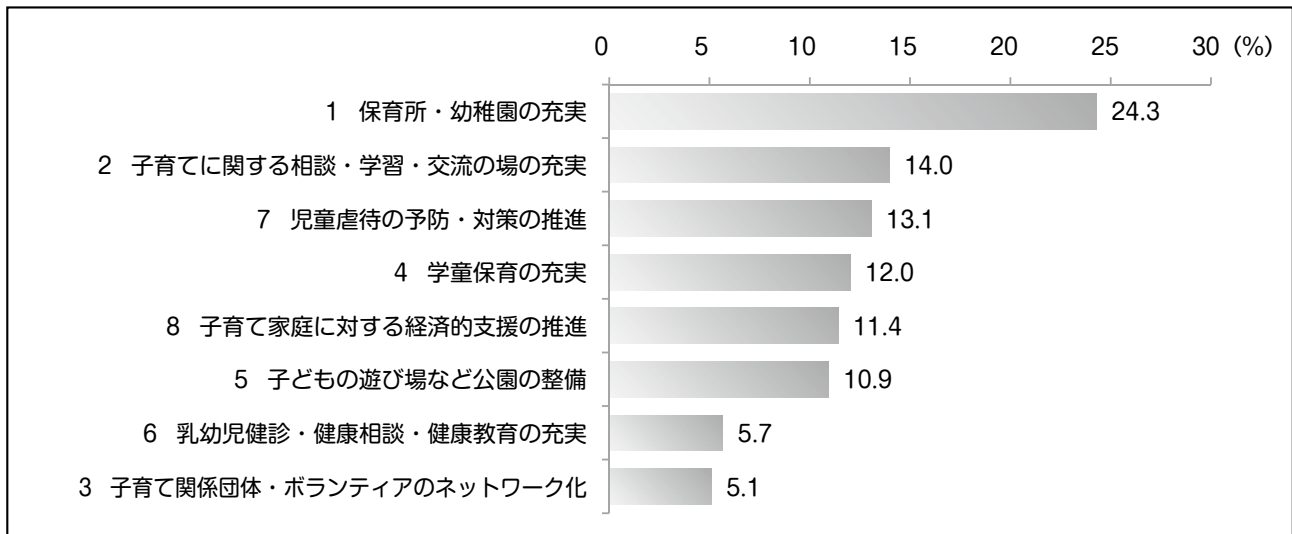
●保健・医療対策について

年代別では「2 救急・休日・夜間医療の充実」が、いずれの年代でも高い割合を示しており、特に30代では4割を超えている。50代以上では在宅医療に対する要望も割合が高く、特に70歳以上では2割を超えている。

地区別では、3地区とも「2 救急・休日・夜間医療の充実」が3割を超えている。また、蒲生地区では「1 市内医療機関の充実」も2割を超える高い割合を示している。

問4-6 始良市の子育て環境を充実するため、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	1 保育所・幼稚園	21.4	7 児童虐待対策	17.2	8 経済的支援	15.2
20代	1 保育所・幼稚園	20.3	8 経済的支援	17.6	7 児童虐待対策	16.3
30代	1 保育所・幼稚園	25.4	8 経済的支援	18.8	5 子どもの遊び場	15.5
40代	1 保育所・幼稚園	17.5	8 経済的支援	17.3	4 学童保育	14.2
50代	1 保育所・幼稚園	24.8	2 子育て相談・交流	17.3	4 学童保育	12.8
60代	1 保育所・幼稚園	26.8	2 子育て相談・交流	15.1	4 学童保育	13.3
70歳以上	1 保育所・幼稚園	26.1	7 児童虐待対策	14.5	2 子育て相談・交流	13.6

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	1 保育所・幼稚園	22.7	1 保育所・幼稚園	25.4	1 保育所・幼稚園	19.8
2	7 児童虐待対策	14.9	2 子育て相談・交流	14.2	2 子育て相談・交流 7 児童虐待対策	15.4
3	2 子育て相談・交流	13.7	7 児童虐待対策	12.1	8 経済的支援	13.7

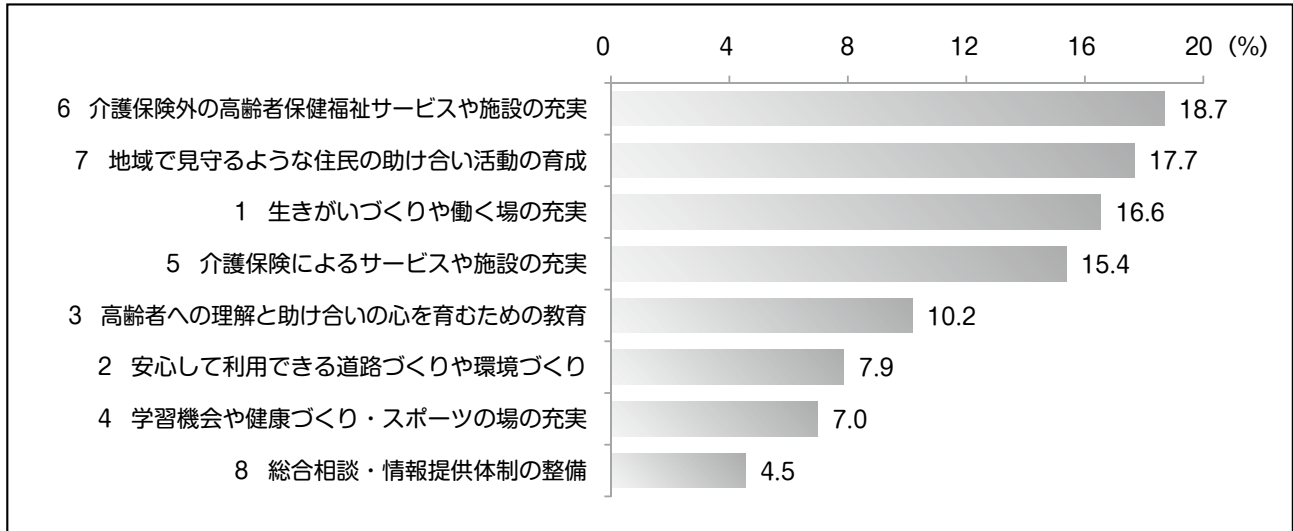
● 子育て環境の充実について

いずれの年代でも「1 保育所・幼稚園の充実」が最も高い割合を示している。また、10代と70歳以上では「7 児童虐待の予防・対策の推進」、20代～40代では「8 子育て家庭に対する経済的支援の推進」が次いで高い割合を示している。

地区別についても、全地区で同様の傾向だが、特に始良地区では「1 保育所・幼稚園の充実」が25%を超え、高い割合を示している。次いで、加治木地区では「7 児童虐待の予防・対策の推進」、始良地区では「2 子育てに関する相談・学習・交流の場の充実」が高い割合を示し、蒲生地区では両者が同率で次点となっている。

問4-7 始良市の高齢者施策について、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	1 生きがいづくり	27.8	7 地域での見守り	16.0	2 道路・環境づくり 6 介護保険外	13.2
20代	1 生きがいづくり	21.0	6 介護保険外 7 地域での見守り	17.4	5 介護保険	12.9
30代	1 生きがいづくり	22.0	6 介護保険外	18.2	7 地域での見守り	17.4
40代	1 生きがいづくり	20.3	6 介護保険外	17.6	5 介護保険による	17.4
50代	6 介護保険外	20.8	1 生きがいづくり	20.1	5 介護保険による	17.0
60代	6 介護保険外	19.3	7 地域での見守り	18.5	1 生きがいづくり	14.4
70歳以上	7 地域での見守り	18.5	6 介護保険外	18.1	5 介護保険による	16.3

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	6 介護保険外	18.3	6 介護保険外	18.8	6 介護保険外	19.3
2	7 地域での見守り	17.8	7 地域での見守り	17.9	1 生きがいづくり	15.5
3	1 生きがいづくり	16.8	1 生きがいづくり	16.5	5 介護保険による	15.0

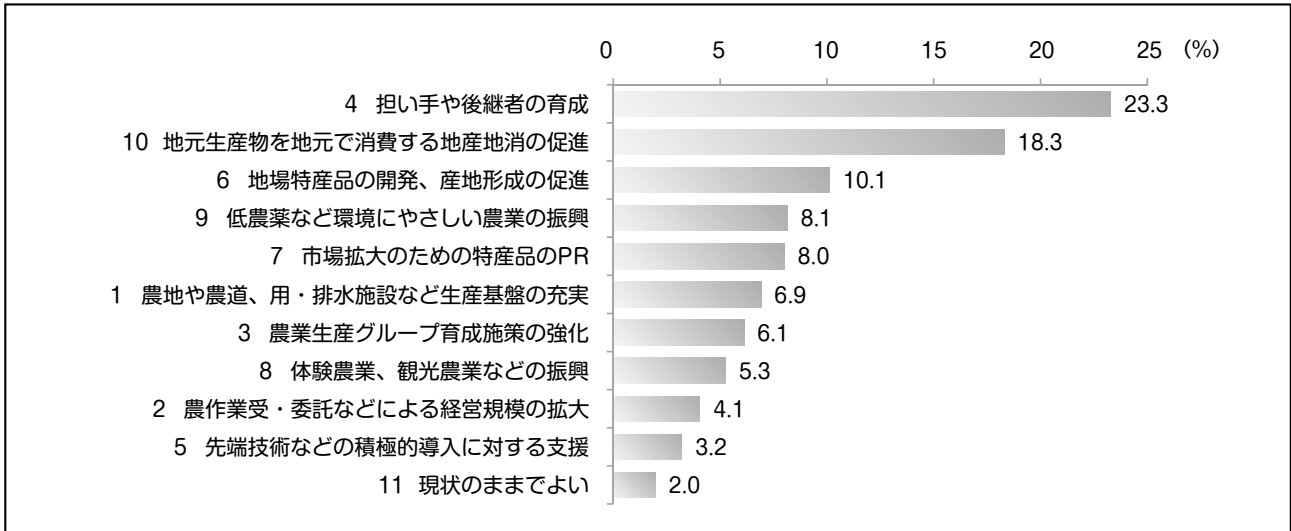
● 高齢者施策について

10代から40代までは「1 生きがいづくりや働く場の充実」が最も高い割合を示しているのに対し、50代、60代では「6 介護保険外の高齢者保健福祉サービスや施設の充実」、70歳以上では「7 地域で見守るような住民の助け合い活動の育成」が最も高い割合を示している。また、「6 介護保険外の高齢者保健福祉サービスや施設の充実」については、全ての年代で高い割合を示している。

地区別についても同様の傾向となっており「6 介護保険外の高齢者保健福祉サービスや施設の充実」が最も高い割合を示し、次いで加治木・始良地区では「7 地域で見守るような住民の助け合い活動の育成」、蒲生地区では「1 生きがいづくりや働く場の充実」が高い割合を示している。

問4-8 始良市の農林水産業の振興について、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	4 担い手や後継者育成	29.5	1 農地、農道、用・排水施設など	10.6	10 地産地消	9.8
20代	4 担い手や後継者育成	21.2	10 地産地消	19.4	7 市場拡大、特産品PR	10.6
30代	4 担い手や後継者育成	27.3	10 地産地消	17.0	9 環境にやさしい農業	10.9
40代	4 担い手や後継者育成	28.2	10 地産地消	14.8	6 地場特産品・産地形成	10.2
50代	4 担い手や後継者育成	22.2	10 地産地消	18.5	6 地場特産品・産地形成	12.0
60代	4 担い手や後継者育成	22.1	10 地産地消	20.5	6 地場特産品・産地形成	10.9
70歳以上	4 担い手や後継者育成	21.0	10 地産地消	19.3	6 地場特産品・産地形成	9.4

【地区別】

(単位：%)

	加治木	割合	始良	割合	蒲生	割合
1	4 担い手や後継者育成	24.9	4 担い手や後継者育成	22.2	4 担い手や後継者育成	26.5
2	10 地産地消	18.6	10 地産地消	18.5	10 地産地消	15.1
3	6 地場特産品・産地形成	11.3	6 地場特産品・産地形成	10.0	1 農地、農道、用・排水施設など	13.5

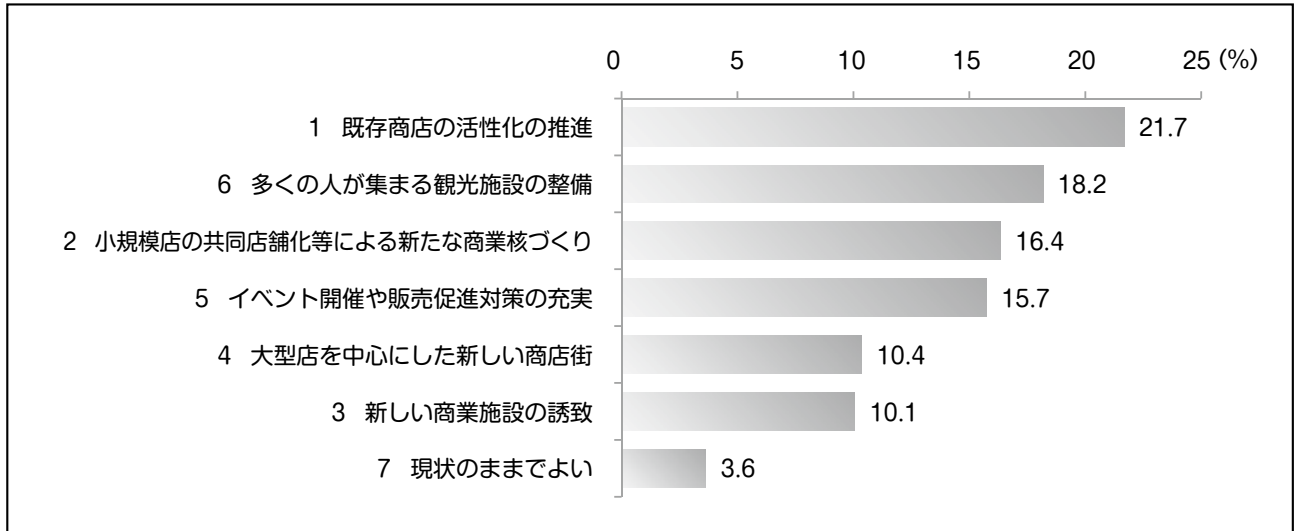
● 農林水産業の振興について

全ての年代で「4 担い手や後継者の育成」が最も割合が高く、次いで10代では「1 農地や農道、用・排水施設など生産基盤の充実」、その他の年代では「10 地元生産物を地元で消費する地産地消の促進」が高い割合を示している。

地区別についても同様の傾向を示しているが、蒲生地区では「1 農地や農道、用・排水施設など生産基盤の充実」も割合が高くなっている。

問4-9 始良市の商業振興について、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	1 既存商店の活性化	18.7	3 新しい商業施設の誘致 5 イベント・販売促進	17.2	6 観光施設	15.7
20代	1 既存商店の活性化	23.2	5 イベント・販売促進	18.8	6 観光施設	18.4
30代	1 既存商店の活性化	20.6	6 観光施設	16.4	5 イベント・販売促進	15.3
40代	1 既存商店の活性化	23.4	5 イベント・販売促進 6 観光施設	15.8	2 新たな商業核づくり	15.4
50代	6 観光施設	19.2	1 既存商店の活性化	18.6	5 イベント・販売促進	16.6
60代	1 既存商店の活性化	22.4	6 観光施設	19.8	2 新たな商業核づくり	19.2
70歳以上	1 既存商店の活性化	23.2	6 観光施設	17.9	2 新たな商業核づくり	17.6

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	1 既存商店の活性化	24.0	1 既存商店の活性化	20.5	1 既存商店の活性化	22.8
2	2 新たな商業核づくり	18.6	6 観光施設	17.6	6 観光施設	22.2
3	6 観光施設	18.5	2 新たな商業核づくり 5 イベント・販売促進	15.5	5 イベント・販売促進	17.2

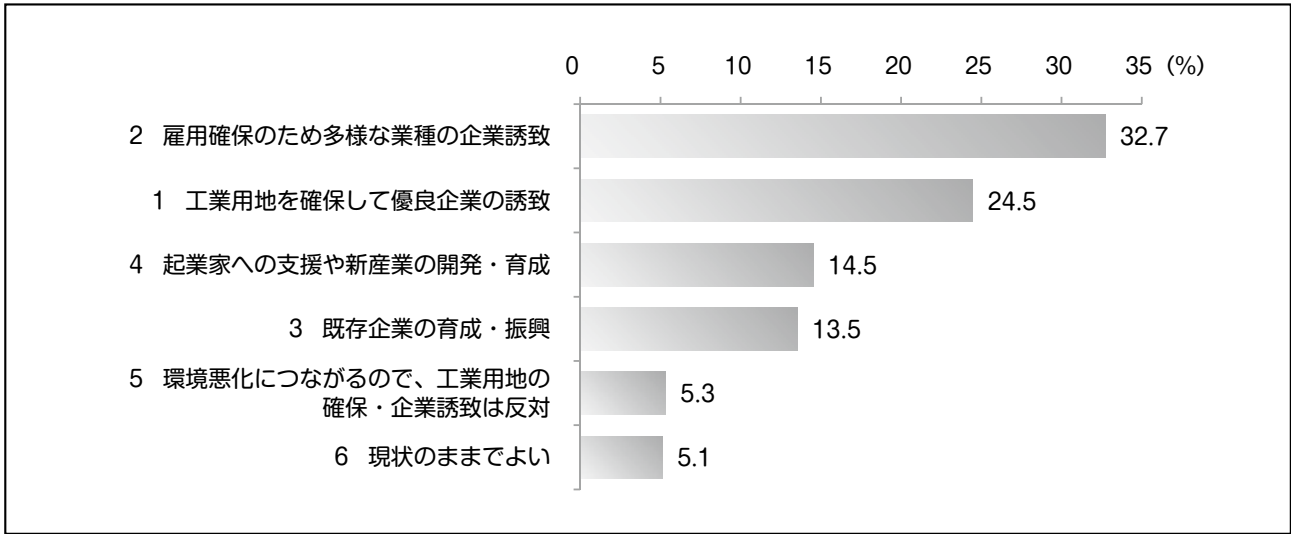
● 商業振興について

50代のみ「6 多くの人が集まる観光施設の整備」が最も高い割合を示しており、他の年代では「1 既存商店の活性化の推進」が最も割合が高くなっている。

地区別でも「1 既存商店の活性化の推進」が高く、特に加治木地区で高い傾向となっている。また、蒲生地区では、僅差で「6 多くの人が集まる観光施設の整備」も高い割合を示している。

問4-10 始良市の工業振興について、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	2 雇用確保と企業誘致	27.1	3 既存企業育成・振興	19.5	1 工業用地・企業誘致	16.1
20代	2 雇用確保と企業誘致	30.9	3 既存企業育成・振興	19.1	1 工業用地・企業誘致 4 起業家への支援等	14.9
30代	2 雇用確保と企業誘致	31.6	1 工業用地・企業誘致	21.5	3 既存企業育成・振興	14.6
40代	2 雇用確保と企業誘致	36.7	1 工業用地・企業誘致	19.4	3 既存企業育成・振興	16.1
50代	2 雇用確保と企業誘致	34.9	1 工業用地・企業誘致	24.6	4 起業家への支援等	14.3
60代	2 雇用確保と企業誘致	33.3	1 工業用地・企業誘致	26.9	4 起業家への支援等	16.0
70歳以上	2 雇用確保と企業誘致	30.0	1 工業用地・企業誘致	28.3	4 起業家への支援等	13.6

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	2 雇用確保と企業誘致	31.2	2 雇用確保と企業誘致	33.4	2 雇用確保と企業誘致	33.1
2	1 工業用地・企業誘致	23.1	1 工業用地・企業誘致	25.2	1 工業用地・企業誘致	22.1
3	4 起業家への支援等	16.4	4 起業家への支援等	13.7	3 既存企業の育成・振興	15.3

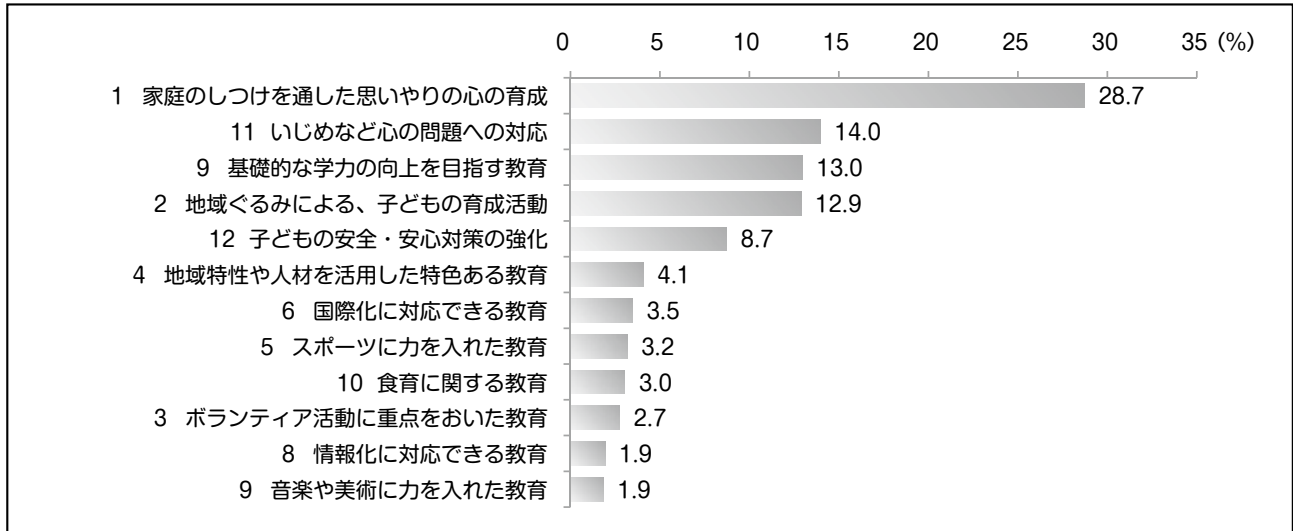
● 工業振興について

いずれの年代でも「2 雇用確保のための多様な業種の企業誘致」が最も割合が高く、10代を除いて3割を超えている。それに付随し、「1 工業用地を確保して優良企業の誘致」が次いで高い割合を示している年代が多く、30代以上では双方合わせて5割を超える。

地区別でも同様の傾向で、いずれの地区でも「2 雇用確保のため多様な業種の企業誘致」が3割を超え、次いで「1 工業用地を確保して優良企業の誘致」の割合が高くなっている。

問4-11 子どもの豊かな人間教育のために、どのようなことが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	11 いじめなど心の問題	21.3	1 家庭のしつけ	16.3	5 スポーツ	12.1
20代	2 地域ぐるみ	21.2	1 家庭のしつけ	20.3	11 いじめなど心の問題	18.6
30代	1 家庭のしつけ	19.1	11 いじめなど心の問題	16.8	2 地域ぐるみ	14.6
40代	1 家庭のしつけ	22.8	11 いじめなど心の問題	15.6	2 地域ぐるみ 9 基礎的な学力向上	13.3
50代	1 家庭のしつけ	28.6	11 いじめなど心の問題	15.5	2 地域ぐるみ	13.1
60代	1 家庭のしつけ	33.2	9 基礎的な学力向上	14.8	2 地域ぐるみ	12.3
70歳以上	1 家庭のしつけ	35.1	9 基礎的な学力向上	15.4	11 いじめなど心の問題	12.2

【地区別】

(単位：%)

	加治木	割合	始良	割合	蒲生	割合
1	1 家庭のしつけ	28.0	1 家庭のしつけ	28.9	1 家庭のしつけ	30.0
2	11 いじめなど心の問題	13.8	11 いじめなど心の問題	14.2	9 基礎的な学力向上	15.8
3	9 基礎的な学力向上	12.7	2 地域ぐるみ	13.4	11 いじめなど心の問題	12.6

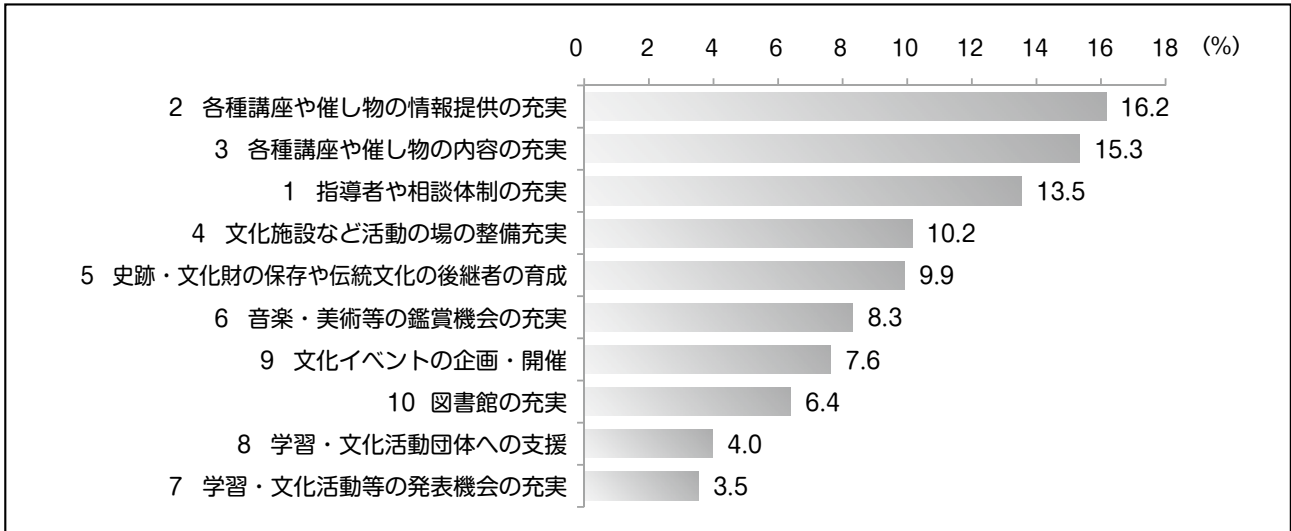
●子どもの人間教育について

10代では「11 いじめなど心の問題への対応」、20代では「2 地域ぐるみによる、子どもの育成活動」が最も多く、30代以上では「1 家庭のしつけを通した思いやりの心の育成」がいずれも最も高い割合を示しており、60代以上では3割を超えている。また、10代では「5 スポーツに力を入れた教育」の割合も高い。

地区別では「1 家庭のしつけを通した思いやりの心の育成」が最も高い割合を示しているが、次いで割合が高いものが、加治木・始良地区では「11 いじめなどの心の問題への対応」、蒲生地区では「9 基礎的な学力の向上を目指す教育」となっている。また、始良地区では「2 地域ぐるみによる、子どもの育成活動」も高い割合を示している。

問4-12 生涯学習活動・文化活動をより活発にしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	10 図書館	15.7	6 鑑賞機会	14.0	1 指導者や相談体制 4 活動の場の整備充実	12.4
20代	3 講座等の内容充実	18.5	2 情報提供	16.4	1 指導者や相談体制	12.8
30代	2 情報提供 3 講座等の内容充実	16.6	1 指導者や相談体制	12.8	9 イベントの企画・開催	10.1
40代	2 情報提供	16.0	3 講座等の内容充実	15.4	4 活動の場の整備充実	11.8
50代	2 情報提供	17.7	3 講座等の内容充実	17.3	1 指導者や相談体制	10.7
60代	2 情報提供	18.1	3 講座等の内容充実	15.2	1 指導者や相談体制	14.6
70歳以上	1 指導者や相談体制	17.0	5 文化財・伝統文化	14.2	2 情報提供	14.1

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	2 情報提供	16.5	2 情報提供	16.3	5 文化財・伝統文化	15.7
2	3 講座等の内容充実	14.9	3 講座等の内容充実	16.0	2 情報提供	12.9
3	1 指導者や相談体制	12.2	1 指導者や相談体制	14.3	1 指導者や相談体制	12.4

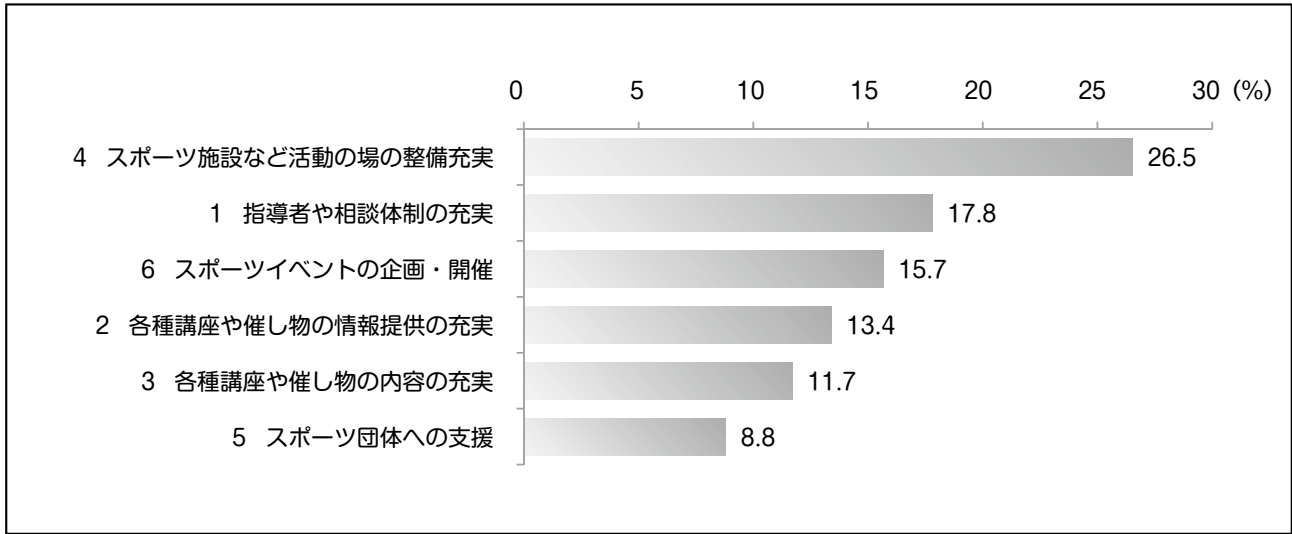
● 生涯学習活動・文化活動の活発化について

10代では「10 図書館の充実」、70歳以上では「1 指導者や相談体制の充実」を求める割合が最も高くなっている。他の年代では「2 各種講座や催し物の情報提供の充実」や「3 各種講座や催し物の内容の充実」を求める割合が高い。また、10代では「6 音楽・美術等の鑑賞機会の充実」、30代では「9 文化イベントの企画・開催」の割合も高くなっている。

地区別では、加治木・始良地区は「2 各種講座や催し物の情報提供の充実」が最も割合が高く、蒲生地区では「5 史跡・文化財の保存や伝統文化の後継者の育成」が最も高い割合を示している。

問4-13 スポーツ活動をより活発にしていくためには、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	4 施設等の整備充実	30.1	6 スポーツイベント	20.3	5 スポーツ団体への支援	18.0
20代	4 施設等の整備充実	29.3	6 スポーツイベント	23.4	1 指導者や相談体制	15.1
30代	4 施設等の整備充実	27.0	6 スポーツイベント	19.2	1 指導者や相談体制	13.5
40代	4 施設等の整備充実	24.2	6 スポーツイベント	20.9	1 指導者や相談体制	14.2
50代	4 施設等の整備充実	27.0	6 スポーツイベント	15.5	1 指導者や相談体制	15.2
60代	4 施設等の整備充実	27.1	1 指導者や相談体制	20.0	6 スポーツイベント	14.7
70歳以上	4 施設等の整備充実	25.8	1 指導者や相談体制	22.7	2 情報提供	12.9

【地区別】

(単位：%)

	加治木	割合	始良	割合	蒲生	割合
1	4 施設等の整備充実	30.9	4 施設等の整備充実	25.2	1 指導者や相談体制 6 スポーツイベント	20.7
2	1 指導者や相談体制	17.5	1 指導者や相談体制	17.7	4 施設等の整備充実	17.8
3	6 スポーツイベント	14.4	6 スポーツイベント	16.2	2 情報提供	14.9

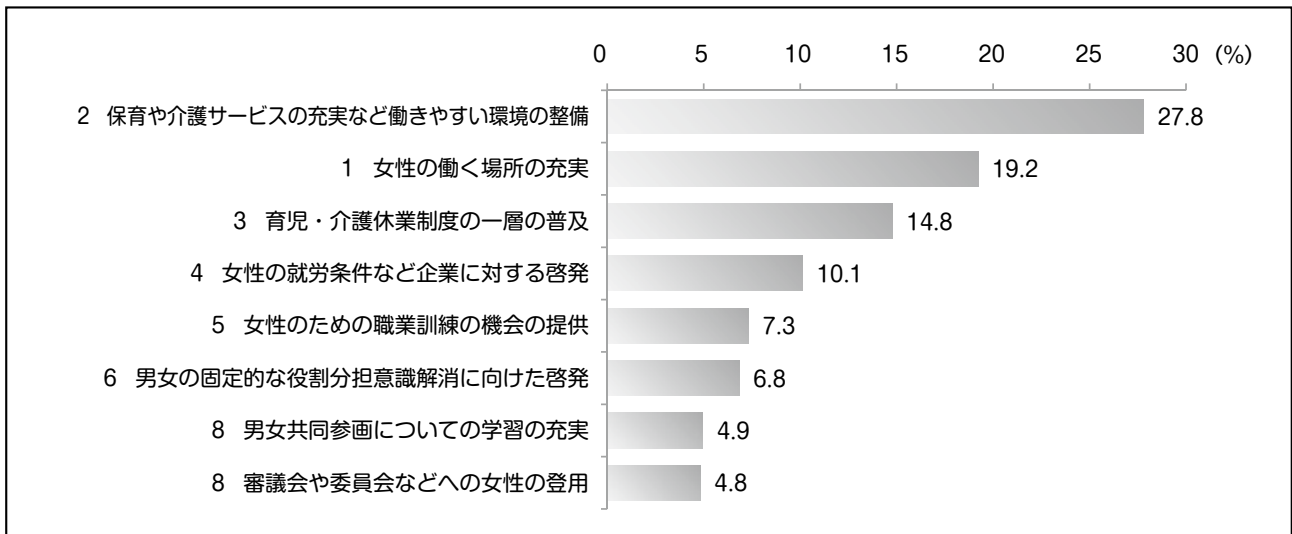
●スポーツ活動の活発化について

いずれの年代でも「4 スポーツ施設など活動の場の整備充実」を求める声が高い。また、「6 スポーツイベントの企画・開催」や「1 指導者や相談体制の充実」を求める声も高い。10代では「5 スポーツ団体への支援」も高い割合となっている。

地区別では、加治木・始良地区が「4 スポーツ施設など活動の場の整備充実」が最も割合が高く、特に加治木地区では3割を超えている。また、蒲生地区では「1 指導者や相談体制の充実」と「6 スポーツイベントの企画・開催」が同率で最も高い割合を示している。

問4-14 男女共同参画社会を形成するため、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】



【年代別】

(単位：%)

年代	項目	割合	項目	割合	項目	割合
10代	3 育児・介護休業制度	23.5	1 女性の働く場所	19.1	4 企業に対する啓発	10.3
20代	3 育児・介護休業制度	28.6	1 女性の働く場所	17.8	4 企業に対する啓発	8.0
30代	1 女性の働く場所	22.0	3 育児・介護休業制度	19.2	4 企業に対する啓発	12.6
40代	1 女性の働く場所	21.0	3 育児・介護休業制度	15.3	4 企業に対する啓発	12.3
50代	1 女性の働く場所	20.5	3 育児・介護休業制度	12.9	4 企業に対する啓発	11.3
60代	1 女性の働く場所	16.8	3 育児・介護休業制度	13.1	4 企業に対する啓発	8.8
70歳以上	1 女性の働く場所	18.8	3 育児・介護休業制度	11.0	4 企業に対する啓発	9.0

【地区別】

(単位：%)

	加 治 木	割合	始 良	割合	蒲 生	割合
1	1 女性の働く場所	17.6	1 女性の働く場所	20.0	1 女性の働く場所	19.0
2	3 育児・介護休業制度	14.6	3 育児・介護休業制度	14.8	3 育児・介護休業制度	15.2
3	4 企業に対する啓発	9.6	4 企業に対する啓発	10.4	4 企業に対する啓発	11.4

● 男女共同参画社会の形成について

10代、20代で「3 育児・介護休業制度の一層の普及」が最も割合が高く、30代以上で「1 女性の働く場所の充実」が最も高い割合を示している。

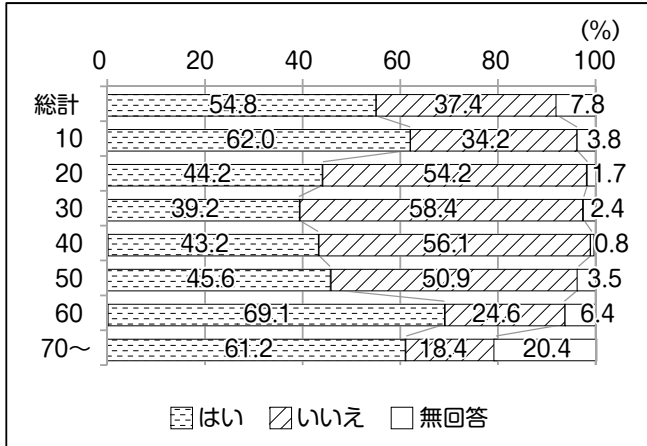
地区別については、いずれの地区でも「1 女性の働く場所の充実」が最も割合が高い。また、年代別、地区別いずれも「2 保育や介護サービスの充実など働きやすい環境の整備」は0%となっている。

5 あなたの暮らしの現状についての質問

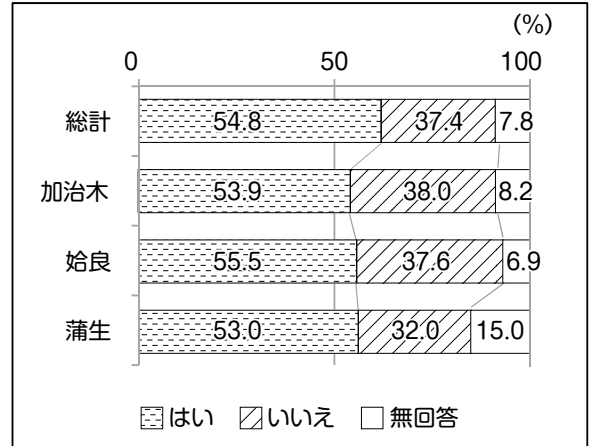
問5-1 あなたの暮らしの現状と考え方についてお答えください

1) 健康保持のために運動などをしていますか。

【年代別】

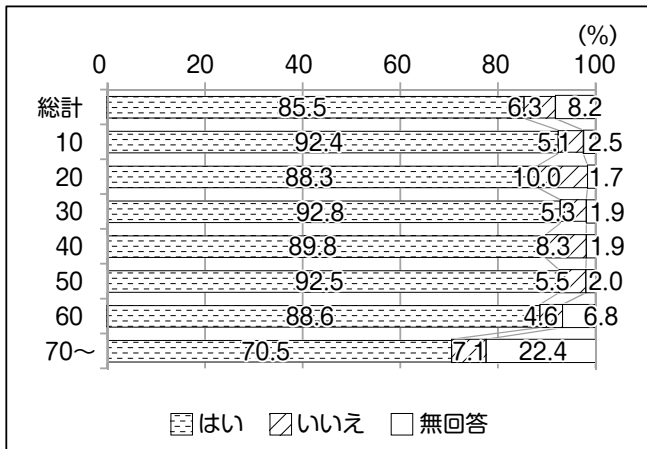


【地区別】

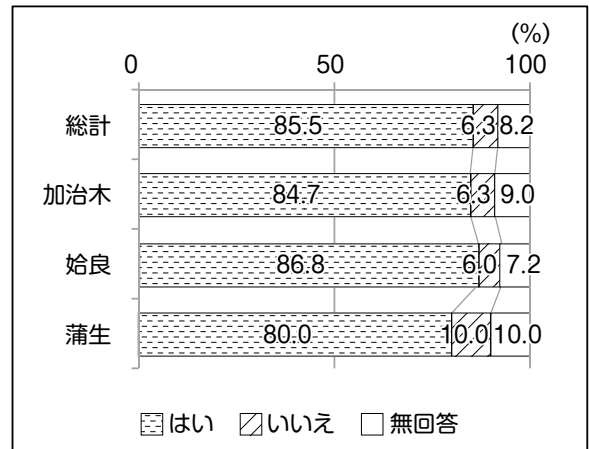


2) 日頃、家族と話をしたり、一緒に食事をしたりする時間を持っていますか。

【年代別】

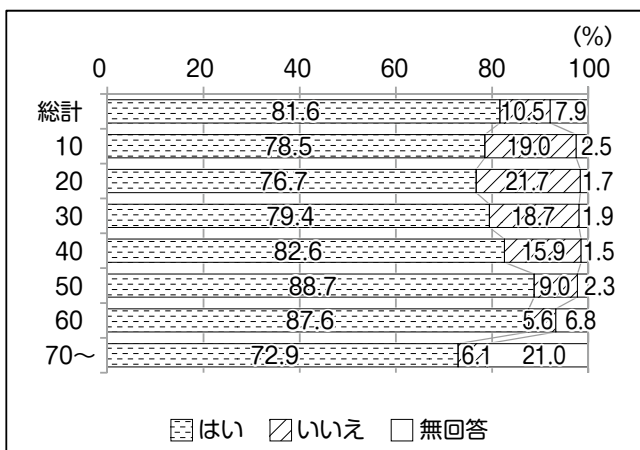


【地区別】

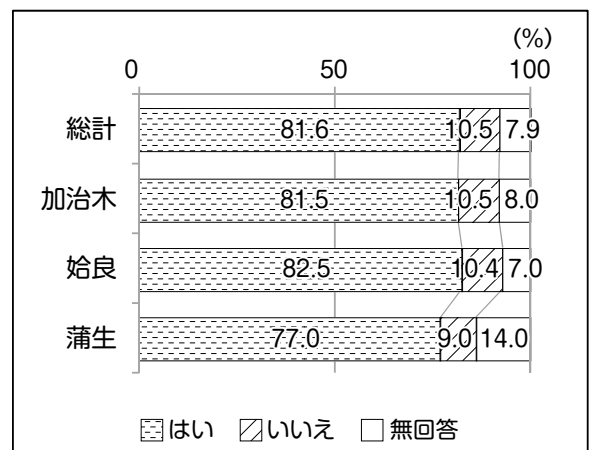


3) 隣近所の方とあいさつやお話をしていますか。

【年代別】

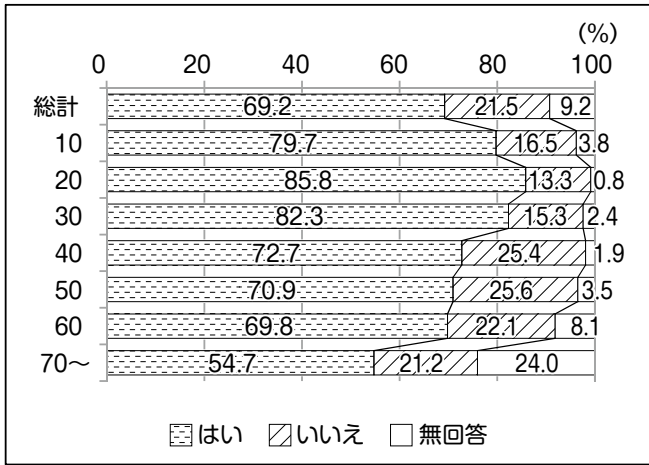


【地区別】

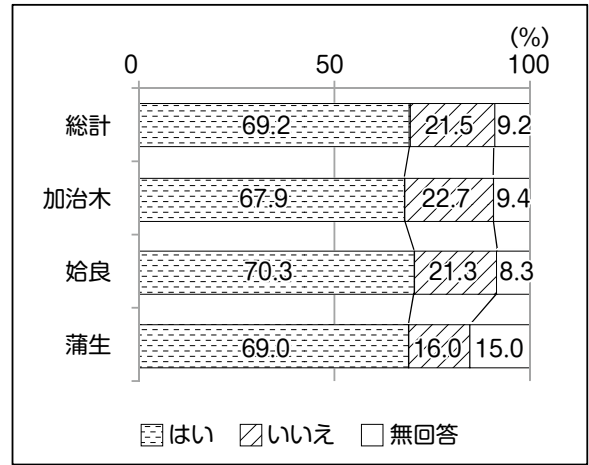


4) 悩み事があるときに、近くに相談できる人がいますか。

【年代別】

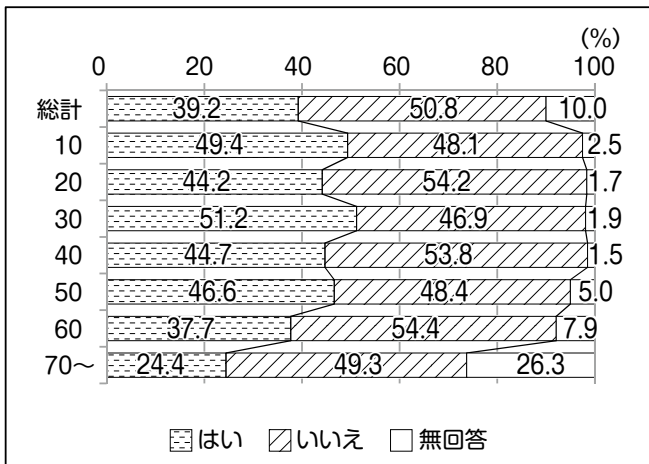


【地区別】

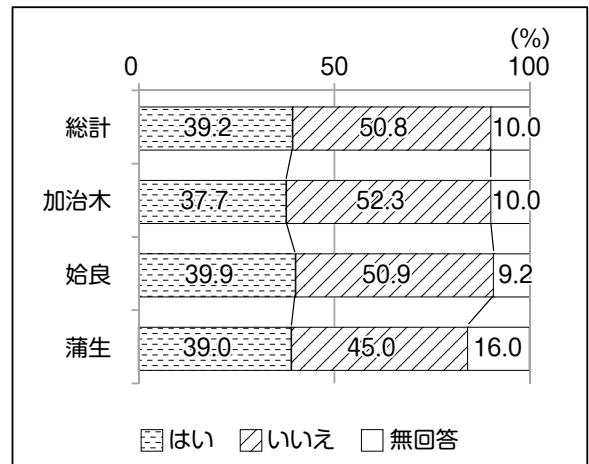


5) 普段の生活の中で、男女が不平等であると感じることがありますか。

【年代別】

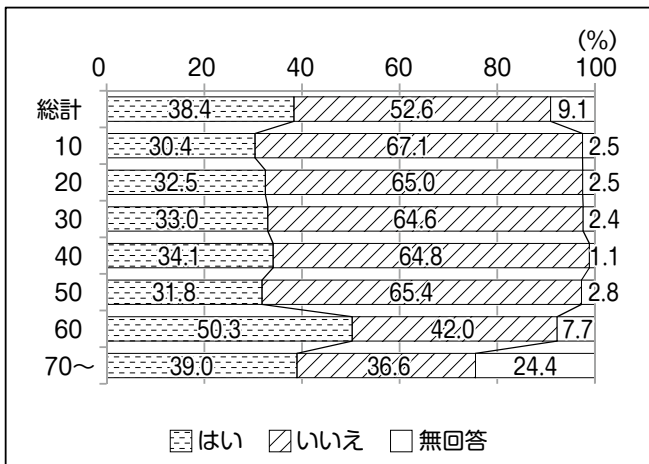


【地区別】

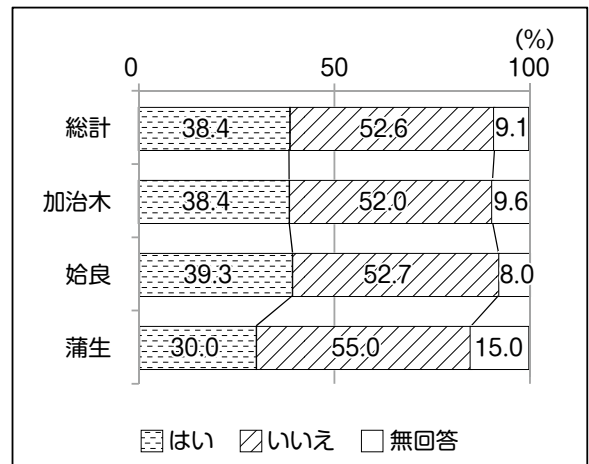


6) 趣味の教室や講座に参加するなど、自ら学ぶ機会を持っていますか。

【年代別】

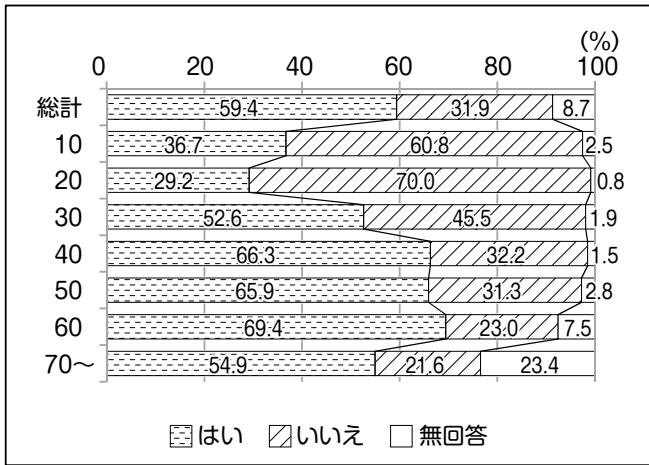


【地区別】

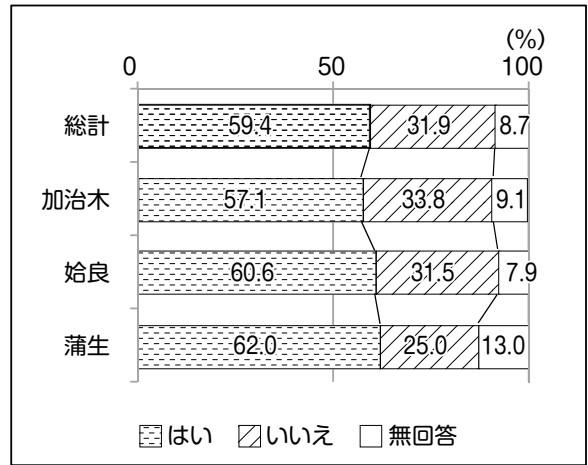


7) ここ1年で、地域の自治会・公民館等の活動に参加しましたか。

【年代別】

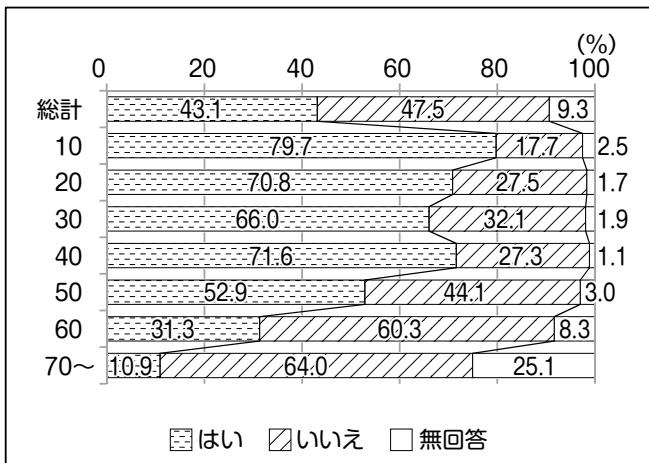


【地区別】

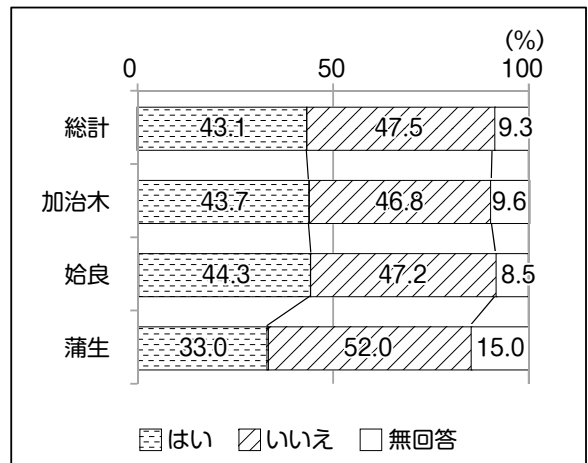


8) 自宅でインターネットを利用していますか。

【年代別】

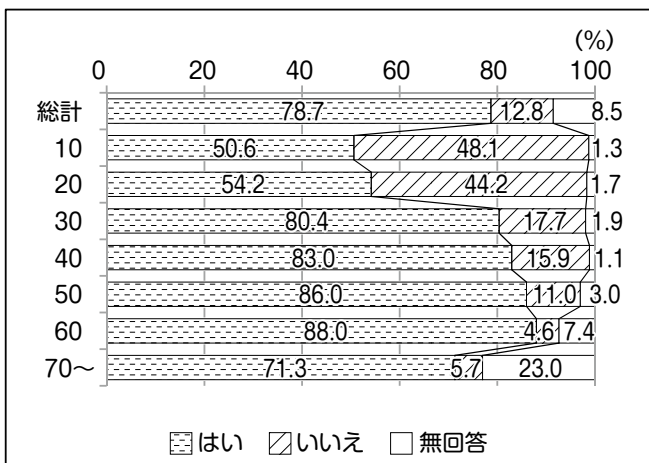


【地区別】

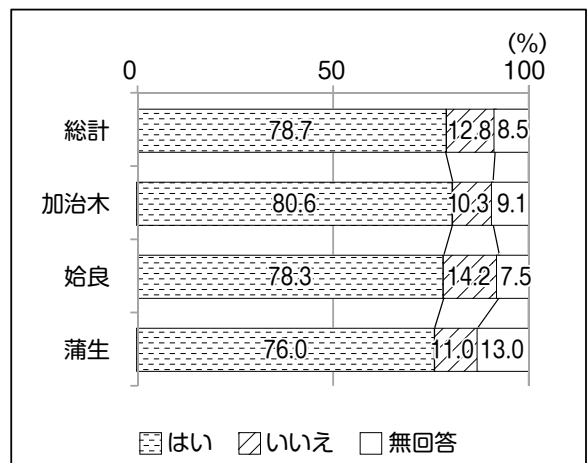


9) 市の広報誌を読んでいますか。

【年代別】

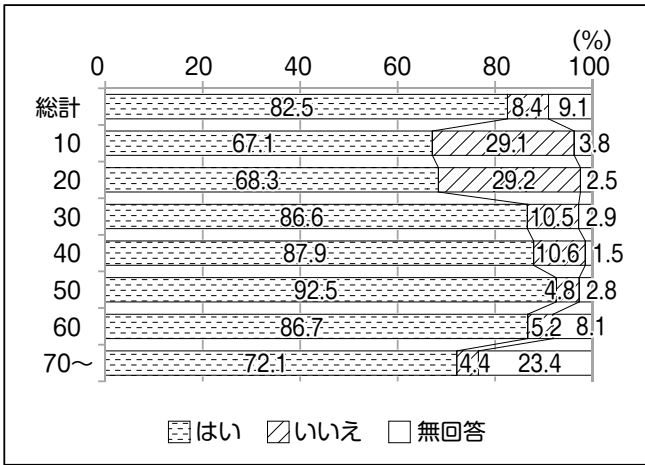


【地区別】

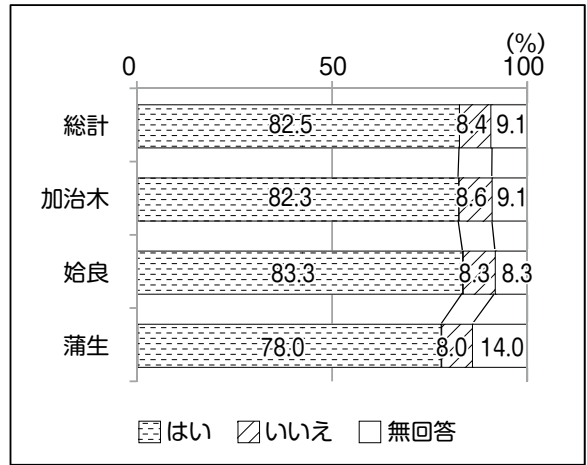


10) 環境にやさしい生活を心がけていますか。

【年代別】

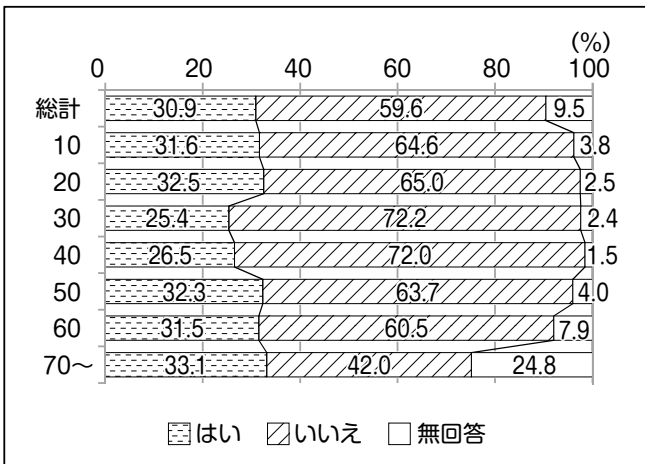


【地区別】

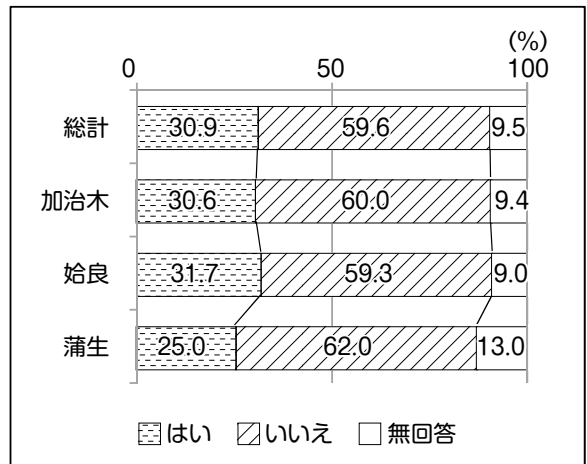


11) 現在の収入に満足していますか。

【年代別】

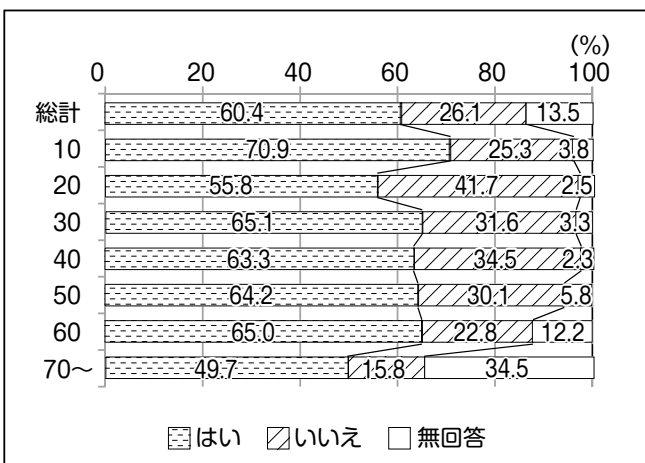


【地区別】

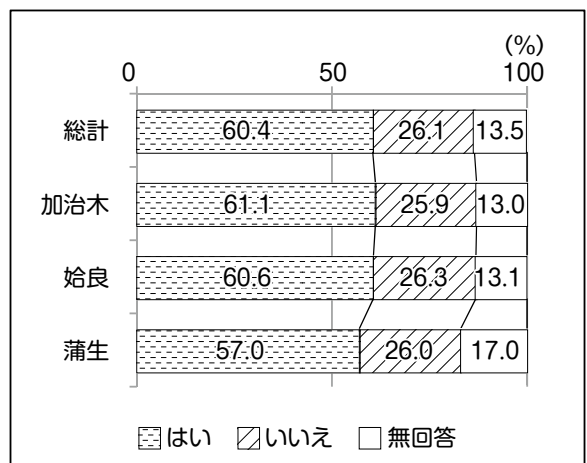


12) 仕事や勉強にやりがいを感じていますか。

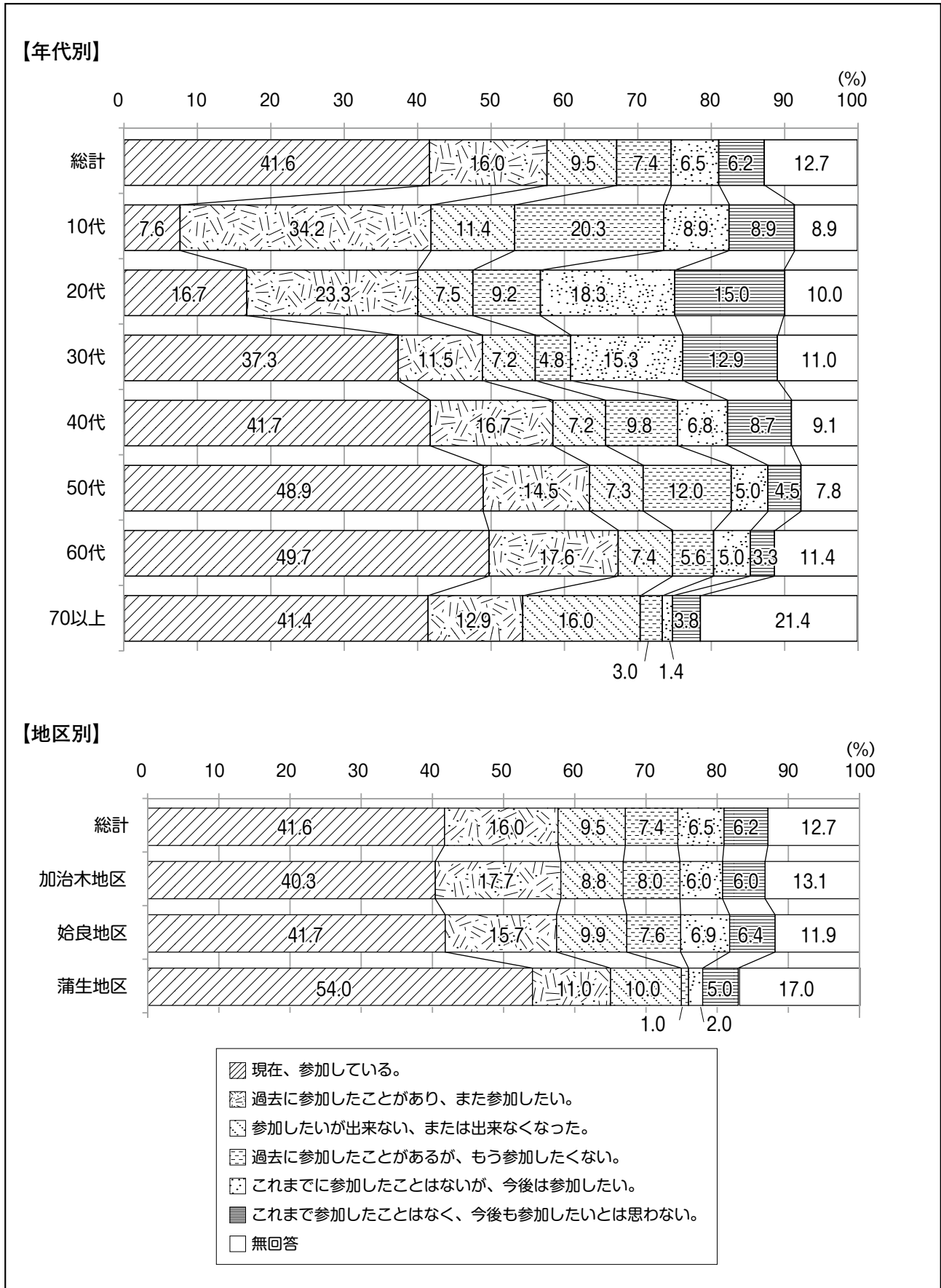
【年代別】



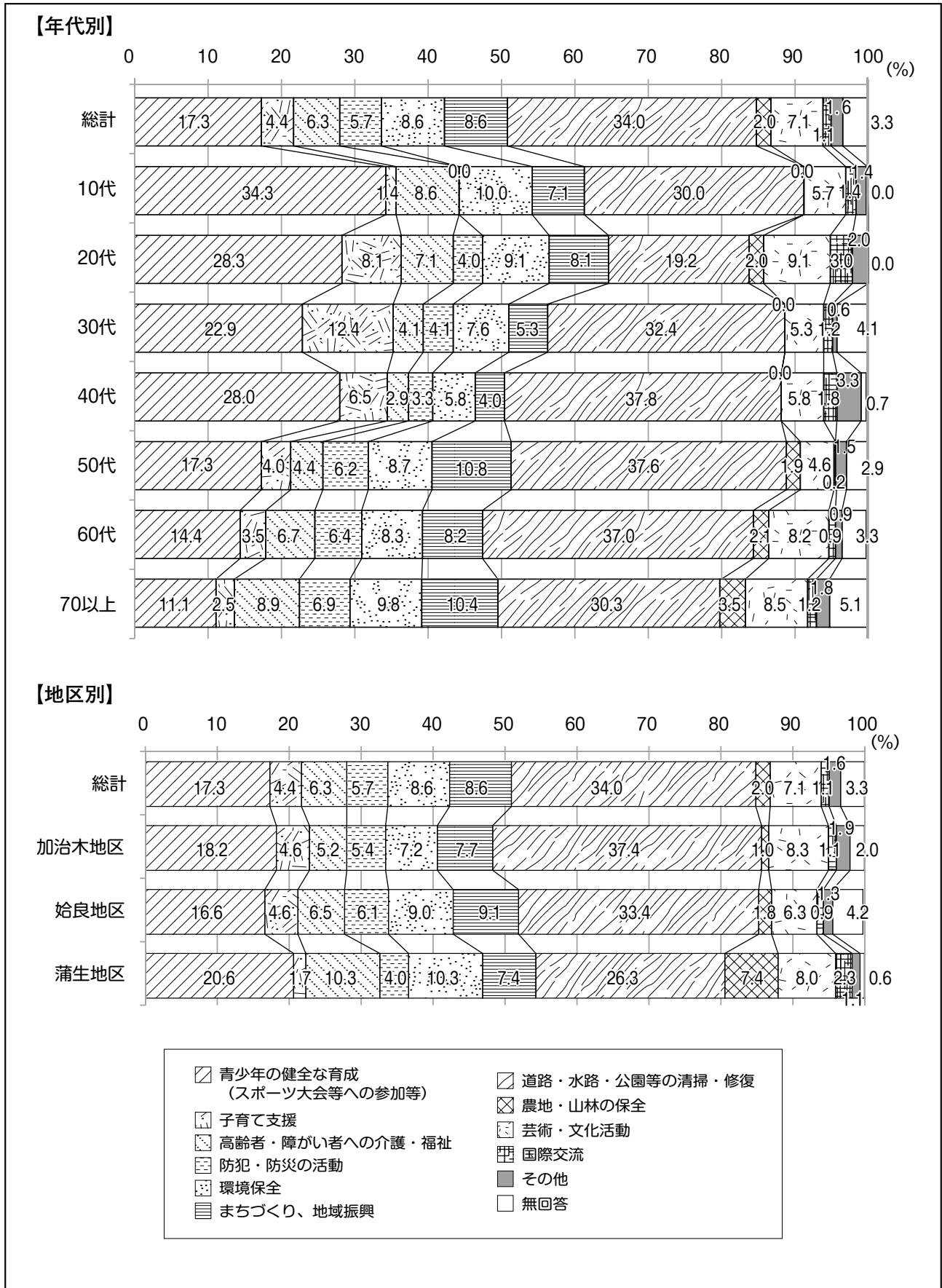
【地区別】



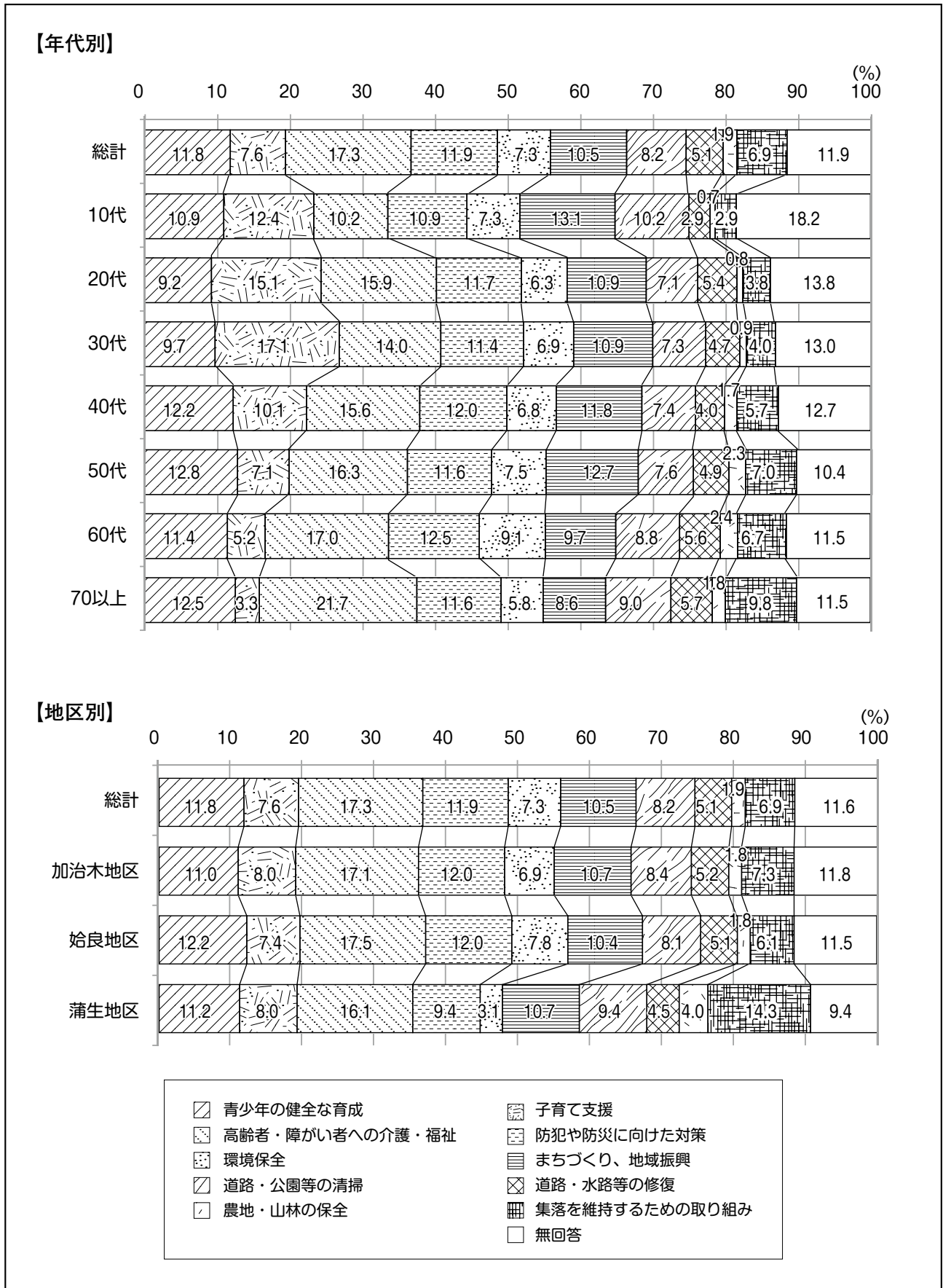
問5-2 自治会や地区単位の地域活動に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。



問5-3 どのような活動に参加されていますか。あるいは参加されましたか。



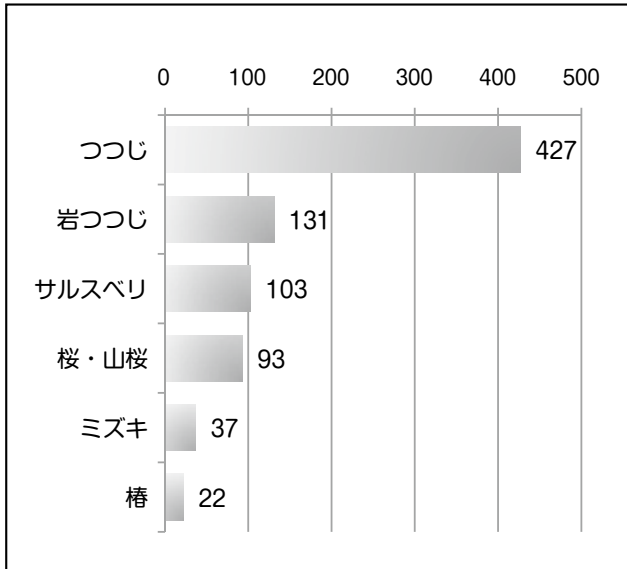
問5-4 あなたの住んでいる地域の人々が中心となって積極的に取り組むことが必要だと感じるのはどれですか。



6 始良市の「市の花」および「市の木」について

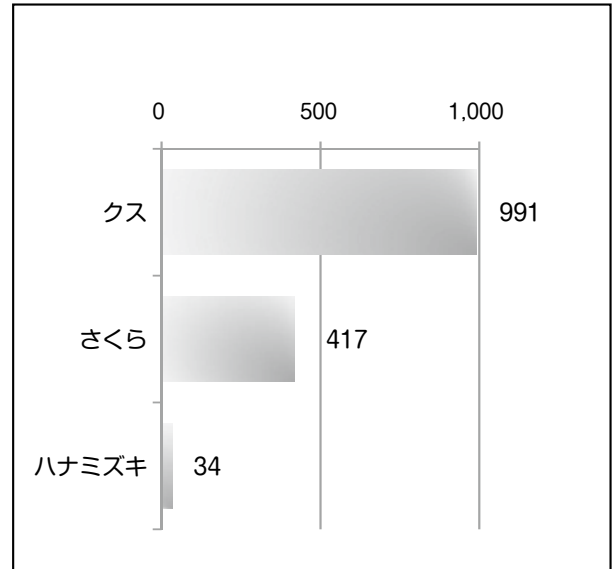
問6-1 始良市の「花」には何がふさわしい
と思いますか。（上位のみ抜粋）

（単位：件）



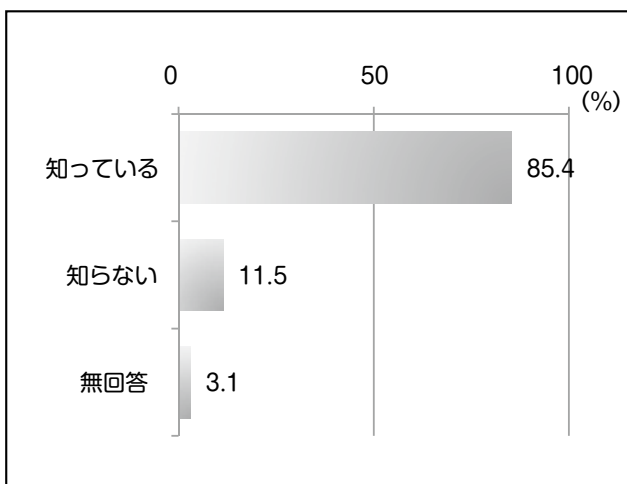
問6-2 始良市の「木」には何がふさわしい
と思いますか。（上位のみ抜粋）

（単位：件）

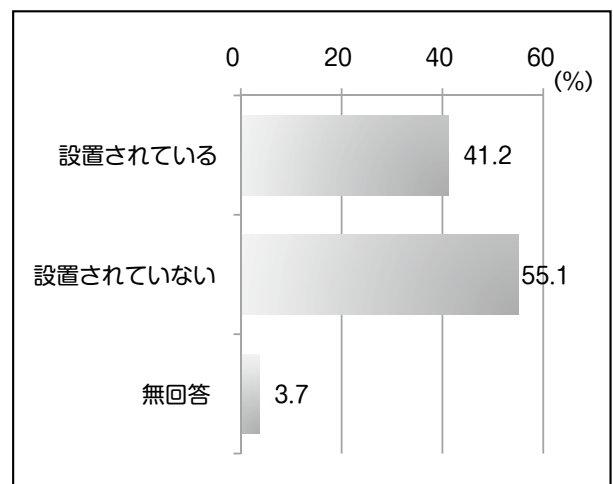


7 住宅用火災警報器の設置について

問7-1 住宅用火災警報器を平成23年5月ま
までに設置する義務があることを知っ
ていますか。



問7-2 現在の住まいに住宅用火災警報器が
設置されていますか。



8 自由意見について

問8 アンケートに対するご感想、始良市行政に対するご意見など、ご自由にお書きください。

(*お寄せいただいたご意見を要約し、類似する意見をまとめて掲載しています。)

項目	内容	意見数
子育て	子育て環境整備、少子化対策（全般・住宅・公園・雇用等複合的な意見）	35
	保育所の入所基準・保育所定員・保育料の見直し、保育所の充実等	12
	医療費補助・無料化	10
	小児・夜間・救急医療体制や医療機関の充実	6
	子ども手当より給食費の無料化	3
	子育て情報交換・サークル等	3
	幼稚園の設備・駐車場の充実、システム・保育料の見直し	2
	親の教育	2
	ワクチン・予防接種について	1
	病後児保育の実施	1
	幼稚園・保育所の一体化（幼保一体化）	1
子育て 集計		76

高齢者・福祉関係	高齢者・障がい者に住み良いまちづくり	36
	高齢・介護関係の福祉サービスの充実・精査	32
	低料金の介護関係施設の新設、増設、施設整備等	12
	高齢者活動促進	11
	独居世帯への支援、一人暮らしに対する不安等	9
	見守り（民生委員の活動等）	8
	生活保護者への自立支援・受給資格	5
	年金・収入等	4
	不妊治療への助成	3
	介護認定審査方法の見直し	2
	医療費の無料化	1
高齢者・福祉関係 集計		123

病院・医療機関関係（子ども関係医療は除く）	医療費負担（補助制度等の整備含む。）	9
	休日・夜間診療・救急医療体制の整備	7
	総合病院化・総合病院誘致、専門医の開設（小児科除く。）、医療機関の充実	5
	検診等の充実	3
	予防医学を広める	3
	ワクチンの接種への助成	1
	訪問医療の充実	1
病院・医療機関関係（子ども関係医療は除く。）集計		29

文化財	歴史・文化財の保護・保存、伝統継承	5
文化財 集計		5

項目	内容	意見数
教育、生涯学習・文化活動・スポレク	教育の振興	28
	施設の新設（体育館等・プール等）、整備	27
	図書館の時間延長、施設整備	9
	スポーツの振興	7
	生涯学習の充実	6
	教育費（奨学金等も）、部活動等費の助成	4
教育、生涯学習・文化活動・スポレク 集計		81

災害・防災・防犯	街灯・防犯灯の設置	17
	マナー（スピード運転、違法駐車等）	17
	標識・ミラー・信号機の設置・整備	9
	大雨時の排水対策	7
	見回り、連絡、防災体制の構築	6
	安全パトロール隊の組織拡充と支援	5
	住宅用警報器の補助	2
	交番の増設	1
	原子力・防災行政無線は不要	1
	雨水タンクの補助	1
災害・防災・防犯 集計		66

集落・地域振興等	地域活性化、地域振興（地域の特徴を活かして、住民参加型）	42
	地域・自治会等活動支援（自治会加入促進等）	21
	地域保全	16
	住民の意識・マナー	14
	過疎化、限界集落、集落存続、地域の衰退について	4
	動物との共存、マナー	2
	金融機関の設立	1
集落・地域振興等 集計		100

インフラ整備等（道路、水道、公園等）	道路整備（歩道等の整備も含む、段差の解消、草むしり等）	63
	飲料水の整備、上水道、下水道の整備、料金	35
	ドックラン等バット可施設の設置	5
	火葬場の新設	4
	渋滞の解消	2
	大型車が早朝通る	1
	加治木港の活性化	1
	住所表示の改善	1
インフラ整備等（道路、水道、公園等） 集計		112

項目	内容	意見数
バス・車等交通手段	巡回バス等（交通網）の充実・精査	30
	交通手段がない、少ない、交通が不便	13
	新しいアクセス方法の確立	5
	バスの時刻表、ルート等周知体制	2
	交通料金（高速道路の無料化等）	1
バス・車等交通手段 集計		51

住宅、空き家、定住促進関係	定住促進対策	5
	市営住宅の新築・改装・整備	4
	空き家の活用、対策	4
	市営住宅の入居期間の制限、入居の条件、駐車場代の有料化	2
	市営住宅役員の質の向上	1
住宅、空き家、定住促進関係 集計		16

情報インフラ	携帯電話関係（電波が届かない、通じにくい）	1
	インターネット環境（不通、光サービスエリアの拡大）	1
情報インフラ 集計		2

雇用関係	雇用拡大・雇用機会の確保・若い人の雇用促進	42
	企業誘致	37
	ボランティア活動	6
	始良市にハローワークを	5
	定年後の雇用について	4
	シルバー人材センターの活用	4
	失業者に職能学習	1
雇用関係 集計		99

買い物・商店街・商業関係	商店街・小規模店の振興、空き店舗の活用	19
	買い物ができない、買い物への不安（交通等）	6
	大型店舗、娯楽施設	5
	葬儀屋が多すぎる（暗いイメージ）	1
買い物・商店街・商業関係 集計		31

観光・交流・イベント等	観光・交流施設等の整備（既存資源等の利活用、滞在型施設・温泉等）	49
	PR、イベント	28
	駅と近隣の整備	19
	道の駅（物産館）、特産品の活性化	15
	観光ルートの拡大・整備	9
	一流劇団の公演開催、ライブ、演奏会	3
	国際交流	2
観光・交流・イベント等 集計		125

項目	内容	意見数
農林業関係	農林業振興策	9
	耕作放棄地	3
農林業関係 集計		12
ごみ・リサイクル・エコ・自然環境保護	ごみの収集、リサイクルのやり方の検討	86
	マナーについて（不法投棄、ごみの焼却、ペットのふん）	16
	自然環境保護	15
	ごみのないきれいなまち	6
	太陽光発電等新エネ関係	5
	浄化槽の補助金・点検の回数変更・料金等	5
	降灰袋の配布	3
	役場庁舎ごみ持ち込みの継続	2
	バイオマス（再利用等）	2
ごみ・リサイクル・エコ・自然環境保護 集計		140
市職員・議員について	対応・雰囲気改善、意識改革	51
	職員数・議員数の削減、若者の採用を増やす	30
	頑張ってください、期待しています	29
	賃金を減額、日当制（議員）	28
	旧3町職員・議員は（市民も）始良市の発展のために尊重・協力してほしい	23
	業務効率化の工夫（担当者複数配置・土日や昼休みの交代制・支所活用等）	14
	市民との交流（地域担当・自治会行事参加等）	10
	専門部門の強化、人材の育成	5
	臨時職員の雇用の在り方	3
	駐車場代の支払い	1
	学校用務員・給食調理員の勤務について	1
市職員・議員について 集計		195
行政全般	透明・公平・積極的・無駄のない行政改革	58
	市民が身近に感じる安心で住みやすい市政を	54
	安定した行財政運営と適正な課税	51
	期待している、満足している	30
	3町の特性を踏まえた、質を落とさない市政	20
	発展を願う	18
	行政施設の整備（庁舎内外・公民館・無料相談所等）	12
	市民との交流・見回り	8
	今後の予定の告知	2
	官僚の天下り廃止	2
	行政負担の軽減	2
	意見箱の設置	2
	総合計画について	2
	女性の副市長を	1
行政全般 集計		252

広報関係	広報誌の内容の工夫	7
	広報誌以外の広報の取り組み	5
	広報誌の紙質、パンフレット等の無駄を削減	4
	市報あいらの表紙を明るく、市のマーク入りに	2
	充実している	1
広報関係 集計		19

アンケート	難しい、わかりにくい、質問が多すぎる	74
	市政への反映	36
	役立った、よかった	24
	人選の検討（障がい・年齢等）	15
	意味がない・無駄	12
	結果の公表	7
	続けて実施すべき	5
	用紙について	5
アンケート 集計		178

意見の多かった項目（※上位3項目）

【年代別】

年代	項目		
10代	行政全般、アンケート	安全・安心、都市基盤、商工業	
20代	行政全般	循環型社会	高齢者・福祉
30代	子育て	循環型社会	都市基盤
40代	行政全般	循環型社会	都市基盤
50代	行政全般	アンケート	循環型社会
60代	行政全般	都市基盤	アンケート
70歳以上	行政全般	アンケート	高齢・福祉

【地区別】

地区	項目		
加治木	アンケート	都市基盤	高齢・福祉
始良	都市基盤	アンケート	高齢・福祉
蒲生	高齢・福祉	アンケート	市民参画・共生協働

総合計画策定に係る行政座談会 (市長と語る会)

■ 平成22年6月～平成23年2月

行政座談会（市長と語る会）実績

項目	開催日	開催場所	参加者
大山地区	平成22年6月10日	大山地区公民館	10名
漆地区	平成22年7月19日	蒲生生活改善センター	67名
西浦・新留地区	平成22年7月19日	西浦地区いきいき交流センター	52名
米丸・白男・北・小川内	平成22年8月1日	農作業準備休憩施設	42名
川東・八幡・中央A・中央B・久末・迫・下久徳	平成22年8月1日	蒲生公民館	62名
竜門地区	平成22年10月28日	陶夢ランド	8名
北山地区	平成22年11月4日	北山伝承館	28名
永原地区	平成22年11月5日	永原小校区公民館	27名
山田地区	平成22年11月8日	山田地区公民館	51名
錦江地区	平成22年11月10日	加音ホール	11名
三船地区	平成22年11月11日	三叉コミュニティーセンター	13名
帖佐地区	平成23年1月24日	帖佐地区公民館	21名
柁城・加治木地区	平成23年1月26日	加治木福祉センター	32名
西始良地区	平成23年1月28日	西始良西集会所	17名
重富地区	平成23年1月31日	重富地区公民館	20名
建昌・始良地区	平成23年2月2日	始良公民館	22名
合計			483名

* 行政座談会でいただいたご意見の要約を掲載しています。また、複数いただいたご意見については、まとめて掲載しています。

大山地区

平成22年6月10日 午後1時30分～3時 於：大山地区公民館 参加者：10名

意見等要約	
1	携帯電話の不感地帯である。
2	巡回バスのダイヤが不便。 水、土に運行されるバスが行きは7時、帰りは16時。
3	空き家を賃貸等の住宅として提供するシステム構築を。大山地区に住みたいという家族もいる。 携帯電話、バスの整備などと一体的に考えてほしい。
4	良久（らく）地区の用水路の改良に遅れがある。
5	県道を横断する用水路に破損、漏水があり、役場や県に相談していた。
6	県道沿いの木々が繁茂して、覆いかぶさっているが剪定 ^{せん} を行ってもらえない。 大型車両の交通に支障がある。
7	林道松生～良久線の舗装をコンクリートでも構わないので少しずつ進めることはできないか。未舗装で草が生い茂り、夜間はほとんど使えない。入来峠や郡山に抜ける貴重な道であるので、通行に良好な状態を確保してほしい。



〈大山地区〉

漆地区

平成22年7月19日 午前9時30分～11時30分 於：蒲生生活改善センター 参加者：67名

意見等要約	
1	漆小学校を地域活性化の核として位置づけてほしい。
2	Iターンした人は、道路の拡幅を反対している。 地元の人との考え方に相違もある。
3	子どものいない家庭もPTA準会員となり活動している。
4	周辺部には荒廃農地があり、対策が取れない。
5	高齢化のため地域の道路、河川の草払いも困難。
6	棚田を守ってほしい。
7	活性化する事業や補助金の導入を。
8	巡回バスの乗降に介助が必要。
9	バスの時間の間隔が開きすぎである。 また、病院の開院時間に合わせた時間にしてほしい。
10	病院は、鹿児島市、加治木地区、始良地区にも行く。 バスの連絡が課題では。
11	乗合タクシーが利用できないのか。
12	地区内の店舗は値段が高い。商品が少ない。
13	停留所が多いので、乗車時間が長く苦痛である。
14	買い物は、病院に行ったついでに2週間分買う。
15	自由に使える乗合バスがほしい。
16	園児バスに一般の人は乗れないのか。
17	空き家を他人に貸すことは、家主が帰省時の宿泊場所となったり、家族の用品等が保管されており容易ではない。
18	漆に住みたいという問い合わせは多い。
19	やまびこ留学の家族を受け入れる家がない。
20	漆地区で高速インターネットが利用できるようにしてほしい。
21	農地・水・環境保全向上対策事業をH24年度以降も継続を。
22	農産加工センターの調理場に水がたまるので改善してほしい。
23	浦公民館に水道がないので設置してほしい。
24	防災無線が聞き取りにくい。
25	有害鳥獣対策を推進してほしい。
26	市報の文字を大きくしてほしい。 回覧の枠を設けてほしい。



〈漆地区〉

西浦・新留地区

平成22年7月19日 午後1時10分～3時 於：西浦地区いきいき交流センター 参加者：52名

意見等要約	
1	バスの停留所が遠い。
2	耕作放棄地が増加傾向にある。
3	周辺部には荒廃農地がある。
4	耕作放棄地の活用方法がわからない。
5	巡回バスの土曜日運行を見直してしてほしい。 月、水、金の運行を希望。
6	スクールバスの運行時間を改善してほしい。 (早朝ボランティアに参加できない。) (部活の終了時間が7時ごろである。)
7	新留小学校の職員住宅を活用してほしい。
8	登下校に利用しているバスの運行時間を改善してほしい。学校行事と必ずしも一致しない時間帯がある。
9	ごみ収集ステーションの継続を希望。遠距離は負担。
10	利用する病院は、蒲生地区外もあり、交通の便が悪く利用しづらい。(青雲、南九病院等)
11	緊急通報装置を広めてほしい。
12	西浦地区の公営住宅も高齢化が進んでいる。
13	行事参加用(サロンなど)の移動手段の確保をしてほしい。
14	集団検診の制度がなくなっているが、個別に検診に行くことが負担なので改善を求める。
15	一人暮らしの人が共同で生活できる場所の提供を考えてほしい。
16	一人暮らし用の緊急時の連絡手段を整備してほしい。
17	共同山の管理者の存在があいまいになって、特定の人に管理が集中して納税等の管理行為が負担である。(共同山問題)
18	農地・水・環境保全向上対策事業を平成24年度以降も続けてほしい。
19	ごみの不法投棄が多い。看板設置で注意を促せないか。
20	新留～後線の災害復旧の見通しを知りたい。
21	新留小学校の運動場を走る不審者がいる。看板で注意を促してほしい。
22	有害鳥獣対策を推進してほしい。
23	西浦小周辺の植栽の伐採を。
24	市報の文字を大きくしてほしい。回覧の枠を設けてほしい。



〈西浦地区〉

米丸・白男・北・小川内地区

平成22年8月1日 午前9時30分～11時30分 於：農作業準備休憩施設 参加者：42名

意見等要約	
1	地区の高齢化が進んでいる。
2	子どもの数も減少し、地域内の行事が維持できない。
3	独居老人の声かけ見守り問題。
4	地域内道路や水路の地域での清掃が容易でない。
5	小規模農家が多く、自家消費の割合が大きい。
6	農業後継者がいない。
7	米丸地区のパイプライン化を推進したい、
8	白男のパイプラインは、設計上の ^{かし} 瑕疵か、給水できない箇所がある。(上流部ほど深刻)
9	農地・水・環境保全支援事業を継続してほしい。
10	農業の行いやすい環境を作らないと後継者が入ってこない。
11	猿、イノシシ、鹿の被害があるため、有害鳥獣対策事業を推進してほしい。
12	小川内では巡回バスには困っていない。継続してほしい。
13	定期バスの終点を楠田（蒲生中前）ではなく、楠田の車庫まで延長してほしい。
14	空き家がやぶになって衛生、防災両面から問題がある。
15	蒲生分遣所から岩戸橋までの県道を拡幅してほしい。
16	小川内地区に上水道を敷設してほしい。
17	蒲生総合支所からおおくすアリーナまでの道路が狭いので改良してほしい。
18	白男橋が狭いので、拡幅してほしい。
20	白男消防団車庫が雨漏りするので修理してほしい。
21	防災無線に雑音が入り、聞きづらい。
22	県道から小川内への右折の際、追い越しするものなどがあり、右折がしづらいので対策を講じてほしい。
23	小川内小学校跡付近で道路の排水が、民家敷地内まで流入するため対策を講じてほしい。
24	南国バス停の米丸上の個人宅の下方の河岸の浸食がひどいので、寄洲除去等の対策を講じてほしい。



〈米丸・白男・北・小川内地区〉

川東・八幡・中央A・中央B・久末・迫・下久徳地区

平成22年8月1日 午後1時10分～3時11分 於：蒲生公民館 参加者：62名

意見等要約	
1	少子高齢化により地域の行事の維持が困難。
2	空き家が増えている。
3	道路の草払いが容易でない。
4	定住促進のための働く場所の確保として企業誘致を。
5	中原通りの整備を進めてほしい。
6	独居老人が多いため、自治会内でコミュニケーションがとれるようにしている。
7	青壮年団で月1回第2土曜日に集まり、地区の課題について話している。
8	独居世帯、高齢者世帯の見守り連絡体制が心配。
9	蒲生高校からの道路と船津線の交差点に点滅信号が設置されているが、危険なので信号機を設置してほしい。
10	雨天時、蒲生高校生の送迎の車が県道を塞ぐので、校内でUターンなどの対策がとれないか。
11	えのきだ団地の宅地開発等の現況はどのようになっているか状況を知りたい。
12	農業の後継者問題の解決策等、行政から情報提供してほしい。
13	加治木港を整備して、蒲生杉を中国等へ輸出するシステムづくりをすべきではないか。
14	農業用水に生活雑排水が混入するので、下水処理施設を整備する考えはないか。
15	蒲生地域外へ通じるバス経路は、帖佐駅方面が中心なので、加治木地区へも通じる路線を設置してほしい。また、巡回するため所要時間が長いので、駅などへの直通便を設置してほしい。
16	蒲生地域に永住し、農業をしたいとする人がいる。窓口を一本化して行政としての支援体制を整備できないか。
17	ガーデニングのできる環境をとの思いで蒲生に移り住んだ。出来上がった庭が観光名所になったら考える。
18	定年退職者の定住促進策を実施できないか。
19	下場の河川が水量も多く、流れの早い部分で川底の浸食が目立つ。橋脚を保護するためにも床留工を実施してほしい。
20	高齢者専用住宅を増やしてほしい。
21	防災無線を活用して自治会の行事も連絡できないか。地域活性化に通じる。
22	下久徳では、独居老人の見守り支援の制度を自治会の予算で「のびちょ会」として運営している。
23	久末では高齢者世帯へのボランティア活動として「さくら会」を組織し支援を行っている。
24	島津義弘生誕記念等を活用して旧3町に共通したイベントが開催できないか。
25	休校中の新留小学校、大山小学校を地域活性化のための活用を検討してほしい。
26	白男から下久徳の水路で迫東で城山から土砂が流れ込み、その除去に苦勞している。水路を暗きょにできないか。
27	川東地区の道路河川愛護作業の際、高所や危険箇所については行政の支援をしてほしい。



〈川東・八幡・中央A・中央B・久末・迫・下久徳地区〉

竜門地区

平成22年10月28日 午後7時～8時44分 於：陶夢ランド 参加者：8名

意見項目	
1	災害防止の観点からの農地保全、耕作放棄地の問題について。
2	住民と行政の役割分担、すみ分け。
3	農地・水・環境保全向上対策の継続、農地基盤整備。
4	人材の把握。
5	災害時・緊急時の高齢者の避難誘導（日中）、連絡体制の確立。
6	陶夢ランドの駐車場整備とイベント等の際の周辺道路の安全確保。
7	地域資源、観光資源の利活用。
8	雇用の場の確保。
9	農地法の弾力的な運用。
10	広報誌のページ数、記事の掲載。
11	中山間地域への住宅施策。
12	デマンド交通の導入、地域交通の確保。
13	特別支援学級の設置。（竜門小）
14	市役所窓口の対応（丁寧な説明がほしい）、サービスの一部低下、合併時の事務引継。
15	職員の意識改革。（旧町の垣根を早く取り払ってほしい。）



〈竜門地区〉

北山地区

平成22年11月4日 午後7時～8時28分 於：北山伝承館 参加者：28名

意見項目	
1	70代、80代の高齢者が多い。
2	地域活性化の各種活動にバックアップを。
3	幸風園跡地の利活用。 ① 都市農村交流施設 ② 特産物（竹細工等）の活用施設 ③ 多目的グラウンド ④ 北山診療所を中心としたデイサービス等の福祉サービス関係提供施設の構築
4	県道拡幅。（十三谷重富線）
5	有害鳥獣駆除。
6	市道等の草払い。
7	木津志（北山）農地基盤整備後の排水不良。排水事業の検討を。
8	独居世帯の緊急時の連絡手段の確保。
9	携帯不感エリアの解消により、子の帰省頻度が増加しているように感じる。
10	過疎化の原因は、子が上場に住める状況にないから。農業で生計維持は困難。
11	畜産業については旧町時代より補助制度が充実した。今後も続けてほしい。
12	黒葛野で、砂防工事により井戸水が出なくなり、代替の井戸からは茶色の水しか出ない。 （3、4軒）対策を講じてもらえないか。
13	北山上地区の避難所になっている旧堂山小跡について、老朽化が激しく、避難所として適さない。改修等は検討できないか。
14	以前はもっと地域と役所担当者との交流があったが、合併後少なくなった。
15	北山診療所の維持。



〈北山地区〉

永原地区

平成22年11月5日 午後7時～8時59分 於：永原小校区公民館 参加者：27名

	意見項目
1	京セラ寮建設予定跡地の利活用について。
2	下嶽。大雨の際に道路を水が流れる。側溝のある所も側溝で排水しきれない。簡易舗装の道路の面を修繕してほしい。
3	建設部へ提出した道路維持補修の要望書のその後について。 ① 白木山地区 ② 永原小前の側溝、排水路の整備。(周辺農地に水が流れ込み農作物に被害)
4	緊急時の連絡手段、自治会内での連絡手段。
5	防災無線の設置。
6	コミュニティ助成事業を活用した放送設備の設置。
7	永原小の維持・存続。(再来年度地元の新入生なし。)
8	市営住宅の設置、学校存続と福祉施策の観点からの住宅施策の推進。
9	永原～辺川道路改良、拡幅。
10	学校教育と福祉施策の連携。
11	不法投棄問題。(場所、投棄物はいずれも異なる。)
12	水道から毎朝、茶色の水が出て、飲料水として使えない。(近隣には同様の事例はなし。)
13	産廃業者の中間処理場への産廃運搬の際に、道路に木くずが落ちて危険。
14	空バス問題、上場地区だけでもバスの自由乗降(ルートデマンド)の導入ができないか。
15	あいらクリーンセンターの施設、運用の安全面について。
16	ごみステーションの新設。(永原自治会)



〈永原地区〉

山田地区

平成22年11月8日 午後7時～8時53分 於：山田地区公民館 参加者：51名

意見項目	
1	地域活性化に関する各種取り組みに対する理解と支援。(かかし館、児童クラブ等)
2	市営住宅建設。
3	学校の維持・存続。
4	山田小校区活性化委員会における、計画、決定事項の実施、踏襲。
5	公営住宅建設を含めた若年層世代、子育て世代が居住しやすい環境整備。
6	市内各地の均衡ある発展。山田地区が埋没しないように。
7	小規模植林、造林への助成制度。
8	園通寺～中川原～ナフコ 農道、里道等の整備。 〈山田地区〉
9	市営住宅建設予定地に、道の駅、多目的施設の併設および大型駐車場の設置。
10	A マート跡地利活用について。
11	凱旋門の周辺整備と駐車場整備。
12	資源物ステーション、一時置き場の確保に対する補助等の創設。
13	観光振興。九州新幹線全線開業に合わせて積極的に展開してほしい。
14	伊集院蒲生溝辺線。上名地区内を追い越し禁止にできないか。
15	出張所跡の撤去と整備。(レントゲン等の際に駐車場がなく危ない。)
16	観光地、観光資源の美化、整備。
17	山田橋の架け替えおよび周辺の歩道等整備。
18	ゴルフ場予定地の跡地利用について。
19	水源地の維持、草刈り。(年に3回の草払いが今年は1度もない。)
20	上名地区の避難所の見直し。(100円売りの建屋を改修し、避難所にできないか。)
21	(中川原) 里道、生活道路の維持補修。(路肩の崩れ、舗装の割れ。)
22	バリアフリーの集会場等施設の設置。(投票所を地区館玄関ホールに設置している。)
23	ごみの回収方法について旧始良町方式を維持してほしい。
24	空き家対策の推進。
25	環境美化委員、地域活性化委員、いずれも合併後どのような取り扱いになっているのか。その他の役職等についても取り扱いを提示してほしい。
26	凱旋門通り。道路の整備不良。
27	アイル・アイラの経過について。



錦江地区

平成22年11月10日 午後7時～8時53分 於：加音ホール 参加者：11名

意見項目	
1	昨年10月に加治木に移住した。子や孫のために発展してほしい。
2	須崎用地の利活用と企業誘致、雇用の確保。
3	道路が狭く（緊急車両の通行ができない。）行き止まりが多い。
4	アンケートの回答率で若年層が少ない。
5	座談会等行政主催の会合への集まりの悪さ。意見集約の手法を検討すべきではないか。
6	広報誌が見づらい。見る人がほとんどいないと聞く。読みやすさを考えたレイアウトを。
7	行事等の広報手段について。現行の広報誌だけでは伝わらないのでは。
8	催し、行政、議会における旧3町の壁を払拭してほしい。
9	人同士のつながりが希薄化している。人同士のつながり、絆を尊重する、無縁社会を無くす総合計画を策定してほしい。
10	自分の子は自分で育てるという基本が薄くなっている。
11	地域全体での子育てを。そのために行政が学校と地域の橋渡し役になってほしい。
12	自治会機能が崩壊している。子どもと大人の接点がない。自治会未加入者が多い。
13	空き家の増加。
14	県内主要都市への通勤圏として、居住都市としての発展が生き残る道ではないか。
15	道路の狭さゆえの緊急時、火災時の防災体制について。
16	アンケートの手法、分析について。（類似団体との比較等）
17	公営住宅が不足しているとの声がある。
18	始良市内の福祉施設の現況。
19	老人クラブの現況と維持について。医療費抑制等の観点から、行政による指導、支援を検討してほしい。
20	ごみ収集場所について。一部、交通の妨げとなっている所がある。市で収集場所を購入し提供できないか。
21	ごみ収集場所については地域の利便性を重視し、民有地を無償で借り受けて使用している。現況でスムーズにしている所もあるので、一律に考えないでほしい。
22	防災無線、緊急時の情報伝達について。
23	情報インフラの整備促進、公共施設での無線LANの拡大等。
24	人材育成。子ども達にグローバル感覚を養うための施策を。



〈錦江地区〉

三船地区

平成22年11月11日 午後6時57分～9時7分 於：三叉コミュニティーセンター 参加者：13名

意見項目	
1	黒葛野の土砂流出防止対策について。
2	農業施設の老朽化と維持・補修。(住吉、永瀬、増田)
3	住吉池の農業用水の確保と観光資源利用のバランスについて。
4	旧三叉小跡地の利活用について。
5	農道の交通量増加とそれに伴う農道の維持・補修。
6	ソーニング、核となる施設等の形成。
7	雇用の確保。
8	高齢者の健康維持増進に対する支援。
9	企業誘致、誘致企業に対する助成制度等。
10	農振・農用地の取り扱い。
11	公営住宅の設置による若年層世帯の居住促進。
12	巡回バス路線（蒲生～空港線ルート）の設置。
13	用水路への目印設置。
14	納税説明会が自治会単位から校区単位に変わったのはサービス低下では。
15	市道全体として道路の拡幅、歩道がない。歩道が狭く、高校生の通学に危険。(高樋春花線、川内加治木線)
16	高速道路下のトンネル拡幅。(アイショップ前)
17	国道10号線の4車線化。
18	道路、土手、休耕田等の草払いを地域で一生懸命行っている。なんらか支援をできないか。
19	サロンの実態把握と会場となっている自治公民館施設等の改修。
20	中学校の学区見直し。(三船小の中で、帖佐中と山田中に分かれるが、山田中への通学者が圧倒的に少ない。バランスが悪い。)フリー学区制の導入を検討できないか。
21	三船小の耐震診断の結果と耐震化の状況について。
22	三船交差点付近の県道から農道への乗り入れの段差解消。住吉の市道への乗り入れについても同様。
23	船津ほ場整備地内の道路舗装。
24	自治会、地域単位での医療費負担の割合を知りたい。
25	T P Pについてどのように考えているのか。
26	生産年齢人口の意見収集の方法について。



〈三船地区〉

帖佐地区

平成23年1月24日 午後7時～8時35分 於：帖佐地区公民館 参加者：21名

	意見項目
1	米山～山田口間バイパス計画について。
2	資源物収集の在り方、一元化について。(補助金等も含め)
3	遊休農地(福人)の今後の取り扱いについて。(農業用地以外での活用の検討を)
4	帖佐地区の史跡、旧跡の整備を。
5	観光バスの受け皿整備を。
6	米山交差点の改良要望を県へ行ってほしい。
7	観光バスとはどのような内容か。
8	歴史ボランティアについて、旧3町間で交流できるような体制を。
9	古文書講座について、加治木地区にも同様のものを開設してほしい。
10	小学校・斎場・消防の3事業(環境整備)について、進捗状況は。総合計画内で語られるのか、具体的な動きがあるのか。
11	高齢者の活用、豊富な人材の活用。
12	市名の認知度を上げる工夫を。(始良カルデラを活かしてはどうか。)
13	教育的な施策について何かあるのか。県の各種教育施設を活用できないか。
14	危機管理体制はどのようになっているのか。まず行政が旗振りし、ネットワークを構築すべきでは。
15	ワンストップサービス対応の窓口を設けてほしい。



〈帖佐地区〉

柁城・加治木地区

平成23年1月26日 午後7時～8時35分 於：加治木福祉センター 参加者：32名

意見項目	
1	中山間地域を活かすべく、行政として後押しを。
2	宿泊施設が少ない。アグリツーリズムや民泊、体験学習等修学旅行生の受け入れも考えては。
3	まちづくりを進めるにあたり、必要ない道路整備は行わないでほしい。現行の計画見直しを。
4	賑わいのあるまちづくりを。
5	現在あるものをもっと発掘してほしい。（観光資源、文化財等）まちおこしの一助となるのでは。
6	災害対応について。時間雨量100mm等は想定内として対応を検討すべきでは。ハザードマップ、避難所の見直しを検討してほしい。
7	能仁寺墓地、田の神等文化財の保護について、行政側から何らか知恵を出せないか。観光客、リピーター獲得のためにも、文化財の保護、整備について一考すべきでは。
8	観光バスだけでなく、史跡・旧跡を巡る交通手段の確保を。
9	文化活動、生涯学習等文化溢れるまちづくりを。
10	九州新幹線全線開業に合わせた観光施策について。
11	島津氏にまつわる伝承等をもっと学校等で伝える場を設けてはどうか。
12	精矛神社について、市として資金面等手立てはできないか。
13	道路行政の見直し。査定、補償の基準を示してほしい。
14	加治木まんじゅうの販路拡大。
15	市長と語る会だけでなく、議員も交えた語る場も設けてほしい。
16	計画策定時の意見収集だけでなく、計画についての説明、理解してもらう努力も行ってほしい。
17	施策について検証を行い、次の施策に活かしてほしい。



〈柁城・加治木地区〉

西始良地区

平成23年1月28日 午後7時～8時42分 於：西始良西集会所 参加者：17名

意見項目	
1	ごみ収集方法。資源物ステーションについて。高齢者は現行方式では資源物ステーションに持ち込まず、自治会で運ぶなどの対応をしている。近くに、誰もが持って行きやすい所へ資源物ステーションを設置できないか。新収集システムを導入の際は十分な説明を。
2	ここ5～10年で高齢化率が急激に上がる。病院、買い物、ATM等高齢者対策を。
3	車が使えなくなった際の交通手段の確保を。
4	巡回バスのPR不足。
5	建昌城跡の活用。例えば子どもが自由に遊べる空間にできないか。
6	個人情報について。要援護世帯の個人情報の取り扱いについてケースによっては柔軟な対応を。地域で支援しようにも支援しづらい。
7	森山交差点拡幅、整備。すぐの整備が困難であれば、混雑時に誘導員を配置してほしい。
8	運動公園。イベント時は整備された第3駐車場を利用して一方通行にしてはどうか。混雑緩和にならないか。
9	運動公園から県道への出口、イベント終了時に渋滞する。敷地の余裕を活かして左折帯を設置してはどうか。
10	思川。青雲病院～俵原、楠元橋の交差点。信号機の設置と俵原側の道路拡幅。車が多く交差点が通りにくい。
11	市として公共下水道をどのように考えているのか。
12	始良ニュータウン下水処理施設の移管について、スピードを持った対応を。



〈西始良地区〉

重富地区

平成23年1月31日 午後7時～8時45分 於：重富地区公民館 参加者：20名

意見項目	
1	ゆずり葉大学のクラブ活動が自主活動になることについて。説明を受けていない、納得ができない。
2	重富停車場線、第3工期、国道10号線～重富駅の着手について。計画化、予算化されていたはずであり、いまさらできないというのは納得できない。
3	堅野地区。道路幅が狭く、緊急車両が入れない。事故もある。
4	地域防災計画、避難所、ハザードマップについて概要を聞きたい。
5	市の財政状況、今後について。
6	目標や目的を設定する場合は現状分析が大事であり、的確な分析が目標とのギャップを埋めるための施策につながる。 行政改革大綱等、市民が見やすい、わかりやすい表現を心がけてほしい。
7	さまざまな意見等、自治会長、市議に託してほしい。必要な場で語っていく。市民と行政側がゆずり合う部分も必要。
8	このような場は互いの溝を埋める場。ぶつかることもあるが今後も続けてほしい。人と接することを基本においたまちづくりを。
9	県の関連施設であっても市に連絡すれば、すぐに県につながるようにしてほしい。
10	青少年育成市民会議（青少協）の青少年の主張について。開催の在り方について青少年育成の点から検討してほしい。
11	公園の使用について。子ども達の遊ぶ時間帯や土日などの利用について調整できないか。（高齢者の団体利用等と。）
12	道路計画については何年も前に立てられた計画をそのまま踏襲するのではなく見直すべき。道路については住民の声を受けてまとめるべき。
13	高齢者施策については、ソフト事業の充実を。特に高齢者の見守りについて。
14	市職員の採用試験の際に障がい者の雇用枠確保を。
15	今後も職員接遇の改善に努めてほしい。
16	今後の計画策定について、絵に描いた餅にならないように。ただコンサル料を支払うような計画づくりをしないように。



〈重富地区〉

建昌・始良地区

平成23年2月2日 午後7時～8時54分 於：始良公民館 参加者：22名

意見項目	
1	道路整備について。アンケートで、住みよさ、住みにくさどちらにも上位に挙がっていた。道路側溝のふたがないところ、道路が平坦ではないところなど整備が不十分のところがある。高齢者の立場に立った道路行政を。
2	河川の護岸点検を。
3	ごみ問題。3地区揃えようとする時間がかかる。回収方法を変更できる部分から変えてほしい。若年層の負担が多く、自治会リサイクルの当番からの脱退が相次いでいる。資源物収集で手数料を別途徴収している。
4	くみ取りおよび合併浄化槽点検手数料について、基準等を説明してほしい。高齢者には分かりにくい。
5	現行の資源物回収方法で何ら問題はない。
6	雇用について。企業誘致等の予定、計画はあるのか。
7	バスの標識が巡回バス、民間路線バスを問わず、ない所がある。確認し、設置してほしい。
8	財政は健全なのか。生産性向上のためにどのようなことを行っているか。職員1人1人の生産コストは。市の資産管理は。
9	職員数は削減の方向ではなく、失業者対策としてワークシェアを検討できないか。
10	(行政の姿勢として) 質は高く、敷居は低い感じで。自治会と行政がもっとタイアップできないか。
11	規模の小さな自治会の統合や自治会の規模等の適正化、平準化はできないか。
12	今後、分野ごとで、この様な機会(座談会や学習会等)を増やしてほしい。
13	自治会長の選任について、適材適所、人材を活かすべきでは。
14	医療機関の医師による市民向けの講演会の実施。
15	バス。時刻やルートを誰もよく知らない。公共機関や病院等に時刻表やルート案内を置いてあると便利。
16	学校で正しい日本語を教えてほしい。語彙を豊かにする教育を。
17	ごみ収集。自治会方式をやめて、帖佐中横のステーションに出す方式にしては。今のようなトラブルが起きないのでは。
18	意図的に、商店街が形成されるような施策を。
19	道路を整備する際は自治会等地元の意見をまとめたうえで計画すべきでは。建昌小の正門を削り、多くの民家を買収して道路を通そうとしているが無駄ではないか。
20	観光の話が全く出ない。駅に観光案内所を設置、別府川に納屋船を彷彿させるような屋形船を浮かべるなどできないか。
21	用水路での蚊の発生は、用水路に勾配がないから。ハエは公園のトイレから。公園のトイレの水洗化を。インフラ整備が進んでいないように感じる。
22	議員報酬は日当制でいいのでは。
23	旧サンピアについて。当時なぜ買い取ることができなかったのか。
24	役所の横の連携をとってほしい。
25	バイオマスタウン構想を市民にもっと広げてほしい。
26	田を安易に埋め立てては飲料水の水源となっている地下水が枯渇するのでは。
27	道路拡張予定地になぜアパートが建つのか。作らないように強い態度で阻止してほしい。
28	市では公共下水道は考えないのか。企業立地の際のインシヤルコスト、生活環境整備の点からも検討しては。



〈建昌・始良地区〉

**始良市総合計画審議会
意見交換会**

始良市総合計画審議会意見交換会について

○開催日

平成23年2月22日（火）

○時間・場所

昼の部 午後3時から 市役所2号館3階 第1委員会室

夜の部 午後7時から 市役所1号館2階 大会議室

昼の部

・第1グループ

No	区 分	役 職 等	委 員
1	(1)市議会議員	議長	兼 田 勝 久
2	(2)公共的団体の代表者	始良・伊佐地域振興局	山 下 修
3	(2)公共的団体の代表者	始良市社会福祉協議会	新 屋 幸 一
4	(2)公共的団体の代表者	始良市各種女性団体連絡協議会	湯 川 久 子
5	(2)公共的団体の代表者	始良市老人クラブ連合会	川 田 サチ子
6	(2)公共的団体の代表者	始良市観光協会	蓑 毛 五 男
7	(4)その他市長が必要と認める者	公募による市民代表	奴久妻 修 一

・第2グループ

No	区 分	役 職 等	委 員
1	(1)市議会議員	副議長	出 水 昭 彦
2	(2)公共的団体の代表者	民生委員・児童委員	徳 永 聰 子
3	(2)公共的団体の代表者	加治木地区校区公館連絡協議会	鶴 田 一 夫
4	(2)公共的団体の代表者	始良西部森林組合	猶 木 龍 美
5	(3)学識経験を有する者	鹿児島志學館大学教授	河 原 晶 子
6	(4)その他市長が必要と認める者	公募による市民代表	延 時 健 悟



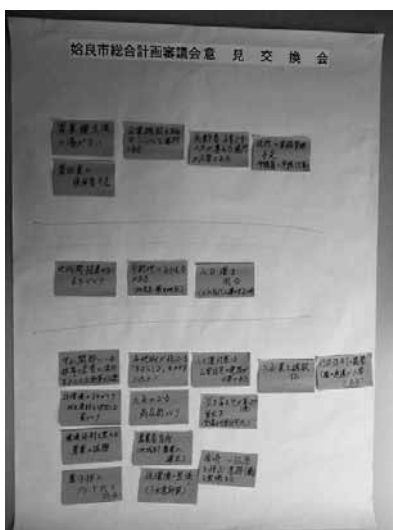
・第3グループ

No	区分	役職等	委員
1	(1)市議会議員	総務常任委員会	湯川逸郎
2	(1)市議会議員	建設水道常任委員会	谷口義文
3	(2)公共的団体の代表者	始良市教育委員	福元俊子
4	(2)公共的団体の代表者	始良地区自治会連絡協議会	竹下敬喜
5	(2)公共的団体の代表者	蒲生地区公民館連絡協議会	有村穆尚
6	(2)公共的団体の代表者	始良市保育協議会	岩男昭一
7	(4)その他市長が必要と認める者	公募による市民代表	山下拓男

夜の部

・第4グループ

No	区分	役職等	委員
1	(2)公共的団体の代表者	始良市NPO法人協働ネットワーク	立山芳輝
2	(2)公共的団体の代表者	始良町、加治木町、蒲生町商工会	岩下吉廣
3	(2)公共的団体の代表者	始良町、加治木町、蒲生町商工会	秋丸紘一
4	(2)公共的団体の代表者	始良市PTA連絡協議会	丸山睦子
5	(2)公共的団体の代表者	始良郡医師会	川原和也
6	(3)学識経験を有する者	鹿児島志学館大学教授	河原晶子



第1グループ

	チャンス	心配
	九州新幹線の全線開業 定年後に帰ってくるができる市 中国マネーの取り込み グローバル化	若い人が市政に無関心 企業誘致に今後期待できるか疑問 将来的な食糧難への対応が心配 (農業の充実、農産加工の活用) 老人会の加入者が少ない 急速な少子高齢化
良いところ	他の模範となる施策の方向性	現状維持を図り住民が納得できるための施策の方向性
重富海水浴場が素晴らしい 県の総合拠点施設が多い 加治木港の交通の利を活かす 須崎海岸の活用 空港に近い 人口の増減の変動がない 交通の便がよい 観光資源（白銀坂、龍門滝など）が多い	・地域資源（観光施設や県の総合拠点施設など）を最大限に活かし、空港や港とアクセス道路の利便性を活用した観光客の集客を図る。また、国内だけでなく中国などの観光客などを視野に入れた施策を打っていく。	・人口変動の少なさやアクセスの良さを他地域よりもすぐれた点として活かし、須崎の用地などに企業誘致を展開する。 ・交通の良さや公共施設の充実を活かした人口の維持、増加対策を打ち、老人会などの各種団体の連携を強化し、人のつながりのある住みやすいまちづくりを目指す。
悪いところ	全体的な底上げを図り、住民が納得できるための施策の方向性	住民サービスとして最低限保証するための施策の方向性
合併による課の統廃合により住民が困惑 行き止まりの道路が多い リサイクルの負担が大きい ファミリーサポートの無料化 観光資源が多いが未整備 上場地区は交通が不便 商工会・観光協会のつながり 市としての特徴がない 海の水がきたない 老人会同士の交流がない	・定年後（年をとっても）、田舎暮らしが出来るようなインフラの整備（道路や観光資源）を図り、バリアフリーな地域づくりをしていく。 ・観光協会や商工会など各種団体が連携し、新幹線の顧客情報を共有し、観光客をおもてなしの充実を図っていく。	・始良市としての一体感の醸成を早急に図るために、市の魅力や地域情報を市民全体に発信し共有していく。 ・少子化・高齢化に対応すべく、リサイクルや子育て支援の在り方の見直しをしていく。

・その他意見

子どもたちが伸び伸びと出来る施策をしてもらいたい。
発想の転換が大事。食の安全、治安の良さは世界に誇れるもの。
空き家・空き地を別荘代わりとして活用できないか。
国際交流都市として位置づけができないか。（グローバルな視点が大事。）
郷土愛が旧3町で強いが、良い面も悪い面もあるため、郷土愛をいい方向にもっていけたら。



第2グループ

農 業 ・ 商 工 業	農林業の後継者不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業、林業後継者の確保。 ・ 独身男性が多い。(結婚しない) →生活力が無い
	農業者育成（地域別農業の確立）	<ul style="list-style-type: none"> →農林水産業で生計を立てていけるような基盤づくりを行うべき →商工業との均衡が必要
	農作物のブランド化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域における集落営農などの取り組みだけが、農業振興につながるものではない。 →零細農家における「水」にかかる環境対策に貢献している。 ・ 森林保全が「水環境」の改善につながる。しかし人材が手薄である。（緊急雇用対策で多少の改善はあるが、限界がある。※予算措置等）
	環境体制を整える。農業の振興。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町場地域の生活者として、人の手が入り良好に管理されている山林を見てみたい。 ・ 就農のためのノウハウを集約した専門窓口の設置
	中山間部にいる独身の若者に活力を与える施策が必要	<ul style="list-style-type: none"> →担当者が代わり、国県補助金が終了すれば以降続かないような体制ではダメ →リーダーの育成が必要 ・ 地域ごとの特産品化を図る
	異業種交流の場がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異業種交流会が必要 →農家と商売人など、新たなサービス、付加価値が生まれる可能性がある。
	企業誘致をするには「ハンパ」な場所にある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧3町の「市街地」は、その区域を広げながらつながることはあり得ない。 →加治木、蒲生のまちなみ（商店街）は残していくべきである。（10号線沿いは悲惨な状態。どこでも見受けられる景色に魅力は無い。）
	大企業を誘致する	<ul style="list-style-type: none"> →各地域の面白さ、質を高めていく必要がある。
市街地に趣がある（加治木・蒲生地区）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始良市は企業誘致を行うには“中途半端”な場所である。（鹿児島市、霧島市に挟まれて） → しかし、鹿児島市、霧島市とほぼ同様の立地条件である。 	
元気の出る商店街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大企業でなく“きらりと輝く”中堅企業の誘致が効果的ではないか。 →大企業に頼るまちづくりは、景気の影響を受けやすい。 	

住 環 境	住環境の整備（下水道施設）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元木材の活用 ・ 市の中で“質の高い”暮らしを実現する。 ・ 人口の増加による消費拡大
	人口増対策は、公営住宅の建設が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宅地分譲地の開発だけで市街地のみの発展で終わる →中山間部の空き家を始良市が借り上げ、市営住宅として低廉な価格で子育て世代へ提供すべき。 →しかし、最近の子育て世代は古い家には入りたがらない。（蒲生での取り組み事例はあるが…）
	空家を市が買い上げ（借上げ）貸し出す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定住意思のある子育て世代の相談窓口の一本化が必要 ・ 転入、転出届にその理由を記載させればよいのではないかな。
	住環境のまちづくり。地元資材を使用した家づくり。	<ul style="list-style-type: none"> →なぜこの地を選んだのか、また出ていくのかなど。 →松原地区に移り住んだ市民の前住所地の統計を活用できないのか。 →今後の施策の参考になるのではないかな。
	須崎～松原を結ぶ道路（橋）を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸を周遊できる道路の整備 ・ 市としての都市機能の向上を図るために、加治木須崎から始良松原への架橋が必要。

福祉	高齢者・子育て中の方が集える場所が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害などの被害を目にする機会も多く、高齢者の不安感が広がる。 →みんなが集う施設が各地域に必要（歩いていける距離、誰でも利用できる施設。）
----	-------------------------	---

地域	地域間格差のないまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まち場と中山間地域との均衡のとれた発展 ・人口は減っていく →3地域は「個々」に存在していく。各地域の魅力を高めていくことが大切。 →地域別の振興策が必要
	各地域が持っている「すばらしさ」を伸ばす方法を。	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地＝中山間地域との交流が必要 ・蒲生地区の上場地域には休校中の学校があり、下場地域との格差が大きい。

行政	役所の業務管理不足（市職員の意識改革） 行政体制の構築（横の連携が必要である）
----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代、次々世代への施策の継承を考えるべき。 →今の世代のことだけではいけない。孫の世代に受け入れられる施策でなければならない。自己欲をコントロールすることも必要。 →「今」住んでいる市民にとっての「暮らしやすさ」だけでなく、これから始良市で生活しようとする人にとって魅力ある町にしなければならない。（鹿児島市、霧島市等との競争） ・「物言わない世代：30代男性など」からの意見を聞くべきではないか。 →若者対策を意図的に行う必要がある
-----	---



第3グループ

目標：人口を増やす

人口を増やすこと=住みやすいまち	住み良い環境	住んでみたいと思うことが大事
施策の実行である	始良市の魅力 降灰が少ない 煙突がない→空気がきれい	

人の心を豊かに	雇用の確保	医 療
豊かな人間性	仕事が少ない。働き口がない。企業誘致。雇用の確保。	小児医療の情報提供
思いやりのあるまち		

暮らしやすい環境	商店街の創成	コミュニティの強化
菜園付きの市営住宅	商業、商店街の確立。点を面に。現況は分散している。	自治会の再編→財産問題。地区公民館の再編。
	にぎわいの創出。商店街。まつり。	小さい自治会の合併（100戸以下）
		財産と運営の切り離し。地縁団体としての自治会。法人化。
		自治会財産の広域化。（了承するだろうか）
		ごみの減量化、分別の方法。→やりやすい方法。高齢者にやさしい方法。

農 業	まちづくり・インフラ整備	子育て環境の整備
休耕地対策。自然環境を再構築。観光農業。下場から耕作者を。	雨水 排水対策。連絡道、逃げ道がない。	安心、安全、医療、水道、住居（家賃）。
	インフラ整備。まず下水道。	住宅を建てる機会。保育の充実した地域。
	連絡道。逃げ道がない。	子ども達が集まる場所。公園。有料でも良い。
	コミュニティプラント。下水道をつなぐ。各事業の連結。	子育て世代。安心できる環境。教育環境。
	企業の誘致。	フリースタールの設置。
	道路の整備。蒲生へのバイパス。	子育てから高齢者対策。
	住宅街の行き止まりの道路が多い。開発業者の指導。	保育所が足りない。遠足がすべて市外である。
	都市計画。	待機児童の増加。

教育環境の整備	高齢者問題と対策	交流人口の増
高校・大学の誘致。	70歳以上、保養券を配っても移動手段がない。	観光。九州新幹線の全線開業。宿泊施設。
小学校区の状況。校区の再編。	保養券の利用率が上がらない→別の対策が!!	始良カルデラを核に14の市町と始良市の名称を市や市外の人に認知してもらう。
マンション・アパートより市営住宅の建設。	ヤクルトを配って安否確認を!!	遊覧飛行。鹿児島港と錦江湾。地理名称。地域の愛称。発祥は始良市。歌碑。
保育所の充実。幼稚園の充実。	ヤクルトを配りながら買い物支援	温泉施設のある宿泊施設の整備。
スポーツ、合宿が無い。宿泊施設が無いため。		島津家久の歌碑。
		少ない予算で効果的な事。人。
		漁業。海づり公園はできないか。
		始良ビューのルート。単に観るだけでない。俳句を詠んでもらう…おもしろいアイデア。



第1回
まちづくり50人委員会

総合計画策定に係るまちづくり50人委員会について

○ 応募資格、募集期間等

■応募資格 始良市に在住または在勤、在学している16才以上

■募集期間 平成23年3月1日（火）～3月18日（金）

○ 委員会の構成およびまちづくりのテーマ

委員会を、以下の7つの分科会で構成し、まちづくりのテーマに基づき、意見交換等を行いました。

分科会名	まちづくりのテーマ
高 齢 者	医療体制、地域での介護、生きがいづくり、高齢者施設など
子 育 て	保育所、幼稚園の充実、学校教育、学童保育、子どもの見守り体制など
居 住 環 境	道路、街路・防犯灯、用排水路、公園、公共交通など
防 災 ・ 防 犯	防災設備、災害や緊急時の情報・避難体制の充実、防犯対策など
産 業	農林水産業、商工業、観光、特産品、雇用対策など
環 境	ごみ処理、リサイクル、不法投棄、河川浄化対策など
地 域 づ くり	地域の活性化、人材育成、共生協働によるまちづくりなど

○ まちづくり50人委員会 委員名簿

分科会名	No.	氏 名
高 齢 者	1	石井 洋子
	2	佐藤 一義
	3	大島 皓尚
	4	中西 寛治
	5	江良 伸一
	6	益口 朗美
	7	長友 進史
子 育 て	1	川寄 猛
	2	上谷 雄二
	3	谷口 正文
	4	黒木 徹
	5	斉藤 洋子
	6	杉尾 育代
居 住 環 境	1	今村 允彦
	2	松尾 彪
	3	塩入 英明
	4	内村 陽子
	5	後藤 典五
	6	原田 照代
	7	北村 教子

分科会名	No.	氏 名
防 災 ・ 防 犯	1	山内 栄一
	2	横溝 和恵
	3	瀬上 征一
	4	上野 浩
	5	加治木徳三
	6	三月田淳子
	7	山村 真人
産 業	1	折田 秀三
	2	上福元克己
	3	池辺 信也
	4	高江 美博
	5	尾之上征夫
	6	大迫 宏
環 境	1	亀澤 勲
	2	奈良島いつこ
	3	新村 俊夫
	4	西迫 雅子
	5	内村 秀喜
	6	播磨ヨウ子

分科会名	No.	氏 名
地 域 づ くり	1	持原実代子
	2	能塩 祐希
	3	川畑 聖子
	4	久保 貴輝
	5	岩下 直美
	6	花田さつき
	7	吉野 博昭

第1回 まちづくり50人委員会について

○ 日程等

開催日時：平成23年4月17日（日） 9：00～12：18

場 所：始良公民館 大会議室

参 加 者：46名

9：00 開会

9：08 ワークショップの進め方について（全体説明）

9：20 ワークショップ

11：00 全体会 グループ発表

11：57 市長総評

12：00 全体会 全体討論

12：18 閉会

01 高齢者

長 寿
気楽なイベント参加
甘えるな高齢者（行政頼り）
健康長寿の時代
人と話をする!!
本・新聞の読める高齢者に
スポーツの振興
こつこつ動く
自分のことは自分でやる（自立）料理など
愛される（かわいい）高齢者になろう
世代間交流（子ども達との）
共同で農園 畑仕事をする

医 療
総合病院の設置は難しい!!（専門医が多い）
医療費の削減（医者にかからない）
介護予防（日常の）
制度で対応できない部分の保障
近所に身寄りがいない
ショートステイサービスの要望が多く、サービスを受けられない
医療・介護サービスの需要と供給がマッチしない部分がある
開業医のネットワークづくり
認知症の家族を持つ方々の話し合いの場を持つ
特技を生かしたイベント・ボランティア活動の推進、場作り
病院にかからないように!!
要介護者にならない 要介護者になることを少しでも遅らせる

地 域
「今さら…」の言葉
社会生活での平等も必要
隣近所とのお付き合い
緊急連絡等地域の応援が必要
認知症・介護の地域（小グループ）の学習・意識づくり
知っている人からの支援は遠慮したい（知らない人なら…）
葬儀屋、パチンコ店の多い通り…
個人情報保護が行きすぎ
無料サービスに高齢者が巻き込まれる
24時間開放の公民館が必要
地域の中での生活支援・応援団が必要（1人ではない!!）
地域内で目が届くような体制（リスト）を作る
出かけていきやすい仕掛け作りが必要
あいさつが必要
現在の社会にあった（人権等に配慮した）隣組
地域内での終期までの介護が必要
地域内でのシルバーセンター的なものがあればいい
登録制のボランティア（小規模なものでOK）



交 通
運動公園までのバス路線が少ない（イベント時のみ）
民間企業とのタイアップ(コンビニ・スーパー等)
牛乳配達とともに買い物をしてあげる(TVの例)



生きがいつくり
75歳までに何ができるのか
高齢者の働ける場所（ボランティアも含んで）
生きがいつくり がんばってほしい
元気な高齢者は多い
地域内の楽しみが少ない
男性の参加が少ない
夫婦どうしの相互理解
男性の参加が少ない 考え方を考える（楽しんでサロンに参加）
男女平等の考え方の推進
知識等を活用する場が必要（講師等）
高齢者の働ける場所（ボランティアも含んで。） 「歌声喫茶」

● グループ発表 要旨

- ・ 主なテーマは、医療、福祉、総合病院の設置、独居老人や高齢者の病院への交通手段の確保。
- ・ 元気な人がどのように手伝うか。手伝いたいと思っても、シャットアウトされる。働きかけの（中に入っていく方法）仕方を工夫すれば、受け入れてもらい、入っていくことができるのでは。自治会や地域で、生活弱者をどのようにサポートするかが課題。
- ・ （市に対する）要望はたくさんあるが、（予算など）限りがある。お金をかけずに行うにはどうすればいいか。
- ・ 特技、技能を持った人はたくさんいる。それらの人々をどのように活かすか。参画の仕掛けづくりが必要。
- ・ 地域でのコミュニケーションの取り方も、スポーツやサロンなどさまざまある。家から外に出る仕掛けづくり、声を出してもらえる仕掛けづくりが必要。
- ・ 元気な高齢者、自立できる高齢者を目指す。
- ・ そこに（地域での活動やサロン等）行きたくても行けない人をどのように、（介護等の）サービスを使うだけでなく、地域やボランティアでサポートするか。
- ・ 極端な言い方をすると、自立自助、医者にかからないようにする、健康寿命を延ばす。
- ・ 地域で、地域にとってもなかなかできない。特に男性は苦手が出たがらない。まず、あいさつからすればどうか。子どもの方がよほど上手にあいさつをしている。かわいいと言ってもらえるような在り方を。
- ・ （地域での）楽しい場づくりはコツコツ積み重ねて出来ていくもの。小さな場でも出ていくようにする。
- ・ 笑って、助け合い、介護・介助し合えるような雰囲気。
- ・ すでに、介護サービスを受けなければならない人たちへ税金（必要なサービス）が行くように元気な者はできる限り、補助金（サービス等）を使わないようにする。

02 子育て

	出産前	乳幼児期	学齢期
始良市の子育て環境の良い点・悪い点	産婦人科医の不足 母子検診の充実	公園・広場 安心して遊べる環境 公園の整備が不十分 大きい広場等が少ない 幼児保育 病児保育の実施施設が無い 保育条件の在り方 保育所等の数が足りているのか 保育料 ※延長保育料のばらつき 幼稚園の給食について 子育てサークルの充実 障がいを持った子どもの受け入れ 地域での子育て 医療機関・乳幼児医療 希望に答える保育園・幼稚園の整備 予防接種 医療体制の集約化	中学校の学区見直し 山田中学校の統廃合 支援を必要とする子供への対応 障がいを持った児童への教育 児童クラブの時間 夏休み等 学童保育の充実 学力の二分化 学校からの送り 集団下校の実施

	出産前	乳幼児期	学齢期
これから必要と思われる支援策	安心して出産できる病院の確保・充実 (国立病院の産婦人科)	空き地を利用した遊び場 特別支援を必要とする幼児の保育所の整備 保育園・幼稚園での幼児が病気の時 預かってくれる小児科医院の設置 医療機関の連携 子どもを守る DV対策 ネグレクト対策 子育て世代の親の精神ケア (相談窓口の充実) 子育てサークルの整備 未就園児の子・親がいつでも自由に 集まれる施設の充実 (鹿児島市内のり ぼん館のような) 地域での子育て	行政サービスと民間サービスのすみわけ 教師のレベルアップ 学力の向上と人間性 豊かな教育の充実 ひとり親世帯のサポート 手当の充実 保育時間の延長 小・中学校区の見直しを早急に考える 中学校の特認制 地域での学童保育 地域の施設を活用
		老人と子育ての連携 (世代間交流) 皆が安心できる子育て	

グループ発表 要旨

- 3つの時期に分けて考えた。 i) 出産前 ii) 乳幼児期 iii) 学齢期
それぞれ何が課題・問題で、どのような支援策が必要であるか。

i) 出産前

- 母子検診は充実している。
- 市内に産婦人科が少ない。子どもを産むのに不安である。鹿児島市まで行かなくても市内で出産に関わる医療を完結させられる環境を。

ii) 乳幼児期

- 子どもの遊び場が少ないのでは。道路で遊んでいて危ないと思うことがある。子どもを安心して遊ばせることができる場所、公園、空き地がほしい。空き地を有効活用できないか。利用状況や遊び場・遊具の整備と既設遊具の点検を。
- 未就園児の親が集まることができる場所、サークル等の充実を。活発に活動している子育てサークルが少ない。
- 病児保育の実施。子どもが病気の時に預ける場所がなく、仕事ができない。また、子育てサポートセンターを利用する人もいるが、有料のため1日預けると働く人への負担は大きい。病院が病児保育を実施してくれれば、もっと安心して預けられる。小児科との連携により、鹿児島市や薩摩川内市をならって病児保育を実施してほしい。
- 障がい児、特別支援等について、児童期からの対応となっているが、未就学児についても対応できないか。（保育所、幼稚園での対応を。）

学童保育が利用できないため、保護者が働けないのが現状。将来、子どもの就労支援も大事。

特別支援施設について、市内では南九州病院があるが、受け入れ枠が少ないので受け入れ施設の拡充を。

- 預かり料（保育料等）が公立、私立の幼稚園で異なる。また、市立幼稚園の給食にばらつきがある。週2回、給食がパンと牛乳だけの幼稚園もある。食育の点からもある程度、市で統一できないのか。
- 保育所や放課後児童クラブが不足している。他市では、地域のコミュニティセンターを活用し地域で放課後児童クラブを行っているところがある。放課後児童クラブは保育時間が短く、働く女性には時間が合わない。また、夏休み期間中だけの預りはしてもらえない。弾力的な運用を。
- ひとり親世帯に対する相談窓口の充実と時間外（保育）の延長を。
- 子どもの虐待、ネグレクト対策。いかにして子どもを守ってあげるか、早期発見には行政の対応が必要。親として、どうやって子どもを守るか。一番は子どもへの愛情ではないか。
- 高齢者との連携を。交流を増やし、子育てサークルなどへの出番を増やしては。



- 子どもの学習能力の二極化が進んでいる。（親の財力、本人のやる気、能力等々）
- 教員の授業力を高めることが必要。良い先生を引っ張らなくてはならない。学力だけでなく、思いやり、人間性を育てることができる教員の資質の向上が必要。
- 中学校の学区見直しを。小規模校を救いたい。中学校も特認校制度を導入できないか。通学は巡回バスなどで対応できるようにすれば良いのでは。



03 居住環境

	良いところ
	<p>◎人間力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草刈りなど自主的にしている ・人付き合いが良い ・近所付き合いがあり安心 ・行事に参加する ・子供たちが明るい <p>◎環境面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑が多い ・道路が広い ・観光地である ・県央に位置し、鹿児島市のベッドタウンとしても機能する「居住都市」。 ・地域独自の水道で水が美味しい ・何より住んでいて落ち着く ・立地面の良さ <p>◎交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的な利便性あり ・民間企業とのタイアップ(コンビニ・スーパー等)
チャンス(機会)	他の模範となる施策の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りが多く、沢山の知恵を持っている。 ・山間地で風力発電設置が可能 ・一次産業の強みがある ・豊かな自然がある ・知名度はそこそこある ・世界遺産もある ・鹿児島空港から近く、高速やJRもあり交通の便に恵まれている。 ・ハブ空港の可能性 ・自給がしやすい(農業) ・県の中心地で、国・県の施設誘致が可能 	<p>共生協働の地域づくりをしていく機運を醸成し、住民自ら、より住みやすい居住環境づくりを行っていく。</p> <p>高速道路やJR、空港など核となる交通手段が揃っており、観光地への2次アクセスを整え、より一層の集客を図る。また、立地や水、緑などの他都市よりも優れているところのPRを行い、始良市全体を「居住都市」としての地位を確立していく。</p>
心配されること	全体的な底上げを図り、住民が納得できるための施策の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による農業離れ ・都市部よりの転職(農業等の誘致) ・子どもが少なく高齢者が多いので、人口が少なくなるのでは。 ・地盤が弱い ・錦江湾は内海だが、地震があった場合、海岸部は被害が懸念される。 ・桜島・新燃岳の中間地、挟み撃ち。 ・職場が少なく、若者が市外へ。 ・高齢化で空き住居が増大する ・空き地・空き家を整備して、若者の誘致で活性化を。 	<p>交通の拠点(空港、JR、高速、国県道)と周辺部との2次アクセスを充実させ、交通手段の確保を図るとともに、観光客を交通の拠点施設から観光地へ誘導するような交通手段を形成していく。</p> <p>住みやすい環境を整えるために、公共施設(官公庁、学校、公園)の配置(バランス)を見直しを行い、適切な配置をしていく必要がある。また、併せて遊休施設、空き家などの活用も検討する。</p> <p>住民のマナーアップを図るための啓発や広報を積極的に行い、住民自ら住みやすい環境づくりをする機運を醸成する。</p>

悪いところ		
<p>◎環境面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で逆に見えていない <p>◎交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスが通っていない ・通学が困難（特に高校） ・車がないと生活できない ・高齢化が進み、交通手段がなくなる ・自家用車が無い人の交通手段の確保 ・旧10号の歩道は、通行しにくい区間が長い ・市の中心駅は「帖佐」なのに、特急「きりしま」の一部が停車しない ・交通の便は大変良いが、山間部で不便 ・夜が暗い 	<p>◎マナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人のマナー ・犬のふんが多い ・アパート等のごみ出しマナーが悪い ・地域的なマナー ・川や海をきれいに <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童など利用できない ・始良市の中心部に中学校がない（帖佐中・重富中 遠い） ・官公署の多くが加治木に偏在している ・7万都市としては、市庁舎が狭い。 ・休校の学校が利用されていない ・過疎化が進み行事が消える→過疎地を利用して大型店舗を誘致できないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・店が無い ・人口とインフラが比例していない（例：最多人口地区の始良に高校がない） ・ネット環境が整っていない ・市営住宅にインターネット回線が充実していない ・川幅が狭くなっている、災害が心配。 ・公園的な緑地が少ない ・農地転用計画がない ・空き家が目立つ、有効活用はできないか。 ・高齢者の遊べる所がほしい
<p>現状維持を図り住民が納得できるための施策の方向性</p> <p>少子高齢化により、これまで形成されたコミュニティの力の衰退が懸念されるため、子育て支援などのマンパワーが必要な分野を充実させ、住みやすい環境づくりを行い、少子高齢化を最小限に抑える必要がある。</p> <p>火山や地震など防災面での懸念が高まっている中で、住民の結び付き（人間力）により、事前に緊急時にできることを確認しておくことで効果を上げるとともに、居住の利便性と防災上の危険度を整理していく必要がある。</p>		
<p>住民サービスとして最低限保証するための施策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回バスなど普段の生活の足となる交通体系を整え、高齢者や高校通学者などの交通弱者にもやさしい交通ネットワークづくりを進めていく。 ・災害時にも機能するインフラ（道路、防災拠点施設）の整備を行っていく。 		

04 防災・防犯

情報の発信のしかた あらゆる手段がとられているのか(緊急時)	災害情報伝達網の整備
避難所の案内地図	防災マップの見直しが必要
地域住民の防災に対する意識の向上	避難所の見直し
防災マップが認識されていない	民生委員と地域が連携をとる
地域内の災害弱者の把握が十分できているか	行政連絡員会議等で住民へのPR
災害弱者への対策が不足	自主防災組織の育成
	防災センターの活用を図る
	消防団員の育成
	災害の訓練が少ない
	専門指導員の把握

◎防災

良いところ
・防災無線が設置されている。
・行方不明者捜索等で消防団が役立っている。

悪いところ
・防災無線が聞き取りにくい。
・自治会に防災組織がない。(防災組織は自治会の会則にはあるが、活動はしていない。)
・災害弱者の対策が不足している。(例：防災無線だけでは耳の聞こえない方はわからない。)
・地域での安全確認をする機会がない。
・防災指導員の活用がない。
・災害の訓練が少ない。
・災害に対する意識が低い。

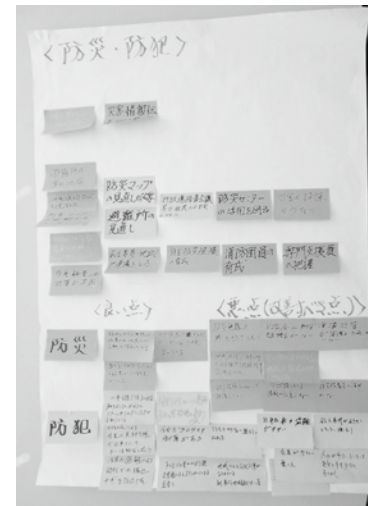
《対策》
○ 行政連絡員等の会で防災意識を持たせるためにPRをする。
○ 災害弱者の支援として民生委員と地域が日頃から連携をとる必要がある。(福祉アドバイザー等は、災害時の助け出し等は無理である。)
○ 9月1日は防災の日なので、それぞれではなく、始良市全体で防災・避難訓練を実施する。
○ 災害情報伝達網の整備(防災無線・災害弱者対策ほか)
○ 災害時の専門支援員の活用
○ 台風や桜島の噴火等部門別に整理しマニュアルを作成し、住民へ周知する。(防災マップの見直し。)
○ 行政に頼りすぎている。自治会を中心とした防災組織を構築する必要がある。
○ 県防災センターの活用。

◎防犯

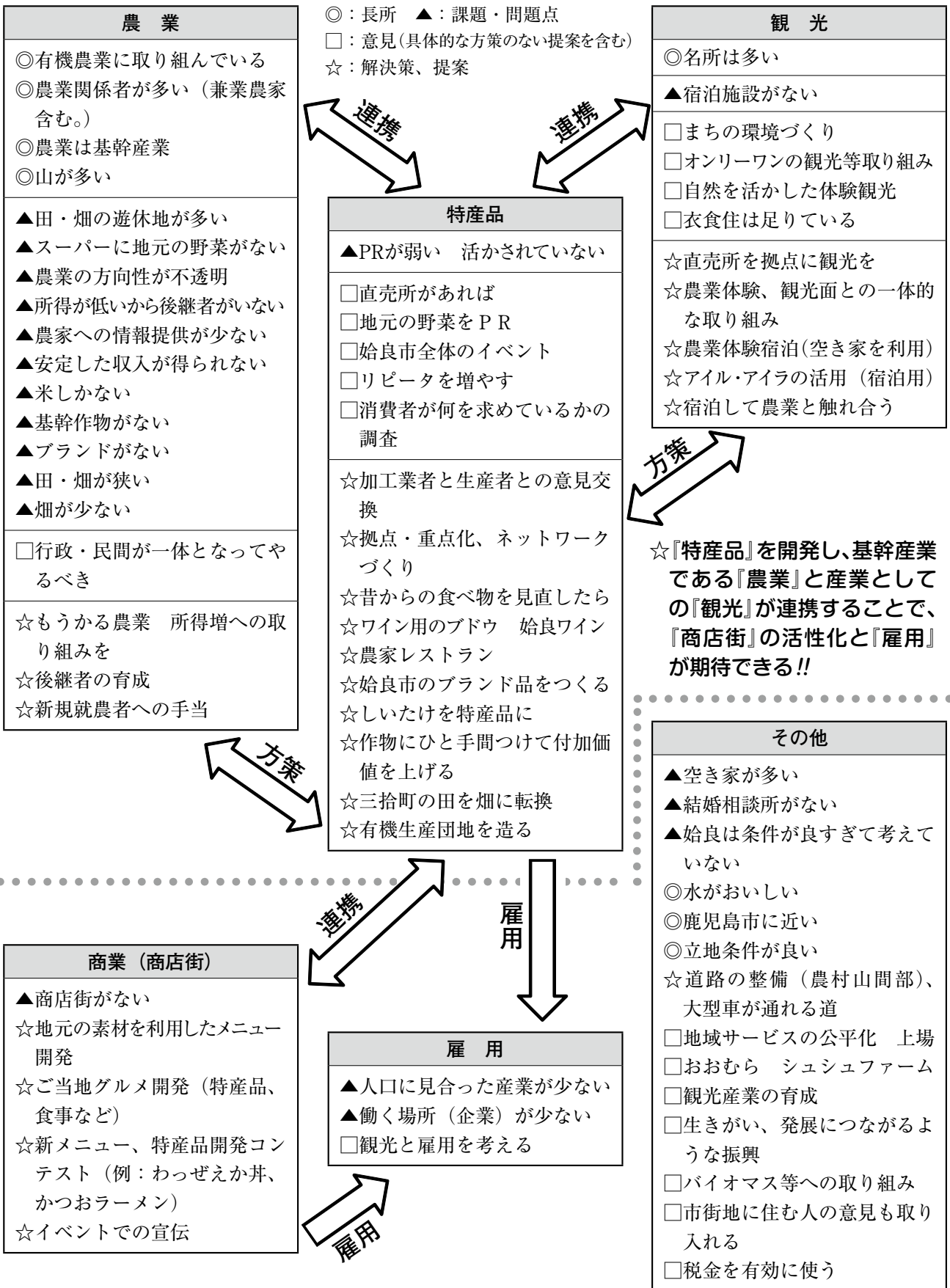
良いところ
・安全パトール等を実施している。
・PTA、子ども会、声かけおじさん、スクールガード、学童見守り隊等の活動が盛んである。
・安全ボランティア制度や、子ども110番、のぼり旗、ステッカー等で防犯について周知している。
悪いところ
・交番が少ない。
・自転車の盗難が多い。
・殺人事件が起きてしまった。

●グループ発表 要旨

- ・ 良い点としては、防災無線がある所は無線が役立っている。行方不明者の捜索に消防団が役立っている。子どもの見守りパトロール。
- ・ それぞれの防災に対する意識の低さ。自分のこととして捉えていない。民生委員や地域との連携、自治会長や行政連絡員に防災意識についてPRし、そこを通じて末端まで浸透させる必要があるのでは。
- ・ 消防団員の高齢化や入団者数の減少。消防団の育成も必要では。
- ・ 防災マップの見直しと末端までの周知。現行の避難所の見直し。県防災センターの活用。
- ・ 意識の見直しには防災訓練も有効では。旧町単位だけでなく市の訓練も行っては。
- ・ 防災無線がない所については、災害時（有事）の情報伝達、緊急連絡手段の整備が必要では。

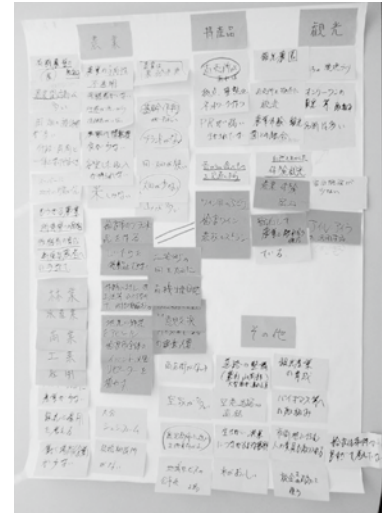


05 産業



グループ発表 要旨

- ・ 農業、特産物、観光がメイン。これらが、商工業や雇用にもつながるのでは。
- ・ 良い点は、有機農業や農業関係者が多い。
- ・ 悪い点は、（農業について）休耕地の多さ、行政と農家の連携、地元の農産物の取り扱いが地元（のスーパー等）でほとんどない、もうかる農業への転換、新規就農者の少なさと後継者問題、先行きの不透明さ。
- ・ （農業に関する）情報提供の在り方も改善すべきでは。畑が少なく、米ばかりでもうけが少ない。
- ・ 市の基幹産業は農業という割にはブランドや基幹作物がない。
- ・ 特産品についてはPRする所が少ない。直売所のネットワーク化。昔から食べていたものをもっと活かしては。
- ・ 地域資源が多い。それを活かした体験型観光施設が少ない。
- ・ 農業については市のブランド品。（しいたけetc…）ただ、売るだけでなく、加工し、付加価値を高めPRしていく。地元野菜のPR。産業祭（秋祭り）を市全体のものを行っては。（有機農産物の）リピーターを増やす、農家レストランなど地元のものを地元で食べられる仕組みづくりを。後継者や新規就農者への支援と同時に加工、食品事業者との意見交換の場を設けては。（作ったものを活かせるよう）
- ・ 観光については、地域資源を活かした、体験型観光施設を。宿泊施設を作って、消費者と生産者の結び付き（交流の場）を。
- ・ 農工商を結び付けることはできないか。鹿児島市の隣という立地を生かした産業振興と基盤整備を。これが就労（雇用）にもつながるのでは。



06 環境

環境教育＝身の回りの環境について

情報の提供
自分のしていることが自然へ与えている影響度を知らない
生活排水の自然への影響度合いの情報提供
市報で情報提供
自治会長で情報提供をする
自治会に加入していない人がルールを守っていない
情報は生ごみを減らす工夫につながる
ごみ分別の統一化（考え方）
火山灰の収集がない
焼却灰の収集がない
会に出席できない人への情報提供の在り方

環境・美化
地球規模
ポイ捨て禁止

啓発と実践（学習と実行）
みんなの意識を変えないといけない
学校での教育
学校での実践
親の実践が子どもの教育に
生涯学習の場
体験学習（大人も含める）
地域活動
地域（老人会）で缶拾い
高齢者への説明会等

川の水をきれいに
米のとぎ汁が川を汚していることを知らなかった
米のとぎ汁を1回流しても影響は少ないが、毎日である
川に流すもの 米のとぎ汁を川に流している
米のとぎ汁を、EM菌で浄化している
行政でEM菌を手配する
資源物を洗うことへの疑問（水が汚れる）
家庭排水への配慮
浄化槽の活用

地域づくりとごみ減量の取り組み
地域づくりとごみ減量運動の連携
資源物収集は、やさしさと思いやりを発揮する場所
資源物収集と高齢者宅への声かけ
おせっかいの心
もったいないの心
アパート・マンションの不動産屋への協力依頼



ごみ減量
ごみ減量は入り口から
3 Rの実践（基本）
リサイクル…今、私たちが便利に使っているプラスチックを自然に返すことができる？
リサイクルが基本
市販の弁当は自分の箸で
マイ箸の励行
マイバック持参で割引をしているスーパーがある
マイバックの持参率は九州で最下位
我が家のごみ（生）は、我が家で使い切りたい
ごみになるものは、買わない
分別（ごみ）の徹底
昔は豆腐を買う時は、鍋を使っていた
生活カレンダーの色使いが分かりづらい

CO ₂ 削減
二酸化炭素削減
公共交通機関を利用する
エコ…身体にもエコ（健康であるため）とはどんなこと
アイドリングストップ
節電
自家焼却の禁止



● グループ発表 要旨

- ・ 地球環境を守る。身の回りの日常生活で出来る環境保全活動として、河川浄化、ごみの減量、CO₂削減、環境美化。
- ・ 啓発だけでなく、実行を。
- ・ 生活排水の浄化には、浄化液の活用、合併浄化槽の普及。
- ・ ごみの減量には、3地区ばらばらのごみ・資源物の収集について早期の統一を。3 Rの実践、マイバック、マイ箸、ペットボトル消費の抑制。
- ・ CO₂削減はできるだけ車を使わず、近所は徒歩や自転車で。公共交通機関の利用。アイドリングストップ。節電、エコカレンダーや環境家計簿（市で配布）の活用を。
- ・ ポイ捨て。煙草の吸殻が多い。景観を損ねている。
- ・ 啓発活動が大切。地域、家庭、学校等情報提供、教育の場が必要。情報が皆に行きわたるような工夫を。自治会の未加入者や関心が無い人にも。環境教育が大事。

07 地域づくり

農 業
行政と一体となって新しい事業活動
市の援助
休耕地を活かす（若者・失業者の人に活用してもらおう）
休耕田の活用法
休耕田を花畑にする（夏・冬にひまわりとか菜種などを植える、目を楽しませる利がある）
地域で生きるための物資が生産でき、交流できるまちづくり
生きるための生産活動ができるのは強み
地産地消の推進
学校給食への納品

産 業 ・ 雇 用
ハローワークのサービス・設備が不十分
地域で失業者対策をしてみる（個人事業の支援など）
失業対策
市のお金（税金）の使い方について、もっと地元で落ちるような政策を。

観 光
始良市でできる観光
NPO、ボランティアを増やす
観光地としての魅力をあまり感じない
国立（海浜）公園ができるにあたって、地域・住民でできること

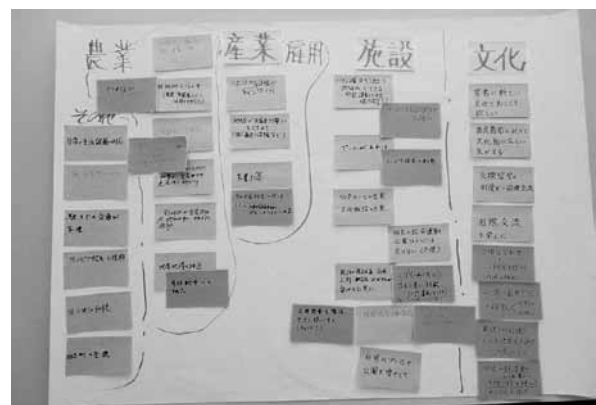
施 設
パチンコ屋ばかり目立つ（地域ごとのできる学習、運動の出来る場が不足しているのでは。）
サンピア始良の跡地を活用
プールがあれば
サンピア始良の利用
加音ホールの充実
文化施設の充実
始良の総合運動公園。1つでは足りない。（不便）
既存の県民の森、高岡公園。市民ほか、地域が楽しめる公園に。
公園（高岡公園など）に花木を募って植栽。（一花運動なるもの）年中花が絶えない公園。
休校中の校舎の利用法
休校中の校舎を宿泊できるようにする（キャンプなど）
高齢者施設として活用する
保育所や幼稚園を併設する
市営のプールや公園を増やして

文 化
若者に新しい文化を興してほしい
鹿児島市に比べて、文化面に乏しい気がする。
国際交流を盛んに
交換留学の制度を→国際交流
交換留学制度→奨学金を設ける（行政の補助）
一流の芸術（団）の招致を。学校や地域で。
英語（外国語）での交流会を広める。一般市民レベルで。
学校の部活動の発展→学校の枠を超えてサークルを作る

協働・自治会 子育て
子育てに良い環境づくり
子ども会
地域のお年寄りと子ども（若年層）の交流が少ない
縦のつながりがない
郷中教育(?) 地域内で年配者から若年層に教育を
子どもから高齢者まで、みんなで参加できる行事等の企画。
地域内での声かけ運動を お年寄り→子ども
自治会内の「見守り隊」
子ども会の範囲を考える
子ども会で地域のお年寄りを訪問する
自分たちの地域でお年寄りを支え合う体制づくりを
自治会内の人とのつながりが希薄
住民の地域づくりの意識高揚
地域ごと（市全体も?）に災害時の防災訓練必要
普段から隣近所の人たちとの交流が必要

その他
日常生活課題への対応
海・川をきれいにして
駅までの交通が不便
サンピア始良の復興
旧3町の和睦
旧3町の交流
働く女性の声を聞く
若者の声を聞く
地域コミュニティの在り方を語る…生きづらさ 生きる喜びなど
それぞれの生活者の生きづらさを徹底して洗って みる…意見を聞く
子どもの声を聞く
相談窓口からの意見の集約・分析

助け合い
住民から地域へ、地域から行政へのネットワーク強化。
ネットワークの構築
男女共同参画のまちづくり
市役所を中心にして、ショッピングセンター、銀行等を1か所にまとめて作る。
要件を少ない移動で済ませることができる
自治会活動にはいろいろな問題点がある。住民サービスは行政が行い、住民は本来の隣組にする。行政・地域・住民のネットワークづくり。
行政・自治会・NPO法人等の連絡協議会開催 共同と共生から自立と共生へ
コンパクトシティづくり
市民が主権者として提言し続け、政策に活かされるまち。社会は弱者、女性・子ども・若者・障がい者などが参加し、意志表明のできる地域づくり。
そこに生きる人が生きる希望をつなぎ、共に助け合って生きていける地域。
そこに暮らす全ての人が、生きていて良かったと思える地域づくり。各校区や地区ごとに助け合いの仕組みを。
各校区、個人の充実（教育・啓発）、地区に老若男女が集える拠点づくり。
個人の充実（教育・啓発）



●グループ発表 要旨

- ・ 全体的なことを扱う。
- ・ 協働、観光、文化、施設と幅が広くまとめられない。
- ・ 協働：子どもから高齢者まで皆が参加できる行事を。声かけなどについても、個々が意識を持つことが大切。このような助け合いによって（自分の身の回りに）どのようなことが起こるか考えたことがあるのか。
- ・ 観光：魅力がない。国立公園化に向けて地域で出来ることは。NPOやボランティアの育成等。個人では難しいところ。漠然としていてわかりにくい。蒲生では大クスなどいろいろと行っているようだが、加治木ではどうか。
- ・ 文化：若者に文化を興してほしい。文化面が乏しい。国際交流、交換留学の話は出たが、具体的な策は出ていない。
- ・ 施設：パチンコ屋だらけ。文化施設を充実させては。休校校舎の利用法、（市民）プールの設置、既存の公園の活用。
- ・ 産業：ハローワークの設備が不十分。市で失業対策等ができないか。
- ・ 全体的に市に対応してもらわなければ出来ないことばかりでは。
- ・ 今回だけでは、策までは出せない。（何度かする間に）徐々にいいアイデアが出てくるのでは。
- ・ 農業については休耕地を活かす。
- ・ 市議等は自分の利益のために動いていないか。



全体討論

市長総評

- ・ 地域の期待を感じた。
- ・ まちづくりは共生協働。地域のことは地域の方が一番知っている。その方達が守っていく。
- ・ 市では施設（斎場、消防、学校）の整備を進めていくが、これらの整備や行政がさまざまな事業等を進めていく中で、この50人委員会には横断的な発想で意見をいただきたい。
- ・ 50人委員会については、市報、ホームページ等で報告する。また、ご意見をいただきたい。



全体討論

- ・ 住環境について。住みたいまちのランキングに出てくるようなところと比較してみても、大都市圏であっても、少し離れると緑地や農地を持っているところがあるが、そこは誰が生産している緑地だとか、ここは、生産者はいないが管理している農地だとか明確に出ている。そうするとごみ問題も含め放置する者がいなくなる。参考にしては。
- ・ 子育てについて。補足。待機児童数が多い。対処方法は。（認可保育所の）定員拡充はできないのか。児童虐待の防止と早期発見。学校だけでは対応不可。対応策を。市内の中学校の維持。小さい学校には行かないとの話を聞く。学校は地域の核。学区制の維持を。
- ・ 公園が少ないとの話があったが、午前中（日中）は高齢者がグラウンドゴルフ等を楽しんでいるが、午後は空いている。子ども達が公園で遊ぶ姿を見ない。ゲームばかりになっているのでは。公園が少ないのではなく、遊んでいないだけでは。
- ・ テーマに障がい児の 카테고리を設けてほしい。
(座長：障がいの程度については。)
- ・ 程度は幅広く。障がい児(者)に関する情報も（委員会の）資料として提示してほしい。
- ・ テーマ、カテゴリー、中身の見直しも必要では。横断的なものが多い。
- ・ 高齢者については、長寿をキーワードとしてスポーツ・レクリエーションの推進や医者にかからないなどさまざまな意見が出てきたが、これらを具体的に検討する場、検討される場が設けられるのか。
(座長：今回は、項目だけが出されたグループもあったかと思うが、これまで行ったアンケートや行政座談会と合わせて7月開催予定の第2回では総合計画の素案を提示する。そこで、今回挙げていただいた項目がどのように反映されているか、確認していただきたい。)



会と合わせて7月開催予定の第2回では総合計画の素案を提示する。そこで、今回挙げていただいた項目がどのように反映されているか、確認していただきたい。)

- ・ 道路について。道路も広い、狭い、見方はさまざまある。（市が）重要な道路として見ているのか、生活道路として見ているのかわかるような資料も提示いただけないか。

(座長：今後、必要な情報は適宜提供する。(統計、地図等))

第2回
まちづくり50人委員会

第2回 まちづくり50人委員会について

○ 日程等

開催日時：平成23年7月10日（日） 9：00～11：47

場 所：始良公民館 大会議室・第2研修室

参 加 者：34名

9：00 開会

9：06 会の進め方について（全体説明）

9：12 基本構想案について（全体説明）

10：10 分科会

11：07 全体会

11：47 閉会

* 本文中のページは第2回まちづくり50人委員会に提示した基本構想（案）のページで、第1次始良市総合計画書のページと異なります。

第1部 分科会

第1グループ

基本構想案について（全体的に）

- ・ もっと地域住民の意見を取り入れながら、まちづくりのビジョンをはっきりさせていくべき。
- ・ この構想案は夢のような感じ。夢を実現するためには、費用がどれだけかかるのか。財政状況は。負担は。税金はどうなるのか。夢だけを語っているようにしか思えない。
- ・ 財源はどうなるかが大きな問題。どれだけ財源があるのか示してほしい。無駄を省いていく必要がある。
- ・ 基本理念は、よくできておりすばらしい。
- ・ まちづくりのビジョンをどうやっていくのか。いろいろな意見を求めるべき。
- ・ 安全・安心については評価しているが、産業については評価できない。
- ・ 1つの目玉的なもの、こういうものがあるという特徴がない。高齢者から税をとって、子育てにまわす。高齢者はパチンコにお金を使っている。子どもたちに負担（借金）を強いている。高齢者税を年金の中から負担する。キャッチフレーズを、全国にないものを作っていく。
- ・ 将来像について。働く場所がないから住めない。よって人口が増えない。始良市では企業を誘致するのは難しい。霧島・鹿児島市へ通勤でも良い。安心して暮らせるまちになれば、人口増につながる。
- ・ 企業誘致には、子育ての分野はどうか。学校教育の充実、子育てサロンなどの施設の充実が必要では。仕掛けるのは行政。民間企業のバックアップをしなければならない。平松や須崎などの公共用地の活用を。
- ・ 子育てや教育、働き場所については女性（母親）の意見を取り入れることも大事である。よそに出た子どもに、地元に戻ってくるよう説得するのは母親だから。

将来人口80,000人について

- ・ 8万人というのは無理なこと。どの年齢層で増やすのか、生産人口を増やさなければならない。子育てをしっかりとやるということが、人口を増やすことになる。
- ・ 一番暮らしやすいまちなら、人口は増えるのでは。
- ・ ビジョンがもっとはっきりしないと、人口は増えない。
- ・ 現状をもっとみるべき。全国的にも人口は減少しているのに、始良市だけが増えるのか。まず、ビジョン・計画を立てる必要がある。
- ・ 8万人を示すなら、もっとビジョンを描かないと何もみえない。
- ・ 医療は非常に大事。投資をすれば産業になる。そのことで人が増える。



高齢者について

- ・ 現在、子どもを育て、高齢者もみているが、他市町と比べ「あっ」と思うこともある。いろいろと問題が出てくる気がする。
- ・ 高齢者が多いことも問題である。
- ・ 高齢者の負担が、子どもたちにかかっているのではないか。
- ・ 現在の子育て世代は昔より恵まれている。むしろ高齢者が困っている。年金だけが頼りでみじめな生活をしている人もいる。
- ・ 小学生までの医療費無料は市の目玉である。高齢者にも年取制限をかけて医療費を無料にしては。（戦争に負けて苦勞をした高齢者に対し、下の世代が支えるのは大切。高齢者の安心につながる。）
- ・ 高齢者の医療費を無料にした場合、誰が負担するのか。行政では。財源問題が出てくる。行財政改革の推進が必要。
- ・ 自分の出納簿をつけているが、支出には消費と浪費がある。使わなければならなかったお金と無駄だった（パチンコなど）お金と。各自浪費を削り、貯金をする。行政にだけ頼らず、自分で守ることも大事。
- ・ 今後も高齢者は増えていく。病気にならないこと、元気でいることが大事。病気・障がい・生活保護などは手厚く保護する。少しでも子どもたちの世代にお金を残す。

子育てについて

- ・ 人口を増やすためにどうするか。子育ては重要ではないか。若者を支援し、子を産んでもらうことで年少人口が増加するのでは。
- ・ 住居・教育・医療について、若い世代の声を聞くことで、どんな産業（企業）が必要かわかるのでは。
- ・ 知り合いでダウン症の子どもを持つお母さんがいるが、福山まで学校に通わせなくてはならず、子育てに不安がある。行政として、いかに手を差し伸べられるか。
- ・ 保育園について、育児休暇中は退所をしなくてはならない。3歳ぐらいの子どもが遊ぶ施設が少なくて困る。また、障がい児を受け入れる保育園が少ない。働く親にとっては、病児保育を充実させてほしい。
- ・ 3歳くらいまでは母の元で育てられるような環境を。理想としては、少なくとも小学生くらいまでは、ただいまと帰れるような環境を作してほしい。
- ・ P14 「3 学校教育について」。市内で不登校・虐待・学習障がいの児童はどれくらいいるのか。現実には不登校・虐待・学習障がいなどのカウンセラーが不足しているのでは。もっと増やしていかなければならない。不登校・虐待・学習障がいへの手だての必要性を明記すべきでは。

共通（高齢者、子育て）

- ・ 他市では地域の高齢者ボランティアで、地域のコミュニティセンター施設を活用し、子どもをみてくれる。すばらしい形である。始良市でも作っていかなくてはならない。北山地区で高齢者と子どもの交流が図られている例もある。モデルを作れば広がっていく。
- ・ 高齢者が元気でいることが大切。元気でいてくれるからこそ、私も働いて、子育てもできる。

第2グループ

感想

- ・ 夢のような壮大な感じ、財政が心配だ。
- ・ 「自己責任」の言葉が入っていて良かった。
- ・ 水の件が入っていて良かった。
- ・ 斬新なアイデアが、入っているのか、入っていないのか判らなかった。
- ・ 8万人と7万5千人、5千人の差がわからない。
- ・ 独居老人も多くなってきている。昔ながらの人と人とのつながりが必要。
- ・ 人間らしいまちづくりが出来たら良い。
- ・ 県内一仲の良いまちづくり“心の豊かさ”。
- ・ 行政だけで作る計画ではなくて、市民の声を反映させた計画（構想）になっている。
- ・ マナーの問題が大事。
- ・ 「新市まちづくり計画」では、抽象的な表現だけになっていた。
- ・ ハード面が先行している印象。
- ・ 8万人は可能ではないか。
- ・ 人も環境も良いと、人が集まる。（人が人を呼ぶ…東京三鷹市）
- ・ 学校の芝生化をしているところがあるが、全市で出来ないか。
- ・ 小規模な小学校では上下関係が良い。

人口増対策

- ・ 子どもたちが働く場所が大事。みそ・しょうゆなどを造る施設など。（生産から加工まで。）
- ・ 地産地消は日本だけである。国内消費が大事。食料の自給自足を目指す。
- ・ 大企業で働いていた優秀な人材を集めて、技術を活かす。
- ・ 食を優先した方がよい。一次産業にチャンスがある。
- ・ 宣伝が大事。（市民一人一人が情報発信…ブログなど。）
- ・ 始良市は福祉が弱い。（充実すれば鹿児島市でなくてもよくなる。）
- ・ 雨の日に子どもが遊べる施設がほしい。
- ・ どこで何があるかわからない。正確な情報発信が必要。

コミュニティ 道徳について

- ・ 当たり前のこと。
- ・ 行政が発信するのではなく…。
- ・ 子どもの時から、しっかり教育していくことが大事。
- ・ 子どもが自然にできるには「啓発活動」が大事。
- ・ 日本人はまだ身に付いている方である。
- ・ 1人では出来るが、多数では出来ないことがある。



第3グループ

ページ・項目等	意見等
P31 地域別 まちづくりの方針	<p>委員：地域の分け方について。基準等は。</p> <p>座長：新市まちづくり計画では4つに分けていたが、今回は3つにした。南部は人口集中地域、中部は蒲生・山田・三船・船津地区、北部は山間地域との分け方。また、地域分けのラインは、はっきりしたものは示さない。</p> <p>委員：本ページの図では、加治木の南部、海岸沿いの方が中部に入っているように見える。南部と中部の境を伊集院蒲生溝辺線としては。</p>
目標人口 80,000人について	<p>8万人を目指すことは、良いことだと思うが、日本全体が人口減少傾向である中では相当の努力が必要では。この基本理念ではわかりにくい。</p> <p>まちづくりには骨が必要。「暮らしやすいまち」では、その骨にはならないのでは。</p>
県内一暮らしやすいまちについて	<p>何をもって一番とするのか。どれが一番なのか。個人的に、このフレーズは好きではない。</p>
-	<p>地場産物の消費拡大をうたっている以上、このような会合等で出すお茶も、県内産のものを出すべきでは。</p> <p>また、生活学校で環境活動の一環で、廃油の石けんを作っているが、公民館等で使われているのは合成洗剤。ただ、安いからとのことではまちの特徴は出せないのでは。</p> <p>本市に多くある山間部を活かしたまちづくりが必要では。漆などは雰囲気のある所が多くある。もっと活かしてみてもは。</p>
-	<p>1つの方向性を出しては。市としてどのようにするかという方向性が必要。</p> <p>都市の基本は美しくなければいけない。個性が必要。それがなければ何も語れない。</p>
P2	<p>「3町はこの山地の囲みの中にあり」</p> <p>→現在市として1つになっているので、海の表現も入れてみては。</p>
P6	<p>交通体系のところに加治木港と重富漁港も入れては。</p> <p>海上交通についての表現もあっていいのでは。</p>
P31	<p>このような地図の中に、山手（北部）、中部、南部（沿岸部）の循環的な、横断的な道路構想、叩き台も描かれていてもいいのでは。実現は難しいかもしれないが。特に北部については、西浦・漆・北山・雛場とを結ぶ循環線が、災害時に使用可能な道路という面からも必要ではないか。</p> <p>北部をどうするかと考えた時に、森林・自然環境を活かした、健康保養施設・教育施設を整備することで、併せて道路（インフラ）整備も進められるのではないか。</p>
人口増（80,000人） について	<p>目標としていいのでは。人口増にならずとも、現状維持ができるのでは。</p>
道路整備	<p>製缶工場付近の道路が狭い。大型車が通る際に離合できない。山手の道路整備もだが、このようなところの道路整備についても必要。</p> <p>船津温泉付近の道路整備も十分でない。</p>

ページ・項目等	意見等
基本構想についての感想	<p>鹿児島市が60万人、霧島市が12万人の人口をそれぞれ擁している。このような中で、基本構想にインパクトがない。そのために人口増を打ち出しているように取れる。このままでは、2市の間に沈んでしまうのでは。</p> <p>広域連携的な話はできないのか。鹿児島市から人口を持ってくるとなった場合、定住条件を整える必要がある。近隣との連携を取りながら、ともに発展する道もあるのでは。</p> <p>霧島市の総合計画を見たが、本市の案も同じような感じがする。個性を出すこともなかなか難しいこと。広域連携的な視点も必要では。</p>
企業誘致	<p>企業誘致は非常に難しい。起業支援を考えては。本市には立派な1次産業がある。これをもっと活かすべきでは。森林についていえば、森林組合が役割を果たしていない。農業も後継者がなく、このままでは衰退の一途をたどる。</p> <p>よそでは集団営農などで成功しているところ、会社として経営を成り立たせているところがあると聞く。面積の広い田んぼなどは、商品作物等への転作や観光農園化したほうが、発展性があるのでは。</p> <p>また、この地域資源や農業を用いてバイオ関係や健康食品関連の会社等と呼び込むことができるのでは。雇用も創出できるのでは。</p>
-	<p>財政的に厳しい状況下で、こんな計画を立てても実行できない。ギリシャの二の舞になるだけ。</p> <p>この状況下でいろいろなことをすることはできない。公営住宅の建設は、負の資産。維持補修費等がかかるだけ。選択と集中により有効な投資を行うべき。100万投資したら120万返ってくるような投資を。</p>
箱モノ	<p>箱モノがこれまでたくさん作られているが、ほとんど役に立っていない。中には農産加工センターのように役に立っているものもあるが。</p> <p>どのような施設が役に立っているのか、役に立つのか精査すべきでは。暮らしに役立つ施設を作るべき。</p>
男女共同参画	<p>高齢化は自然の流れ。ゆりかごから墓場まで安心して暮らすことができるようにさまざまな側面から支えるのが政治の務め。</p> <p>生活の知恵を多く持っている、さまざまな体験を持っている女性を、もっと政策決定の場に参画させるべき。</p> <p>まちの個性・特徴を活かしたまちづくりを。</p>
計画策定について	<p>行政側はすぐにこのような計画、文書等をまとめようとするが、作ったら終わりではない。課題は次々と出てくる。</p> <p>議論する場、課題を話し合う場を恒常的に設けるべき。</p>
-	<p>市政になかなか市民の声が届いていない。伝わっていないように思う。</p> <p>県央、県の中心部であるということはどう活かしていくかということは、住民も考えていくべき。県央にありながらなぜ発展しなかったのか。</p>
-	<p>30年前に引っ越してきた。</p> <p>ベットタウン化することで本市は都市化し、人口を増やしてきた。そのような中でコミュニティができてきたため、横のつながりが薄いように感じる。</p>
-	<p>高齢者施設や葬祭場が増えているばかりでは。</p>

ページ・項目等	意見等
有機農業について	記載について。担い手の在り方について、なぜ担い手ができないのかなどの問題認識が行政側に足りないのでは。
農業について	補助がなくても、やり方によってはもうけられる。やり方が問題なのではないのか。どうすれば利益が出るか、話し合う場が必要ではないか。他市の事例を参考に本市でも出来るものがあるのではないか。
食糧問題	50年後の世界人口は80億人を超えると言われていている。食物の争奪戦が起こると言われている。現在の日本の食糧自給率は20%を切っているのでは。
-	市として、始良市全体を見ながら手を打っていくべきでは。
有機農業について	ここで問題点がいろいろと出てきたが、この基本構想の中にも出てきている。国の雇用促進事業による市の有機農業人材センターができており、研修を受けている者がいる。受講希望者がどんどん増えていると聞く。人材を育てていく必要がある。
-	有機の認定を受けるには手間暇がかかる。また、なかなか利益もないというが、それでも続けているのは、子や孫に誇れるようなものを作りたい、安心・安全なものをとの思いからと聞く。50年後、100年後を見据えて行っていると。
-	有機のものを誰でも手にすることができる直売所等が必要では。
-	有機農業、農薬を使わないから安全なものと言えるのか。手間暇がかかりすぎるのでは、大量生産ができず、利益増につなげないのでは。
まちの美しさと個性	何をもって、そのまちをきれいとするのか。子どもが安心して遊べる公園が広いこと、きれいなこともその1つとなるのでは。 子どもが喜ぶ森、公園があってもいいのでは。森林を活かした公園あるいは、川辺の公園でもいいのでは。子どもを呼ぶことができる公園があることは、子どもだけでなく、若年層、子育て世代にとっても魅力的なもの。
文化面の充実	本市は他市に比べて若年層が多い。しかし、文化面で鹿児島市や霧島市に劣る。特に国際交流や国際理解の面で、劣る部分が多く、近隣に流出している傾向があるのでは。もっと文化面での充実があってもいいのでは。
伝統芸能、行事	太鼓踊りや馬踊りなど、多くの伝統芸能や伝統行事をもっと活かすことができないか。



第2部 全体会

全体討論

- P24の目標人口8万人について。

8万人とする必然性はどこにあるのか。国・県においても人口は減少の一途をたどっている。本市も同様の流れであり、さらに少子高齢化も進行する。8万人との目標人口を打ち出すのであれば、さらなるビジョン、目玉が必要では。安心して子育てができる、高齢者が住むことができる、雇用環境が整っている、医療福祉が整っているなど基本計画で具体的にすべき。

- ビジョンの中身は良いが、行財政に関する問題はほとんど記載がない。アンケート（総合計画策定に係る住民意識調査）の自由記載欄の結果で、行政に対する意見・不満が最も多かったにもかかわらず、基本構想でそのことに触れている部分がない。財源的な裏付けと、行革を進めていることを示してほしい。

- P1の1～4行目について。「パーソナリティ（人格）のあり方」の表現について。それから「終期」との表現。これから新市が始まろうとする所に終りの文字はどうか。「行政と民間が相互に補完し合いながら～」との表現がある。第3節では「市民と一緒に～」との表現があるが、ここでも住民と一体となつてとの思いの入った表現であってもいいのでは。

先ほど分科会で美しいとの表現が出ていたが、「始良」とはどんな意味かと市役所に聞いた。「始」の文字には見目麗しいという意味があるとのこと。それに「良」という字。見目麗しく良い所という説明書きがあっても面白いのでは。魅力を表すことができるのでは。

- 基本構想を見ると、現状認識や問題点などはよくできている。ただ、基本計画の作成にあたって考えてほしいのは、目標人口8万人や県内一くらしやすいまちづくりは、現状認識からはとても達成できるものではないのではないか。どうするのかと疑問が出てくる。そのあたりを基本構想の中でもっと具体化すべき。

アンケート調査の結果等を見ると、産業振興については、重要度と比べて満足度が低い。10～20年先を見据えて計画を作っていくべき。

地域が栄えていくためには、人口構成がしっかりしていなくてはいけない。少子高齢化ではあり得ない。生産年齢人口が保たれ、次代を担う年少人口が増えていかなくてはいけない。それは、高齢者の暮らしの安心へもつながること。若者や子どもへの支援に最大の力を注ぐべき。若者の衣食住・教育・子育て・医療関係、すべてが入ってくる。それを行うには、若い人達に何が必要か、どうすればそこに住みたいという気持ちになるのか聞いてほしい。それをやることによって当然施策の選択と集中ができる。産業振興、雇用へつながり、財政も安定する。まず、目標人口の8万人が夢ではないと言えるようなものを打ち出す。子どものまちと言えるものを作ってほしい。

医療は非常に複雑になっている。先進医療・介護・障がい・認知症・精神関係・ホスピス・リハビリなど多岐にわたり、医療だけでもまちが作れる。チャンスがある。

今、太陽光に話題が集中しているが、バイオマス。本市は有機栽培に力がある。バイオマスを用いた活性化もできるのでは。

これだと住みやすい、8万人を達成できるというような柱を打ち出してほしい。選択と集中を。そうすれば、8万人を達成できるのでは。ぜひ若者を中心においてやってほしい。

- 「若者」とよく言うが、どういう人たちのことを言うのか。どのような考えの者をいうのか。一口に言ってもいろいろな考えを持った者がいる。どのような若者呼び込みたいのか分からない。

- 互いに切磋琢磨し合う人間性を持った者をいうのでは。
- 若者というのは、働いている人、子どもがいる人、あるいは20歳でも10歳でも若者。中には、良くない者もいるが、それは教育環境にも一因があるのでは。定義はいろいろとあるのではないか。高齢者から見れば、40代の人でも若者というのでは。私見だが、健全な社会を構成していく者のことと考えてもいいのでは。
- 本市は農産物を生産する北部地域が6割以上あるのでは。1次産業を主体とし、しっかりと位置づけして産業を興すべきでは。それに付帯して医療介護を整えていくことが、住みやすさにつながるのでは。農産加工やJAなど関連する所の関係や位置づけを知りたい。
- 防犯・防災の関係で。今、いろいろな意見が集約されているが、それを記号化してマッピングしていけば、防犯・防災の叩き台となる地図ができるのでは。都市計画や道路担当課が地図を持っているはずなので。交通量や通学路など地域に関する細かな情報や意見がかなりあるのでは。情報が多い所は重要道路として柔軟な対応を。
台風など災害時の避難所やその経路が重要道路と重なっているのか。これらをパソコン上で情報提供できれば、例えば校区単位など、より詳しい情報が入るはずなので、もっとピックアップできないか。
また、こうして出来たマップを専門家に見てもらうのと、住民から見るとでは、ギャップがあるはず。それらを、勉強会や講習会といった形で示してほしい。
もう1つ。日本の法律のハードの基準は、東京サイズで小さい。余裕を持ったつくりをするのであれば、日本の昔からのサイズである京都サイズを用いては。
- このような計画ものを作成する際には、まとめていく前にこのような会をもっと頻繁に行い、協議の時間を増やすべきでは。これだけのボリュームのものを討議するには時間が短く、回数も少ない。
1日中エンドレスでやってもいいくらいでは。
これだけのことをやるには、かなりの財源が必要であり、選別が必要となる。国が破綻してもどのように生き残っていくかを考えるべきでは。国が行っている事業仕分けのようなことも必要では。
無駄が多い。もっと住民と話し合っていていくべき。我慢すべきところは我慢し必要なところに投資すべき。仕分けることが必要。
計画や文章は、作る過程をもっと大切にすべき。
- P31の地図について。今回掲載されているマップでは、南側まで北部地域があるように見えるので、見せ方を工夫できないか。
北部地域について、地域のネットワークをはじめ、医療、福祉、観光面など包括的な見直しを。
- 総合計画策定の一方便革も会議等を行っており、そこでは財政面、行革面や事業仕分け的なことも行っているのでは。財源は大きな問題。それがなければ、この総合計画も夢物語では。次回の会の際には、行革関係の資料を提示してもらえないか。総合計画の内容が実行可能なものかどうか、判断材料・基準の一つとしたい。

* 事務局総括

- ・ 資料提供については、担当課に確認し検討する。
- ・ 今後の市の各種計画の策定について、住民参画の気運がもっと高まってくれば、今後もっと住民の意見を聞く場、議論を重ねる場が増えてくる、流れができてくると考えている。



第3回
まちづくり50人委員会

第3回 まちづくり50人委員会

○ 日程等

開催日時：平成23年9月4日（日） 9：00～12：10

場 所：始良公民館 大会議室・第2研修室

参 加 者：34名

9：00 開会

9：03 会の進め方について（全体説明）

9：10 基本計画案について（全体説明）

9：35 第1部 分科会

11：00 市長 あいさつ

11：07 第2部 全体会

12：10 閉会

* 本文中のページは第3回まちづくり50人委員会に提示した基本計画（案）のページで、第1次始良市総合計画書のページと異なります。

第1部 分科会

第1分科会（高齢者 子育て）

高齢者について

- ・ 地域で開催されているいきいきサロンに参加している方々が、未参加の方々に声をかけていくことが必要。
- ・ 隣近所同士の交流が一番大切である。（回覧板を届ける際の一声、直接顔を合わせての会話など。）隣近所の安心感。女性は、配偶者に言えないことをご近所に話をするこゝでの“スッキリ感”が大切。
- ・ 隣近所の付き合いがなく、老人の孤独死も懸念される。行政による“気付き”の体制の工夫が必要。
ex) 一人住まいの高齢者に対する声かけ運動や、玄関先に黄色い旗を掲げるなどの手法。
- ・ 一人暮らしの高齢者世帯に、子どもがいる世帯がどの程度いるのか。子どもから親の情報を民生委員に提供する必要があるのではないか。
- ・ 循環バスよりも循環タクシーなどが良いのではないか。
- ・ 3年ほど前に包括支援のサポーター講座を受講したが、その後の進展がない。もっと自治会内での活用、活躍の機会があれば良いと思う。
- ・ グラウンドゴルフで健康づくりを行っている高齢者が、自分の持つ“元気”をほかの高齢者に与えられるようなシステム作りを行ってはどうか。グラウンドゴルフに参加する人は、いきいきサロンにも参加している。自治会での活動など、身近なところからの活動が必要である。
- ・ いきいきサロンについて。同じような内容・メニューが多いので、参加者の意見も取り入れてほしい。

子育てについて

- ・ 建昌小学校は、いわゆるマンモス校である。教育環境の改善が必要である。建設予定地は決定しているのか。
- ・ 夜間救急体制の充実が必要である。
- ・ 保育所や学校が、子どもに異変が少しでもあると、すぐに保護者を呼び出すことが多い。小児医療についての連携が必要と感じる。
- ・ 子どもの問題を、学校任せにしているように感じる。保護者が責任をもって対処することが必要ではないか。
- ・ 保育所の待機児童の解消（P12）について、私立は定員を超える入所要望があるが、公立は定員割れではないか。免許を持った臨時保育士を雇用し、病児保育などの民間のサービスを公立も研究もすべき。公共サービスでは「確実」「完全」な事業を求めるが、実施に時間がかかりすぎる。少しずつ、コツコツとサービスの質を高めてほしい。子育ては「今」をどう対処するかが問題である。「今」をどうにかしてほしい、ということが願いである。
- ・ 公立幼稚園の定員割れ、私立幼稚園の人気には、児童の輸送体制の違いによるところが大きい。しかし、親の務めを幼稚園や保育所に任せている面もある。母親教育も必要ではないか。
- ・ 子育て支援の在り方について、子どもが小学生の時期には、もっと親が頑張してほしい。
- ・ 子育てには、お金の愛情ではない、本当の愛情が必要である。その意味から母親の力は大きい。ある程

度は学校教育での教授も必要であるが、本来行政の仕事ではないのではないかと。その意味からも、行政は、市民に何を期待し、何を担ってもらいたいかを考えてほしい。

- ・ 「道徳のまちづくりプラン」(P15) やいじめ・不登校の問題の解消(P15)には、学校側(教員)だけの管理では不十分であり、カウンセラー等の資格と経験を持った専門員の配置を充実することが必要である。退職教員のボランティアによる活用も可能である。
- ・ P17の四者連携に、各種団体の参加が必要である。実践事業の策定や新しい展開が望まれる。
- ・ (仮称)松原小学校の建設について、市の財政面を検討し、市内の小学校の統廃合についての方向性を出したうえで、建設を考えるべきではないか。
- ・ 市内の小規模校では山村留学等も行っている。現状の建昌小学校の教育環境にストレスを感じている児童のことを考えると、小規模校への分散等はあるのではないかと。
- ・ 市内の医療体制について、医療機関相互の体制集約ができておらず、医師会が“バラバラ”な感じがする。行政がリーダーシップをとって医師会に働きかけてほしい。
- ・ 行政として、地域医療に対する独自の取り組みが必要ではないか。財政支援もその一つではないか。
- ・ 10~20年前の子育てと、今の子育てはまったく違っていると感じる。今の子育ては、いざ何かあったときに、どこがどう対応するのか、解りづらく心配である。行政側が広く現状を知って、連携体制の強化が必要である。
- ・ 始良地区に高校がない。安心できる通学環境という意味では、近くに高校があればありがたい。また、鹿児島市内への通学者に対する助成制度も考えられるのではないかと。
- ・ 過去の事例や経験から考えると、高校の誘致には地元行政の強い取り組み、要望活動が必要である。
- ・ 高校への登下校について。公共交通機関の時刻設定が合っていないため利用しづらい。
- ・ 地元での雇用が充実すれば、子どもの将来に対する親の心配も軽減される。人が住むための雇用の確保が必要である。
- ・ 夜間小児医療は鹿児島市内(鴨池)に頼らざるを得ず、非常に遠い。市内に設置できないか。
- ・ 人材育成について、学校との連携による医療、農業、商業等における職場体験、見て学ぶ教育が中学生ぐらいから必要である。
- ・ 共働きが多く、日中子どもだけで留守番をしていることも多く、習慣化している。隣近所との関係が必要である。
- ・ 霧島市の児童生徒数は増えている。前田市長の弁によると子育て支援を積極的に進めているとのこと。「8万人」のためには子どもを増やすことが大切であり、そのための施策が必要である。

重点プロジェクトについて

- ・ これから、時間と予算と事業内容のバランスを検討しなければならない。
- ・ これらを短期的に行うのかどうか。というのも、市役所内で実施計画が策定される過程で、緊急度の調整の回り方や必要性の判断、優先順位の判断を誰が行い、誰が策定をするのか。各部署で予算化が行われると思うが、当然予算には議会の議決が必要であり、議員はそれぞれ“地域”を持っている。議員の力が存在している。そういう意味から、大局的な姿勢で判断、実行していくことが必要である。
- ・ P4に「コミュニティビジョンの策定」「新たな地域コミュニティ組織の創設」とあるが、どこが旗振り役となっていくのか、どう再編していくのか興味がある。全体的、総合的に自治会や各種の団体、協議会などで構成し、行政内部にもこのことを重点的に取り組めるような専門部署を設けることが必要ではないか。

- ・ 若者定住促進プロジェクトについて、住居の周辺環境整備も必要である。「家」のみへの支援では定住は難しいのではないかな。
- ・ 農業への支援について、安定した収入が確保できるような環境整備が必要ではないかな。就農支援が必要であるが、生活していけるような、ある程度の“結果”が提示できることも必要。
- ・ 地域のコミュニティ、つながりをどうしていくのか。中には、“加わるな”、“出しゃばるな”などの考えもあり、一定の距離感も必要ではないかな。また、自治公民館と校区公民館との連携が必要である。しかし、活動が盛んになると、負担が大きくなって苦勞することもある。
- ・ 地域の活動に、リーダーとなる中・高校生が参加しないし、また参加させることも難しい状況である。自治公民館による活動が必要ではないかな。
- ・ NPOについて、非営利団体とはいえ、中には特定の事業目的を持って活動している団体も多い。民間事業者との競合もあるわけであって、その意味から、NPOとの協働による活動について疑問を感じている。

計画全般について

- ・ 現実的なものと計画とのギャップが大きいと感じている。今することが必要なものは何か。短期的に「何」をするのか見えてこない感じがある。
- ・ 大型商業施設の誘致には、必ず地元商店街の反対がある。商店街への行政支援を行いながら、バランスのとれた振興を図るのが行政の役割である。
- ・ 全体的に見て、全て実現すれば住み続けたいが、難しい面もあると感じる。夢物語では残念。
- ・ 観光ガイド・まち歩きについて、文化財が非常に多く、文化財マップも充実している。ぜひ活用してほしい。
- ・ P23の市誌編纂史料集の刊行は、地道な作業ではあるが大切なことである。そのためには専門家などのスタッフの充実が必要であるが、予算は少ない。ボランティアなどの活用も必要である。
- ・ 流入人口について、これが退職者によるものなのか、子育て世代によるものなのかの統計資料はないのか。
- ・ 昭和40年代の始良ニュータウンの建設によって人口が一気に伸び、教員OBや国鉄OBが増加した。通勤上の利便性はあるが、定住したいかどうかとなると、住むにはいいが、地域には楽しく遊んだり、買い物を楽しむといったような施設が何もなく、若者の感覚による「くらしやすさ」には遠いのではないかな。



第2分科会（居住環境 防災・防犯）

災害、防災、防犯、居住環境について

災害)

- ・ ハザードマップは各戸に配布されているが、3地区とも過去の災害データの公表を。それを活かした災害への備えが必要では。
- ・ 河川の寄洲が防災上問題で、景観的にもよくない。

防災)

- ・ 緊急時と平時を分けた考え方が必要では。ドクターヘリも大事だがAEDなど身近なものの利用方法の研修や啓発が必要では。防災無線や緊急通報装置など、役所から市民また市民から役所への連絡手段、情報伝達手段の検討。

防犯)

- ・ マナーの問題、自転車の盗難対策、警察学校の利用など今すぐの対応、対策ができないか。
- ・ 帖佐駅の整備計画が掲載されているが、自転車の盗難対策も講じた整備をしてもらいたい。
- ・ 防犯灯を要望しているが、すぐに対応してもらえない。対応してもらった頃には、通学する子どもがいなくなっている。

居住環境)

- ・ 過疎地への配慮、例えば水（飲料水）の問題等について対応できないのか。
- ・ まちづくりにとって学校は基本。学校を核とした対策等は。
- ・ 過疎地にも良いところがある。小規模校などをモデルとしてやるべきこともある。

その他)

- ・ この会議は、まちづくり（ソフト）について話し合うところで、計画（都市計画）について検討するところではないのではないのか。そのつもりで委員に応募していない。
- ・ P57の松原から須崎の橋梁整備は無駄。やめてほしい。
- ・ 蒲生は川内原発から30km圏内にある。対策が必要では。
- ・ P65のランドマークは何をするのか。必要なのか。



第3分科会（産業 環境）

●座長 ○委員

産業グループの意見

- 農業について。おおよそ網羅されているが、具体的に数値で表すことは出来ないか。例えば、農業の担い手が今後どれだけ必要なか等々。現状の分かる数字とともに、目標を数値化したものも提示できないか。より、方向性が分かりやすくなるのでは。
- 一部、現況の数値を提示している分野がある。今後、市の統計書も勘案しながら、基本計画内でも、現況については数値を提示する。目標値の提示については検討する。
- 特産品について、シイタケ等の記載があるのは良いことでは。有機農業についても触れているが、前回の会でも出たが、なかなか大変と聞く。そこまでこだわる必要性があるのか。コストがかかると値段が上がり、商品価格が上昇することから、消費者が離れる。そうなる売れないので、作らないという悪循環も想定されるのでは。

物産館の整備も触れてあったが、有機野菜の販路ともなり、また地場産の安いものが売れる場ともなり得る。有機野菜については、生産から販売までの一貫したフォロー体制が必要では。
- 全体的にはまとまっているが、企業誘致については、県全体が都市圏からは遠隔地であることから、なかなか難しい。自分が就職する際にも、県内に企業がなく就職のために県外に出た。近くに企業があれば、わざわざ県外に出ることはない。雇用面では企業誘致が必要だが、企業も円高や海外進出など誘致はさらに難しい状況。

企業誘致が困難となると、基幹産業である農業を重視すべきでは。特色を活かしたあいらブランドの確立が必要。そのためには、市として重点志向をもって取り組むべきでは。

一度に行うことは難しいが、多様な主体（行政、地域、各種団体等）を巻き込み、ブランドに関する取り組みを重点志向で行ってほしい。
- 今までに協議してきたことが反映されている面もあるが、詳細な点では反映されていない点もある。農業振興の関係をもう少し取り上げてほしい。市内は約8割が水田。地域の特性を活かした農業を掲げてほしいのでは。

林業についても、蒲生のメアサ杉が特産だった。このようなものを活かした特徴ある林業を掲げては。シイタケやタケノコについても、もっと前面に出して良いのでは。

水産業についても、別府川は、昔はアユの宝庫だった。もう少し振興策を打ち出せないか。
- 産業の方針、方向づけについて。例えば、県内一や全国一といった表記を出して、方向性についてもう少し分かりやすい表記や表現は出来ないか。例えば、蒲生のクスや市内の竹林面積や始良カルデラのことなど。また、近隣のことも含めると、もっと、県内一や全国一といった面からの記載も可能になるのでは。

タケノコや竹についても、生育状況に応じた商品化、産業化ができないか。始良らしさを出せる産業は、仕事場、雇用も生むのではないか。ただし、公害が生じるような大規模な工場等は必要ないが。

環境グループの意見

- 本市は県の真ん中にあることから、通過地となっている所も多い。山間部は不法投棄が特に多いが、そのような所はえてして、道路周りに雑草が繁茂している。道路周りをもっときれいであれば、不法投棄が減るのでは。また、イメージも変わるのでは。

環境分野については、もっと具体的な取り組み内容、例えば月に○回清掃を行うなどと掲げてほしい。不法投棄については、取締まりやパトロールの強化や環境教育の推進の記載だけでは、今までの文章と同じ。

- 具体的な取り組み、例えばマイバッグ運動の推進のために、市でバッグを販売するといった取り組みは出来ないか。また、EM菌についても市で取り組みを広げることは出来ないか。

米のとぎ汁が河川等の水質汚染を広げている。合併浄化槽でない場合、そのまま川や海へ流れ込む。このとぎ汁をEM菌に変えることで、掃除にも役立つことやさまざまな利用法があることをもっと多くの人に知らせるべきでは。各自が実践できるように、市として普及・啓発が必要では。

具体的な取り組みについて、市でリーフレット等で普及・啓発を行うことは出来ないのか。一定の効果が期待されるのでは。例えば、排ガス削減の取り組み（急加速や急ブレーキを減らす等）、節電への取り組み（待機電力の削減）、節水を心がけるなど。

自治会未加入者への対応。まちだより等が配られないことから、啓発が行きわたっていない。ごみを外で燃やしている人もいる。そのような人に対する啓発についても検討を。

斎場の建て替えについては大事なこと。同時に、墓地のことについても触れられていたが、墓地が遠く、歩いて行けない、墓参りに行けないといった話を聞く。市で納骨堂の運営について、調査、検討できないか。寺院（民間）のものもあるが、宗派が異なると購入できない。宗派に関係なく購入できるような納骨堂について、市で検討してほしい。

- ごみ収集について。始良、蒲生、加治木の良い所をとって行うとのこと。公費を投じなくても、一人一人の努力で、良いごみの分別、収集体制は出来るのでは、きれいなまちづくりが出来るのでは。

先般、生活学校を通じて、市内の7、8か所で河川の水質調査を実施したが、生活排水が流れ込むところは、水質が悪く、PH値が高い。今後の環境保全の観点からもこの調査結果について、広く知らせていくべき。

先ほど、有機農業について、困難な点が挙げられていたが、次代に出来るだけマイナスの遺産を残さない観点からは、有機農業、循環型農業への取り組みも必要では。

バイオマスについては、一部の企業で取り組みが行われているが、自分達の声かけだけでは、普及は困難。学ぶ機会や啓発活動を行っていきたい。



農林水産業について

- 物産館の設置は大事だが、予定地等は。EM菌を用いた無農薬栽培等、環境にやさしい農業に市として取り組み、それを前面に出した商品展開や特産品というのは。やり方によっては、市内外から集客が見込める。ただし、需要と供給のバランスを取ることも必要。他市町村の例で、無農薬野菜で売り出したところ、供給が追いつかなくなり、農薬を使いだしたため商品が売れなくなったような事例も聞く。
- 地産地消がうたわれているが、内輪の消費、振興に終わっている感じがする。もっと対外的にPRする、売り出す、販路を拡充するような方向性を打ち出すことも必要では。県をはじめ、どこの市町村も県外でPRを行っている。内向きな表現が強すぎるのでは。
- 地域ブランドが今現在あるのか。例えば始良の○○（商品名）といったもの。
- 有機野菜のブランド化には第3者機関の認証によりJASの取得が必要。3年間、水質や土壌調査等のうで認証される。有機部会で懸命に取り組みが行われているが、後継者が少ないのが現状。ブランド化されているものがある。品物1つ1つについて認証が必要。
- 他には、早掘りタケノコ（蒲生、山田）などもある。都市圏の市場では高値で取り引きされていると聞く。
- ブランドというのは簡単に使えないのでは。さまざまな条件をクリアする必要がある。難しいと聞いている。
- ブランド化の方向は、双方あって良いのでは。
- ブランド化には2つある。
 - 1つは、県からブランドとして認定を受ける。それには、生産量や販売額について、一定の基準をクリアする必要があり、なかなか難しい。
 - もう1つは希少価値によるブランド化。
 有機農業の推進について、前回も推進すべきとの意見と、コストや生産量の問題から難しいとの意見と双方あった。

量を確保することでのブランド化と希少価値によるブランド化の2方向あるが、市として、どちらの方向でいくかは、この基本計画内では示していない。今後、検討していく。

商工業、観光について

- 環境を前面に出した企業誘致、美しいまちを前面に出したPRもあるのでは。
- 既存企業。建設業も公共事業の減少から維持が難しいと聞く。災害時の応援や草払いのボランティアなど、建設業が行っている活動もさまざまなものがある。具体的な支援について表現できないか。
- あいらびゅー一号の状況は。

- 利用率は高い水準で推移している。今年度は試験運行だが、来年度以降も継続したいと考えている。ルートや内容についても工夫したい。
- 蒲生観光交流センターが今のところ資料が置いてあるだけになっているが、物販等は。先般行った際に、物販を行わないのかと尋ねられた。
- 現在、市の直営になっているため、物販ができないのでは。10月から指定管理が始まると聞いているので、それ以降はまた内容の充実等が図られるのでは。
- 蒲生のまちなみを利用して、まち歩き、歩いてまわることができるといいのでは。
- 蒲生観光交流センターで案内している。

環境について

- 蒲生地区は、生活排水はそのまま流している状況だが、加治木、始良地区は。
- 状況は変わらない。改築、新築については、合併浄化槽が設置されているが、古い住宅は単独浄化槽等のまま。費用がかかることからなかなか合併浄化槽への切り替えが進んでいない。
- 生活排水については根本的なところを改善しなければ、水質改善は難しいのでは。しかし、下水道整備となると莫大な費用がかかる。
- 生活雑排水を農業用水に流していることが心苦しい。
- 下水道の整備が一番だが。
- 莫大な資金もかかり、また、供用開始後は、下水道料金の負担も発生する。
- 合併浄化槽については、現行の補助制度の内容をもっと充実（補助率のかさ上げ）させれば、さらに普及するのでは。
- コミュニティプラントやミニプラントによる污水处理施設の整備は。
- 始良ニュータウンや加治木町の一部でそのような形で整備されている所がある。
- 小規模の污水处理施設の整備が広がっていくと少しでもいいのでは。
- 自治会未加入者のごみ問題。収集所へのごみの持ち込み方など、行政側でも何らかの方策を考えてほしい。

第4分科会（地域づくり）

●座長 ○委員

- 加治木に居住。精神保健福祉士の資格を取ることを考えている。
基本計画については、短い間にこれだけのものをよく作ったなという感想。人口8万人を目標としているという点から、今後、子育て支援に力を入れていくことがうかがえる。
それと、自分は、障がい者・引きこもりの人たちの就労支援や社会に出る機会をつくるべきだと感じている。
- 始良に居住。子どもが5人いるため、子ども会やPTAの役員がよくまわってくる。
地域内にある組織の活動が、連携できていないため、バラバラで行われていることがもったいないと感じる。基本計画については、作ったところで終わらないで、組織づくり等を具体的に行ってもらいたい。
- Iターンで蒲生に居住。基本計画については、「県央を活かした」という理念が生きておらず、新しさもない。内容が盛りだくさんすぎるため、実際に実現できるのか疑問。出張市長室へ行ったりするが、始良市の財政が厳しく、限られた予算の中でどうまちづくりを行っていくのかと感じてしまう。全国各地の市町村のHPを見るのだが、北海道伊達市のようなコンパクトシティをつくって、役所・銀行・病院等へ一度に行けるまちであると暮らしやすいと思った。農業面だと集落営農等について、いろんな地方の取り組みをもっと行政が勉強するべきだと考える。高知県の過疎の村では、葉っぱを高齢者が生産し、インターネットを使って販売して、かなりの収入を得ているという例があるが、生きがいにもなると同時に、町の財政も潤うことになる。基本計画は、やって当たり前のことしか書いていない。無理をしないで行政のキャパ内でできることを書いてほしい。
- 蒲生に居住。まちづくりだけに限らず、子育て分野などでも、市民の意見を聞くこのような会があればいいと思った。
- 加治木町に居住。男女共同参画審議員をしている。8年ほど前に加治木で「ステップ」という会を立ち上げ、女性相談員等が集まる場をつくった。月に1回開催しており、次回で90回になる。
当初は、相談者がたくさんくるので、シェルターにしようと思っていたが、責任が重くなってしまうので、自由に集える場という位置づけにしている。100年前、女性参政権があったのは、2つの国だけであった。日本は戦後になって、ようやく女性参政権が認められた。まだ世界には、女性の権利が認められていない国があるが、世界中の人たちがつながっていく視野が求められている。
基本計画については、男女共同参画についての記述が少なく感じる。行政職員においても、女性管理職が見られず、政策に活かされる場に男女ともにいるべきだと考える。8月16日、介護保険法の改正で24時間体制が盛り込まれたが、地域へ実際に降りてくるのはいつになるのかと思う。
- 精神保健福祉士の資格を取りたいと思ったきっかけを教えてください。
- 霧島市で仕事をしていた時に、作業所でボランティアに入ってほしいとの依頼があったことがき

け。障害者自立支援法にのっとして、作業所で障がい者が仕事をしたり、集まったりしている。

始良市の人もたくさん来ており、そのような施設が始良では足りないことが分かった。一番はじめに精神病院ができたのは始良病院だったのに、その後、取り組みが進んでいない。障がい者や引きこもりを持つ家族は、悩み等を声に出せていないのではないかと感じる。(例：介護殺人が起こっていること)

加治木庁舎に空きがあるので、触れ合いの場にしたらいいと思う。

- 世代間での交流が最近は少なくなっていると言われていたが、世代間交流のやり方について、アイデアは何か持っていないか。
- 自治会活動等で個人的に思うことであるが、子ども会に入る人と入らない人がいる。入る人が少ないことで、子ども会の活動や行事ができないという問題が起こっているため、大きな悩みである。
- 親も生活のために働いているため、忙しくて行事の手伝いができないでいる。そのため、子育て支援が必要となっている。
- 老人会が花を植えているが、その後の草取り等ができないため、枯れてしまっていることも課題である。
- 花を植えるのは子どもたち、その後の管理は他のグループという形をとればいいと思う。やり方を工夫すればいい。
- 自分が参加しているひまわりサロンは、行ける人が行ってすればいいというスタイル。夏休みの間に、サポーターを連れて、子どもたちのための会を開いたが、実際に訪れた子どもは0人であった。しかし、それでいいと皆思っており、皆が集まる場ができたことが良かったと思っている。
- 蒲生下久徳のサロンでは、出席の予定になっていた人が来なかった場合は、黒砂糖等を持って、その家まで行くなど、工夫をしていると聞いている。
- 自分が参加するのは、月に1度のサークルであるが、強制はせず、ゆるやかにやっている。新興住宅地であるため、拘束を好まない人が多い。
- 埼玉県では、子ども会は子どもが主役であった。(小5・6に運営を任せる)こちらでは、親が主体となっている。どうして親が子ども会に参加しないといけないのか、疑問に感じる。
- 高校生等も忙しいと思うが、自立させるような場があればいいと思う。
- どちらかといえばゆるやかなコミュニティの方を好むのか。
- ゆるやかなコミュニティを好む。そして、何かあった時に声をかけられるような環境が良い。

- 蒲生で相談業務がある時に、くすくす館に行くと、手作り弁当を食べるために、お年寄りの方がたくさん来ていて、世間話を聞くことができる。いのししが出て困っているという話があったのだが、このようなことは、中高生の科学クラブに電線の仕掛けを頼む等で、解決できるように感じた。学校の正門には、「全国大会〇〇位」という幕ばかりを掲げているが、例えば加治木工業高校が農家の手伝いをしているというニュースを見た時に、そのような身近にある出来事を掲げてもいいように感じた。加治木にも、お年寄りが集う場があるので、声を聞くことはできる。学校教育について基本計画に書かれているが、内容は物足りないように感じた。
- お年寄りの若い頃の話は、大変勉強になる。それと、教員の採用を慎重に行ってもらいたいと感じている。教員で子どもは決まってしまうと言っても過言ではない。始良の文化レベルは低い。映画館や文化施設がない。また、資源ごみの回収について、蒲生地区でも始良方式をとり、月に1回収集場所に持って行くようになる話だが、高齢者には長い距離を思い荷物を持って行くのは、大変難しいことである。もう少し、考えてもらわないといけない。
- 資源ごみとコミュニティについて、何か考えはないか。
- 資源ごみを出せない人が出てくる。プラスチックも洗剤できれいに洗ってから分別して出すようになっているが、それらはガソリンをたくさん使って、北九州の新日鉄で燃やしているという。洗剤やガソリンを多く使うことが、エコだとは思わない。
- 始良地区がごみの分別が厳しいので、加治木までわざわざ捨てに来る人がいるぐらいである。しかし、ごみ出しができないとなれば、地域の人たちが声をかけてくれて、助けてくれると思うが。
- 大隅半島の鹿屋市に、「やねだん」という全国で注目される取り組みをしている集落があるが、やねだんのように、きっちりしたコミュニティはどう感じるか。
- 地域によって、やねだん方式ができる・できないがあると思う。
- 例えば、蒲生の漆地区は、昔ながらの田舎の景色が広がる地域だが、新しい人たちの意見も取り入れようという姿勢が見られる。地域によって、考え方はさまざまである。
- やねだん方式よりも、まずは集落営農に力を入れる方が良いのではないか。また、本当に企業を誘致するのであれば、自動車産業しかないと思っている。
- ゆるやかなコミュニティとやねだんのようなきっちりしたコミュニティ、どちらを好むか。
- 強制されると長続きしないので、ゆるやかなコミュニティを好むが、高校生等が自立するために、縦社会について気づかせる場も必要だと感じる。
- 地域づくりの在り方について、委員の皆さんにお尋ねしたところ、人から強制されず、自分たちで集

まっでできる活動があればいいということであった。高校生等の若者に活躍の場を作ることも重要だと考えるということで、これは学校教育までつながる話であると感じた。

- オールマイティーを望まず、いろんな能力を持った人たちが集まって、自分にできることをすればいいと思う。若い人の中にも、農業をしたいと考えている者はいるので、そのような意見を大切にす。大学に行く・行かないも自由を選べる社会になればいい。受験制度そのものに疑問を感じており、お金がかかりすぎることも問題であると思う。
- 集落営農をするので補助金をもらう、また、田を畑に変えてできた生産物を販売しようとする。でもその販売をする場がないことが多いので、その販売まで考えた仕組みづくりが重要であると感じる。農業は天候等に左右されるため、不安定である等、問題はたくさんある。
- 有機農業センターのようなものができたら、若者にも農業を理解してもらえるかもしれない。
- ほかに目を向けてみるとマルヤガーデンズで映画を見て、農業をしていくためのミーティングをしている等、学ぶ場はある。
- 最後にお伝えしたいことで、高齢者ボランティアに子どもを見てもらうことはどうか。児童クラブのように、子どもたちの受け入れ先になってもらえれば、高齢者にも子どもにとってもいいと思う。しかし、そのためには、お年寄りとの交流が必要であり、しっかりと信頼関係を築いて、初めて成り立つ仕組みだと思ふ。
- 子育ての支援をもっとしっかりしないと、難しい問題である。公民館に誰かがいつもいて、親がいない時は、子どもたちを受け入れる体制をとってもいいのではないかと思ふ。



意見のまとめ

■ 子育て支援に現在力を入れている

- ・就労の問題
- ・引きこもりの問題

集える場が必要

- ・霧島市のメンタルクリニックでボランティアをした
(障がい者の自立を支援する作業所)
利用者の中に始良市の住民もいる→始良にも施設が必要

障がい者の家族は要望の声が出せない

障がい者が社会に参加する(出来る)きっかけづくりをしたい

高齢者・障がい者・子どもがともに集える場所がほしい



サポートする人が必要

- ・施設……市内の住民が行きたくなるものでなければ市外からは来ない
- ・若者の参加(参画)がない

■ 子ども会、PTAの役員を受け持つ機会が多い(子ども5人の母)



地域との関わりが少ない(薄い) → 地域の高齢者との交流が少ない

【問題】子どもがいるのに子ども会に加入しない世帯



活動に支障



子ども
母親 少年団
仕事

- ・若者がつながる場(つながりを持てる場所)がない
若者が運営する集える場所があれば良い

→ ほしい

マルヤガーデンズのシネマがヒント

- ・総合計画について
具体化することを望む

- ・国際交流の観点にも触れる

- ・第2回まちづくり50人委員会まとめ中のp4中段文中の
「地域コミュニティセンター施設を活用し、子どもをみてる」
→意味がわからない

■ I ターンで現在に至る

- ・基本理念 「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり」が計画案に活かされていない



文化施設がない (映画館ない 公園少ない)

- ・内容が盛り沢山すぎる → 財源 (財政) は大丈夫なのか?
- ・計画書として文章に表現したに過ぎないのでは
- ・始良市の「核」になるものを創出するべき

始良市と言えば○○○と一言で表現できるもの

例) 北海道伊達市の例

コンパクトなまちづくり

基本的にはまちの設計である

くらしやすさがポイント

- ・集落営農の前例など参考にできる
- ・まちおこしの手法を調べて取り入れる (真似をする) 事が必要
- ・子ども会
子ども会は子どもが運営するべき
親 (大人) が介入しすぎる……問題
- ・地域づくり……住民全員でつくる祭り 例) 手筒花火の祭り
- ・学校教育現場に問題がある
教育と文化のつながりが大切
- ・ごみ収集問題
資源ごみ……何が問題で今の方策が正しいのか調べるべき
分別収集の方法は高齢者の負担が増える

■ ・子どもの関わりで地域とのつながりがある

地域の活動: 世代間交流 (月1回 第3土曜日 蒲生地区)

内容 花壇の手入れ等

参加者 子ども会と高齢者

地域の活動に縦のつながりが築かれていない

高校生&中学生&小学生 → 自分たちで活動することが大切

- ・ゆるやかなコミュニティについて

強制されたものは長続きしない

自分たちで集まるコミュニティが心地よく好ましい

そこに若い者 (高校生) が入ってくるのが望ましい

■ 男女共同参画の推進の活動

- ・加治木でステップという集まりを行っている（月1回開催 90回を数える）



自由に語れる場である

- ・サロンひまわり会

子どもとの交流を目的とした活動も行っている

企画しても子どもの参加の無い事もある→問題ない（問題としない）

集まった者が語れる場となり有意義

ゆるやかに活動 している

↑ 行政がコミュニティをつくろうとしている

《キーワード》

- ・日本は社会保障が不十分



生れてから死ぬまでの事………国が面倒を見てあたりまえではないか

- ・人権

女性の参加（具体的には行政（市役所）に女性職員が少ない）

- ・職（雇用）の問題

雇用の少ない（職の少ない）中で業種によっては地域で排除している



（セールスマンお断りなど）

良くない傾向である

- ・自治会

昔は地域を良くしようと努力した（若こま会）

- ・若者の参加

高校生で出来る社会活動が必要

蒲生のくすくす館で世間話からヒントを得た

高齢者の世間話：いのししが出て困る

→高校生でも電柵造りはできるはず

例) 加治木工業が地域に役立つ活動を行っている

世間話から出てくるヒント

第2部 全体会

全体討論

市長あいさつ（要旨）

- ・ 総合計画書等は行政のみが作るのではなく、市民に情報を公開し、声を広く聞くことが、共生協働の基礎。
- ・ まちづくり50人委員会は今回で最終回だが、基本理念の達成のためには、今後もこのような機会が必要と考える。
- ・ 財源や行政資源の再分配だけでは市民の幸せの実現は難しい。
- ・ 多様な主体との協働が必要。

座長● 委員○

■ 各分野に関する意見

高齢者について - 特になし

子育てについて - 特になし

居住環境について - 特になし

防災・防犯について

○ ここ数か月でコンビニが林立している。交通量が多く、マナーの悪さも目立つ。事故が起こらないことが不思議な状況。事故が起こる前に対策を講じることは出来ないのか。また、環境問題や電力不足等が取り沙汰されている中、次々とコンビニができて行くのもどうなのか。進出する事業者に包括的な視点から話をする事はできないのか。

交通安全に関する教育は家庭でも必要。被害者や事故を減らすための取り組みを。

● 民間資本が次々と入ってくることで、地域との間での問題が発生する懸念はある。人が多い所に店を出したいとの企業サイドの意向もある。コンビニはまだ増える方向にあるのではないのか。

産業について

○ 基本計画案の74ページに地域ブランド創出への取り組みとあるが、どのようなブランド品があるのか。

● 農産品の力が強いのでは。始良市の主要な作物は米と牛。加治木のキャロット製品や蒲生の早掘りタケノコなどもある。

○ 帖佐人形等についての商品化は。基本計画案では、行政がお金を出す方向にしか書かれていない気がする。始良に何かブランドと呼べるようなものがあるのかと思ってしまう。観光面にもプラスになることから、ブランド品の明確化を。

● ブランド化については地域とともに取り組むべきとの意見もあったとのことだから、そのような取り組みができることが良いのでは。

環境について

- 燃えるごみは曜日ごとに搬出するようになっているが、近所に住む者で、燃やす者がいる。市内を巡回し、取り締まりや指導の強化を。
- いろいろな人にごみの分別収集について、普及・啓発が必要では。ごみに関する教育を推進すべき。行政、地域が一体となった取り組みを。
- ごみについては、学校できちんと教えていくべきでは。教育が必要。子ども達が高齢者に伝える手法というのも大事では。
- 先の震災で、防災においても、防災教育の重要性が叫ばれ、また、実践された事例が釜石市であった。子ども達から高齢者へという伝え方も重要。
- 釜石の奇跡は伝えるべきこと。これにならない、本市に関する自然災害の歴史についても市民に伝えるべきでは。それを踏まえた、災害、防災対策ができるのでは。
- 遺跡や遺構の発掘においても、過去の自然災害の痕跡が出てきている。

地域づくり

- 男女共同参画や歴史を活かした文化の育成といった点からの意見等はないか。
- 8月15日に改正介護保険法が成立し、24時間ケア体制が創設された。できれば、自分の家で最期を迎えたい、尊厳のある死を望んでいる人が多い。この望みのためには、このような体制は自分たちの願いでもあり、目標でもある。今は生活のために働いている人が多く、自宅での介護等は難しい。待機高齢者の問題もある。至れり尽くせりの介護ではなく、出来る限り自分のことは自分で行うような介護の在り方が必要では。また、福祉先進国は、このようなケアの体制に携わる人は公務員や役所の職員だったりする。今後ケアに関わる人員が必要となる。安心したケア体制、地域で最後まで暮らすためにも、携わる人が離職しないような環境づくりが必要では。

全体的な意見、総括等

- 始良市の目指す人口8万人について。第3回では議論に挙がらなかったが、全国的にもまた県においても人口は減少傾向。しかし、隣の霧島市では児童生徒数が増加している。子育て支援に対する取り組みを充実させるべきでは。学力向上についても取り組みが必要であり、医療福祉についても安心できる体制の構築を。行政改革大綱には職員定数の管理等に関する記載はあったが、特別委員や議員に関する記載がない。報酬等の取り扱いなどについて具体的に踏み込まないのか。今後3か年の実施計画を作るとのことだが、予算の裏付けや人員は。また、建物を作るのであれば土地は。重点プロジェクトを見ると、お金があるように見える。基本計画案では実施計画に結び付かない。このままでは、50人委員会はただの言いっ放しで終わる。これを最後とせず、実施計画まで見届けたい。市で行わないのであれば、自ら希望者だけ募って本会を実施したい。
- 行政評価にかかる事項。今後こちら側の検討事項としたい。なお、実施計画についてはオープンになっている。昨年度、第1次実施計画を策定して、議会にも配付し、公表している。関心のある方にはお渡しできる。
- 障がい者について。重点プロジェクトにも記載のあった、(仮称)あいら子育て支援センターに関する括弧書きの中に子どもの養育相談に関する記載があったが、同様に療育相談についても追記してほしい。37ページの「障がい者が地域で安心して暮らすための環境整備」の主要施策の内容について、国の施策

や既存の施策の記載がほとんどで、市独自の施策の記載がない。例えば障がい児の親の集まりに対する支援、地域内の障がい児・障がい者の支援拠点を作る、障がいについての正しい理解を広めるなど施策の検討および追記を。

41、42ページの地域福祉の推進については、相互理解の視点を入れてほしい。また、ニーズの掘り起こしや地域の連携など市としての取り組みを記載できないか。

106ページに職員削減の記載が出ているが、行政内で専門人材の育成や専門職の登用について検討すべきでは。

- まちづくりは文章ではない。実施計画の策定に参加できないのは何故か。実施計画についても、住民がチェックすべきではないか。このままでは、実施計画はただの公共工事の羅列に終わるのではないか。基本計画案では具体的な中身が見えない。
- 実施計画の策定については、バランスを見ながら行っていることから、住民参加による策定は現時点では難しいが、今後の課題、要望として受ける。
- その施策が必要かどうか審議する場を設けてほしい。
- 行政評価の件については、行革の中で取り組みが示されるようになっている。その中で意見を出していただく機会がある。
- 無駄が多い。本当に必要なものに投資をすべきであり、その判断をする場に参加させてほしい。
- こちらも、意識している部分であることから、そのような場の提供や参加等について検討する。

- さまざまな問題について、市役所に行って聞かなければならないことが多いが、各課ごとに1人でもプロをつくることは出来ないのか。

行政の最大の責務は市民の生命、財産、人権を守ること。先の東北大震災のような災害に対しどういった対策を取るのか、何かあった時にどのように対処するのか。本市も桜島や新燃岳などがあり、災害は他人ごとではない。

どのような施策を行うにもエネルギーが必要だが、それに関する記載が盛り込まれていない。各自治体とも取り組みが始まっている。

行政の最大の責務が何であるかということを考えながら、地域住民の声を心で聞けるような取り組みを。集約した意見を反映してほしい。

- 意見を集めて、実施や対応については各課でというのでは、本会にはただ計画を示すだけで、中身が見えない。今後、経過や状況について提示してほしい。

- 意見を客観的に聞いているが、本会のテーマはまちづくりではないのでは。住みやすさということがテーマだったのでは。多くの話が都市計画の話となっていないか。細かな提案等は小学校区単位などで、単純なまちづくりの提案といった形式でできないか。

- 昨今のまちづくりは、都市計画的な面だけでなく、福祉等も含んでいる。

行政評価にかかる件については、今後検討する。





アイメール

アイメールについて

(1) 趣旨

本市では、鹿児島県で一番くらしやすいまちづくりの実現に向けて、まちづくりに深い関心を持っている方から、市政全般について幅広くご意見をいただき、始良市総合計画の策定に反映させることを目的に「アイメール」として、以下のテーマに基づきご意見を募集しました。

(2) 意見募集の内容

項目	まちづくりのテーマ
高齢者	医療体制、地域での介護、生きがいづくり、高齢者施設など
子育て	保育所・幼稚園の充実、学校教育、学童保育、子どもの見守り体制など
居住環境	道路、街路・防犯灯、用排水路、公園、公共交通など
防災・防犯	防災設備、災害や緊急時の情報・避難体制の充実、防犯対策など
産業	農林水産業、商工業、観光、特産品、雇用対策など
環境	ごみ処理、リサイクル、不法投棄、河川浄化対策など
地域づくり	地域の活性化、人材育成、共生協働によるまちづくりなど
その他	上記7つのまちづくりのテーマに対する意見またはまちづくり全般に関する自由意見

(3) 募集期間

平成23年4月1日（金）から平成23年5月31日（火）まで

(4) 意見の提出方法および記入事項等

■ 必要事項

①氏名 ②住所又は小学校区 ③年齢又は年代 ④性別

○ 提出方法

- ◇ パソコンから（フリーメールアドレスからも可）
- ◇ 携帯電話から（QRコード対応）
- ◇ 郵送、FAXまたは持参（持参は企画政策課および加治木・蒲生地域振興課）

(5) 周知方法

- ・市報あいら
- ・市ホームページ
- ・新聞記事掲載

意見概要

◆意見数 (件)

高齢者	子育て	住居環境	防災・防犯	産業	環境	地域づくり	その他	合計
1	0	4	1	2	3	0	1	12

◆提出方法 (件)

電子メール	郵送	合計
8	4	12

◆意見概要

高齢者

校区	年代	性別	ご意見等
西始良	70代	女	<p>介護や見守りを必要とする高齢者、体の不自由な方々を持つ家庭がますます増えてきている。介護者は毎日緊張状態にあることを余儀なくされ、その身体的、精神的疲労は計り知れない。</p> <p>障がいの程度、内容、体の特徴など一人一人が違っているので、介護の在り方もさまざま。介護保険を利用し公的サービスを受けられることは有難いが、いろいろな制約があって緊急時に間に合わないこともあり、困る場合がある。お祝いなど期日が決まっている場合は別だが、葬儀など急な場合に受け入れてもらえない。</p> <p>介護は難しい。介護の仕方を身に付けることも望まれる。降りかかってくる介護について市民を対象に家庭介護者の方々に介護教室など、老人ホームでもいいし、社協や行政でも計画し指導してもらいたい。</p> <p>また、介護者の健康管理も十分指導していただき、長期にわたる介護が体に無理なく行えるようお願いしたい。</p> <p>在宅介護支援センターを広く周知してもらいたい。地域の民生委員、老人クラブ、自治会の活動団体の方々が介護を必要としている人々と向き合い、声かけをしていただいたり、時々訪ねていただき会話をしながら、介護の理解を深めていただきたいと願う。</p>

住居環境

校区	年代	性別	ご意見等
帖佐	40代	女	行き止まりや私道、狭い道路の解消を。
帖佐	40代	女	アパートが次々建っているが、自治会加入者も少なく、治安面や交通量など不安を感じる。

<p>柁城</p>	<p>50代</p>	<p>女</p>	<p>○自転車道の整備を 現在、自動車道はバイパス等が整備され、どこへ行くにも車では移動しやすくなっている。合併した3地区を結ぶ道は平坦地が多く、距離的には短いので、加治木から帖佐や蒲生に自転車で出かけたと思うことがよくあるが、バイパスなど大きな道路を通った分、自転車等での行き来は安全面で心配。自転車は不安定な乗り物なので、「安全な走行幅を考慮した舗道、自転車道」の整備を期待したい。 そして「自転車で安全に通れる道路マップ・お勧めのウォーキングロードマップ」等ができれば、車だけに頼らない健康な住民が増えるのではないかと。 ○清掃活動について 始良市の公園というのが決まり、その公園を清掃他「愛護作業」をすると「報償金」が出るようになると聞いています。加治木地区では、昔から地域の神社等を各自治会で協力して清掃活動等行ってきたよき伝統がある。「報償金」が出るというのは、自治会としてはありがたいことかもしれないが、報償金が出るほうがメインになって昔から引き継いできた神社等の清掃がおろそかになるのではと気がかりだ。 高齢化が進みさまざまな活動が停滞気味の今、あれもこれも、はたして可能かと感じている。団地内にできた小規模の公園等については、「子ども達の活動」の一環とするのが適当ではないかと思う。 「護国神社」は、「加治木の歴史を感じる場所」だが、清掃活動だけでは不十分なのか、以前からすると<small>つた</small>等<small>が</small>石垣の形が全体的に崩れてきているのを感じている。</p>
<p>西始良</p>	<p>70代</p>	<p>女</p>	<p>社会参加をとよく聞く言葉ですが、地域での生活（参加）を実現するには、住宅改善による住環境の改善であると思う。バリアフリーの計画による改善がなされなければ、住居から外へ、そして地域社会に参加することは難しい。 地域での会合に是非出席をとの通知があるが、集会所に入ることは不可能です。(障がい者の方々は特に。)市の所有の集会所等についてはバリアフリーにしていきたい。</p>

防災・防犯

校区	年代	性別	ご意見等
<p>西始良</p>	<p>70代</p>	<p>女</p>	<p>高齢者、障がい者の方々の避難の在り方について、もっと詳しく示してもらいたい。(地域で検討されることも) 〈参考〉 (地区で)担当者制を設けて、実施されたこともありました。1人について2名の担当者が決まっていて、台風の時など電話をくださってすぐに駆けつけて下さったとのこと。現在は高齢者の方が多く、この様な活動は行われていない。</p>

産業

校区	年代	性別	ご意見等
—	—	—	市有地を有効利用したらどうか。役所内に場所と借地料金とか掲示してもらえれば借りやすいし、少しでも利益があるのでは。置き場などを探して人は沢山いると思う。
柁城	40代	男	<p>沖永良部島から4月に転入した。</p> <p>沖永良部島でダイビングサービスを営んでいて、観光協会にも属している。そこで始良市の観光でダイビングをアピールしていただけたらと思いメールした。錦江湾には無人島もあり、イルカもよく見かけると話を伺っている。鹿児島島の住民や他県にもイルカを見ることができる海としてアピールしてみてもどうか。</p>

環境

校区	年代	性別	ご意見
帖佐	40代	女	自治会の資源ごみ回収をなくして、鹿児島市方式のように指定曜日に、ごみステーションへ出せるようにしてほしい。今はいいが老後が不安。不法投棄には、懲罰を。すばらしい山田のかかし人形の効果はあるのか。
柁城	50代	女	<p>「環境、エコ全般」について市民が「先進の情報に触れる機会」を増やす。県内にある他の自治体、例えば鹿児島市「環境未来館」等利用させてもらってもいいのでは。単発でもよいと思う。(自治体内施設にこだわる必要ないと思う。学ぶための新しい箱物は必要ない。)</p> <p>3年ほど前から「ダンボール堆肥」、最近「EM」を公民館等で学び自宅でやっているが、どちらもやり始めるとおもしろい。「食べ物を捨てるという罪悪感」を持つことがなくなり、冷蔵庫の中も以前とするとすっきりし、「精神衛生上」もよいと感じている。</p>
西始良	70代	女	病気の高齢者世帯は資源物の搬出が悩みのタネです。現在のごみステーションを上手に活用する方法はないか。市で、いろいろと検討中とのことだが、早く決まってほしい。

その他

校区	年代	性別	ご意見
柁城	50代	男	まちづくりについて、全般的に市としての考え方を聞きたい。

第1次 始良市総合計画 提言集・資料集

平成24年3月発行

編集・発行／始良市 企画部 企画政策課

〒899-5492 鹿児島県始良市宮島町25番地

TEL 0995-66-3111

FAX 0995-65-7112

ホームページ <http://www.city.aira.lg.jp/>



自然と共存する始良



始良市
AIRACITY



いつか
希望の花を